

上田市文化財調査報告書第66集

浦田 A・宮脇遺跡

緊急発掘調査報告書

1998

上田建設事務所
上田市教育委員会

浦田 A・宮脇遺跡

緊急発掘調査報告書

1998

上田建設事務所
上田市教育委員会

序

上田市は長野県の東に位置し、古くから東信濃の中心地として栄えてきた地域です。古代においては、市域の東に信濃国分寺が置かれていました。また、その近くに信濃国府も置かれていたと考えられており、信濃国の政治・文化の中心でした。中世においても、後に塩田平は信州の学海と呼ばれるほどの学問の中心地であり、特に鎌倉時代には信濃の国の守護所が置かれていたと考えられています。近世においては上田城を中心として城下町が繁栄していました。上田は、このように古代から現代に至るまで、地域の政治・経済・文化を担ってきましたが、何故地域の中心として発展をしてきたのかを知る手がかりは有形文化財・無形文化財及び埋蔵文化財によるところが大きいと思われます。

この度、国補道路改良事業の工事箇所が埋蔵文化財の包蔵地である「浦田遺跡」「宮脇遺跡」にかかることが判明したため、この工事に先立ち緊急発掘調査を行いました。調査の結果は弥生時代から平安時代にかけての竪穴住居や堀立柱建物などの遺構や、土器・石器などの遺物が多く発見され予想を上回る成果を上げることができました。

近年、様々な開発に伴って発掘調査が行われていますが、そのほとんどが破壊を前提とした「記録保存」の為の発掘調査であり、残念ながら調査後姿を消してしまうのが現実です。埋蔵文化財は、文献資料の無い時代や少ない時代の歴史や文化を追求すること、文献資料として残されていない事柄を解明するのには必要なものです。さらに、郷土の歴史を具体的に物語るものとして地域住民の皆さんを勇気づけ、身近な生涯学習の教材となることを確信いたしております。

最後になりましたが、発掘調査から整理作業・報告書刊行に至るまで深いご理解と御協力をいただきました、上田建設事務所、関係諸機関、連日熱心に調査に参加して下さった大勢の市民の皆さん、関係研究者の皆さんに対し、心から敬意と感謝を表する次第であります。

平成10年3月

上田市教育委員会

教育長 我妻忠夫

例 言

- 1 本書は、長野県上田市大字築地字浦田と上田市大字吉田字宮脇における平成8年度浦田遺跡と宮脇遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国補道路改良事業の実施に先立ち、上田建設事務所の委託を受けて実施した。
- 3 調査は、上田市（上田市教育委員会文化課）が直営で実施した。
- 4 調査は、発掘調査から遺物整理・報告書刊行まで含めて1996年（平成8年）4月8日から1998年3月20日まで実施した。
- 5 遺構の実測は尾見智志・小笠原正・荻野れい子・春原かずい・中村久子・保屋野道子・宮尾美代子・山浦幸子が行い、一部を浦田遺跡は朝日航洋(株)に、宮脇遺跡は(株)パスコに委託した。トレースは川上けい子・田畑しず子・松野ひろみ・保屋野道子・山浦幸子が行った。
- 6 遺物の整理・復元作業は尾見智志・小笠原正・池田育子・上原祐子・金沢修治郎・川上けい子・甲田五夫・塩沢むつき・鈴木義房・相馬敬子・高桑豊治・高木めぐ美・滝沢七郎・田畑しず子・田村雄二・中島昭吾・松野ひろみ・保屋野道子・三井富美子・山浦幸子・山越よし・横井順子が行った。
- 7 遺物の実測は尾見智志・小笠原正・上原祐子・田畑しず子・田村雄二・横井順子が行った。また、石器の一部を(株)写真測図研究所が行った。トレースは川上けい子・田畑しず子・松野ひろみ・保屋野道子・山浦幸子が行った。
- 8 本文の執筆は尾見智志が行った。遺構・遺物の観察も尾見が行った。
- 9 版組は尾見智志・松野ひろみ・高木めぐ美が行った。
- 10 遺構・遺物の写真撮影は尾見智志・小笠原正が行った。
- 11 調査に係る基準点測量は浦田遺跡・宮脇遺跡とともに(株)みすず総合コンサルタントに委託した。
- 12 調査に係る資料は上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 13 本書の編集刊行は事務局（上田市教育委員会文化課）が行った。
- 14 本書が上梓されるまでには、非常に多くのの方々や諸機関のご理解・ご協力を賜った。以下ご芳名を記して深く感謝の意を表したい。（順不同・敬称略）
長野県教育委員会文化財保護課・上田建設事務所・塩入秀敏・児玉卓文・坂井美嗣・青木一男・堀田雄二・桜井松夫・和根崎剛・助川朋広
- 15 本調査に係わる事務局の体制は次のとおりである。

教育長	内藤 尚（平成9年3月31日退任）
	我妻忠夫（平成9年4月1日着任）
教育次長	荒井鉄雄（平成9年3月31日退任）
	宮下明彦（平成9年4月1日着任）
文化課課長	松沢征太郎（平成9年3月31日退任）
	川上 元（平成9年4月1日着任）
文化財係長	岡田洋一
文化財係	中沢徳士
	尾見智志（浦田・宮脇遺跡担当）
	塩崎幸夫
	久保田敦子

久保田浩（宮脇遺跡担当）

西沢和浩

清水 彰

小笠原正（浦田遺跡担当）

嘱託 望月貴弘（平成9年4月1日着任）

古野明子（平成9年4月1日着任）

松野ひろみ（平成9年4月1日着任）

16 発掘調査・整理作業に参加・協力していただいた方々（順不同・敬称略）

池田育子・上原祐子・小沢幸子・春原かずい・川上けい子・金沢修治郎・甲田五夫・小山倍子・小山幹雄・酒井禮子・佐野和男・塩沢むつき・鈴木義房・相馬敬子・高桑豊治・高木めぐ美・瀧澤章子・滝沢七郎・田畑しず子・中島昭吾・成沢伯・西沢貞雄・西沢勝・野田三雄・保屋野道子・柳沢栄治・山浦幸子・山崎透・吉敷美根子・吉敷良一・中村久子・荻野れい子・三井富美子・宮尾美代子・山越よし・横井順子

17 今回の発掘調査により、様々な遺構・遺物が検出・出土した。遺構については主なもののみを掲載した。また、遺物についても主なもののみを掲載した。

< 目 次 >

I 浦田 A 遺跡の調査

第一章 調査の経過

第一節 調査に至る経過	1
第二節 調査の経過	2
第三節 調査日誌(抄)	2

第二章 遺跡の環境

第一節 自然的環境	3
第二節 歴史的環境	3

第三章 遺跡の調査

第一節 遺跡の概要	7
第二節 遺構	9
遺構観察表	45
第三節 遺物	48
遺物観察表	93
第四節 まとめ	119

写真	120
----	-----

II 宮脇遺跡の調査

第一章 調査の経過

第一節 調査に至る経過	132
第二節 調査の経過	133
第三節 調査日誌(抄)	133

第二章 遺跡の環境

第一節 自然的環境	134
第二節 歴史的環境	134

第三章 遺跡の調査

第一節 遺跡の概要	138
第二節 遺構	140
遺構観察表	154
第三節 遺物	155
遺物観察表	163
第四節 まとめ	168

写真	169
----	-----

凡 例

[遺 構]

- 各遺構の略称は次のとおりである。
SB…竪穴住居・竪穴状遺構 ST…堀立柱建物 SK…土坑 SD…溝状遺構
- 遺構実測図は原則として原図1/20、縮尺1/3である。
- 遺構が時代の新しい遺構、あるいは掘乱等によって破壊を受けプランが明確でない場合は古い遺構を破線で示した。
- 遺構の主軸方向は、国家座標の北とのなす角度で示した。
- 焼土は網点のスクリーントーンで示した。
- 遺構写真図版の縮小は任意である。

[遺 物]

- 土器は縮尺1/3を原則とした。拓本は1/2を原則とした。石器等は1/3を原則とした。例外はスケールで示した。
- 土器の実測方法は4分割法を用い、右側1/2に断面及び内面を、左側1/2に外面を記録した。
- 赤色処理のある遺物はスクリーントーン  で示した。
- 黒色処理のある遺物はスクリーントーン  で示した。
- 遺物番号は実測図版番号及び写真図版番号と一致している。
- 遺物写真図版の縮小は任意である。

[観 察 表]

- 遺構観察表の出土遺物番号は図版の遺物番号及び遺物観察表の番号と対応する。

No	時 期	平面形	炉又はカマド	柱 穴	その他の屋内施設	出 土 遺 物	備 考

- 遺構観察表の主軸方向は原則として北を基準としている。
- 土坑の観察表は図示されている遺物が出土しているもののみを表示した。
- 遺物の観察表の遺物番号は図版の遺物番号と遺構観察表の出土遺物番号と対応する。

No	出土遺構名	A器種 B器形 C文様 Dその他	a色調 b胎土 c焼成	残 率

- 石材については尾見智志が鑑定した。

I 浦田A遺跡の調査

第1章 調査の経過

第一節 調査に至る経過

平成7年度秋、上田建設事務所より国道143号線バイパスを建設したいとの申し出があった。建設予定地について調べたところ、浦田遺跡と宮脇遺跡の二つの周知の遺跡が破壊される恐れのあることが判明した。そのため保護協議を行い、下記の計画で平成8年度の発掘調査を実施することにした。

発掘調査計画書

発掘調査地	上田市大字築地字浦田・大字吉田字宮脇
遺跡名	浦田A遺跡・宮脇遺跡
遺跡の状況	地目(水田)・破壊状況(一部破壊)
調査の目的及び概要	国道143号線バイパスの施工に先立ち、5,000㎡以上(浦田A遺跡2,500㎡以上・宮脇遺跡2,500㎡以上)を発掘調査して記録保存をはかる。 遺跡における発掘作業は平成9年3月25日までに終了する。 調査報告書は平成10年3月25日までに刊行するものとする。
調査の作業日数	発掘作業130日・整理作業130日・合計260日
調査に要する費用	26,820,000円
調査報告書作成部数	300部(平成9年度刊行予定)
調査の主体者	上田市
その他	報告書作成は、平成9年度とし別途協議する。

その結果、平成8年4月8日に上田市は上田建設事務所と委託契約を結び調査に着手した。

第二節 調査の経過

(1) 平成8年度の経過

本年度に係る発掘調査の総事業費は浦田A遺跡と宮脇遺跡を合わせて22,104,000円にて行われた。調査の結果、総事業費は先のとおり減額された。発掘調査は浦田A遺跡については平成8年9月24日から行われ、平成9年1月24日には終了した。平成9年1月24日から平成9年3月25日までは整理作業を実施した。

(2) 平成9年度の経過

本年度に係る整理作業・報告書作成作業の総事業費は15,492,000円にて行われた。作業は、平成9年4月17日より行われた。平成10年3月20日には本書を刊行して調査を終了した。

第三節 調査日誌（抄）

(1) 平成8年度

1996年（平成8年）

- 9月20日 調査着手。表土剥ぎ。
- 9月24日 仮設ハウス・仮設トイレ等搬入。
- 10月1日 機材搬入。
- 10月2日 遺構検出作業を始める。
- 10月15日 メッシュ杭打ち・基準点測量着手。
- 10月31日 遺構掘り下げ開始。

1997年（平成9年）

- 1月20日 航空写真撮影。
- 1月21日 機材等撤収作業開始。
- 1月24日 信濃国分寺資料館にて整理作業開始。
- 3月25日 平成8年度の作業の終了。

(2) 平成9年度の経過

1997年（平成9年）

- 7月1日 信濃国分寺資料館にて報告書作成作業を開始。

1998年（平成10年）

- 3月20日 報告書刊行

第二章 遺跡の環境

第一節 地理的環境

上田盆地は、千曲川流域で河川の勾配もきつい地域に属する。上田市のほぼ中央を流れる千曲川を境として東方を総称して川東地方とし西方部を川西地方と呼ぶ。

川西地方は、浦野川流域と産川流域のつくる盆地性平野である。川西盆地は川西丘陵及び福田段丘台地によって塩田平と浦野平野とに分かれている。この浦野平野は北を子嶺嶺岳（こまゆみだけ）・飯縄山や城山の連なる川西山地に、南を夫婦岳から東に次第に低くなる川西丘陵によって囲まれている。また、小牧から岩鼻にかけて千曲川の沖積氾濫原が続き、その南方の小牧から上田原にかけては、千曲川の第二段丘面が続いており、この段丘面の西端である上田原台地は、塩田平から流れてくる産川と7～10mの段丘崖によって接している。また、この上田原台地の北端は対岸の山口との間に、約1kmの狭隘部（きょうあいぶ）をつくり、そこで塩田方面から流れてくる産川と青木方面から流れてくる浦野川が合流して、千曲川に注いでいる。浦野平野は河岸に微高地の自然堤防も認められ、後背湿原上には扇状地の形成もある。この沖積扇状地は早い時期に成立したと思われる。よって、歴史時代に入ってから千曲川の氾濫の害を受けなかったところであると考えられる。

また、上田盆地は、中小河川の流量は少なく溜池が表象するように、寒暖の差が激しい内陸性の気候を呈する。雨量は乏しく、年間降水量は1,000mm以下の寡雨地帯である。

浦田遺跡のある築地地区はその産川と浦野川が合流する地点にあり、沖積扇状地上に微高地や後背湿地が認められる。また、両河川の砂礫質壤土が堆積しており、その下に湖成層（塩田層）・青木層・別所層が堆積しているものと思われる。湖成層は上田盆地が第四紀に湖沼であった当時の堆積物からなる。青木層は砂岩・礫岩層とそれに貫入したふん岩からなる。別所層はほとんど黒色頁岩からなり固結度も高く、その中に径10cm内外の石灰岩質の結核を含んでいる。また、城山に露出している別所層には石英や黒くて薄くはげる黒雲母が入っている白っぽい流紋岩が入り込んでいる。別所温泉は、この別所層に貫入したふん岩の岩漿（がんしょう）が熱源である。

浦田遺跡では土の堆積があまり認められず、基本土層は耕作土である表土の直下に河川等の影響による砂礫質壤土が堆積しており、その土層のなかに黒褐色の落ち込みとして遺構が存在していた。その為、表土を含め包含層はほとんど形成されていなかった。

<参考文献>

上田小県誌刊行会「上田小県誌（第四巻自然編）」1963

上田市立博物館「郷土の地誌 上田盆地」1979

信州理科教育研究会「大地は語る」1994

第二節 歴史的環境

浦野川水系にも多くの遺跡が存在している。旧石器時代の遺跡は確認されていないが縄文時代から弥生時代・古墳時代・奈良平安時代、それ以降の時代の遺跡も含めて225遺跡ほどある。

縄文時代の遺跡は草創期の特徴的な資料とされる有舌尖頭器が平成8年の浦田B遺跡の調査で見ついている。この石器は土器を伴わない単独出土であり、この周辺一帯が当時の狩猟場であったとの推定が可

能である。早期では塚原遺跡（以下、上田原遺跡とする）から早期末の条痕文土器・格状体瓦痕文土器や鶴ヶ島台式土器が出土している。前期では上田原遺跡から花積下層式土器をはじめとする繊維土器や諸磯式土器が出土している。また、南大原式・下島式土器の出土の記録もある。中島遺跡からも南大原式・下島式土器が出土している。いずれも、上田原台地の西端に展開している遺跡である。中期では初頭の五領ヶ台式期の集落が上田原遺跡から発掘調査により確認されている。また、勝坂式・加曾利E式土器の出土の記録もある。中島遺跡・宮本遺跡・浦田遺跡・屋敷遺跡からも勝坂式・加曾利E式土器が出土している。惣明遺跡からは勝坂式土器が出土し、駕籠田遺跡・箕輪遺跡からは加曾利E式土器が出土している。後期の遺跡としては上田原遺跡から堀之内式土器・加曾利B式土器が出土している。晩期の遺跡としても上田原遺跡から条痕文土器・大洞A'式土器が出土している。

弥生時代の遺跡は前期から中期にかけての水神平系土器が上田原遺跡から出土している。また、浦田遺跡からも出土している。上田原遺跡からは中期の栗林式土器が確認されている。後期の遺跡としては緑川・天神堂遺跡・赤坂遺跡・殿海道遺跡・中島遺跡・上田原遺跡・浦田遺跡・蔵之台遺跡・屋敷遺跡・箕輪遺跡・惣明遺跡・宮脇遺跡・宮島遺跡・原田遺跡などで箱清水式土器を出土している。中でも、上田原遺跡では、上下小地方ではじめて弥生時代後期から古墳時代前期の周溝墓を確認することができた。遺跡はこの時期に急速に発展し、中之条付近の千曲川沖積氾濫原・上田原台地の西端・浦野川沿いなどに広く分布している。発掘調査によって上田原遺跡・琵琶塚遺跡などが集落として確認されている。

古墳時代の遺跡としては坂下古墳・六句古墳・初太郎古墳・タタラ塚・舟窪古墳群・森ノ木古墳・上平古墳・日天塚古墳・月天塚古墳・原峠古墳などが小牧山系に存在する。城山山系には下河原古墳・半過古墳群・八幡山古墳・日向小泉古墳群が存在している。上田原台地には塚原古墳群・手矢塚古墳群が存在している。いずれも後期の円墳である。また、琵琶塚遺跡などの集落遺跡とされるものも多く存在する。

奈良・平安時代は上田・小県地方に信濃国府が設置されて信濃国分寺が造営されたことと、官道である東山道が整備されたことにより繁栄していたことが推測される。当該地域も、東山道が通過しているとされており、多くの遺跡が存在している。高町遺跡・中沢遺跡・木ノ下遺跡・横塚遺跡・中之条遺跡群・六工・金敷田・大畑・三反田遺跡・殿海道遺跡・塚田・丁田遺跡・中島遺跡・前田遺跡・上田原遺跡・本町遺跡・宮本遺跡・堀之内遺跡・浦田遺跡・蔵之台遺跡・屋敷遺跡・西沖遺跡・箕輪遺跡・堀切遺跡・宮脇遺跡・宮島遺跡・東村・中村・新屋遺跡・原田遺跡など多くが確認されている。また、東村遺跡からは布目瓦が出土しており古代寺院の存在を伺わせる。この地域は「和名抄」などに福田郷として記載されている地域であった。

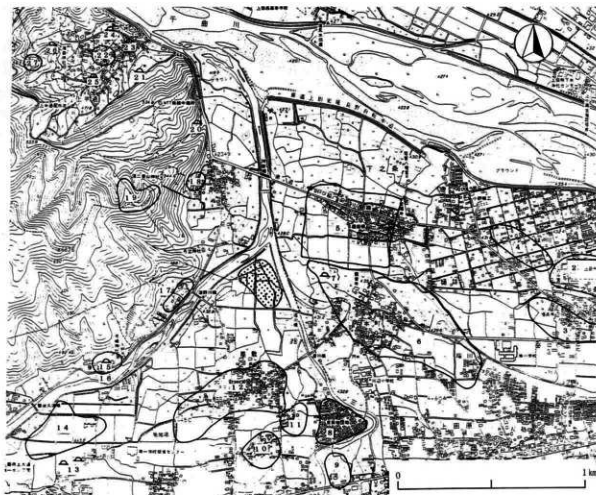
中世以降は、鎌倉時代の小泉庄に属した地域として泉氏の本拠地と考えられている。また、戦国時代には武田晴信と村上義清の争った上田原合戦の古戦場として、倉山山系には武田方が陣をすえたことを物語る御陣ヶ入・御陣ヶ原・兵糧山・相国山・物見山などの小字を残しており、産川下流の西には村上方が陣をすえたと伝える天白山（須々貴山）がある。塚原遺跡からは上田原合戦に関係すると伝えられる五輪塔が出土している。また、付近には板垣信方などの武将の墓が伝承されている。

<参考文献>

上田市教育委員会「上田市の原始・古代文化」1977

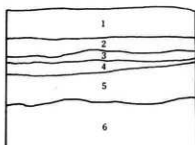
上田小県誌刊行会「上田小県誌（第一巻歴史篇上）」1980

上田市立博物館「発掘された原始・古代」1992



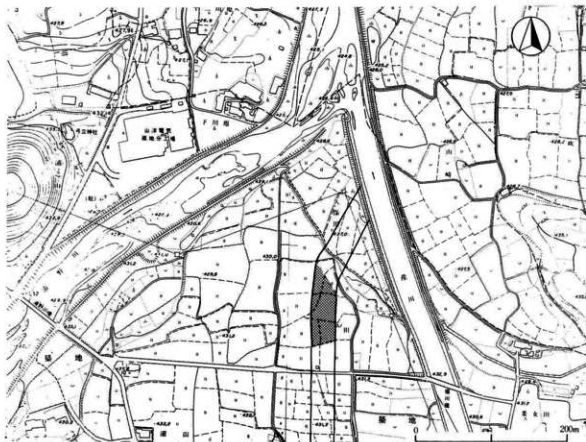
番号	遺跡名	時代	所在地
1	浦田遺跡	縄文～平安	大字墓地 字藏之台・原倉
2	千曲高校遺跡	弥生～平安	大字中之条 字原倉田
3	西南田遺跡	平安	大字中之条 字西南田・下南田
4	天神堂遺跡	弥生～平安	大字中之条 字天神堂・緑川
5	下之島里水田遺跡	弥生～平安	
6	上田原遺跡	縄文～平安	大字上田原 字本町・中島・原原
7	堀原古墳群	古墳	大字上田原 字堀原
8	堀之内遺跡	縄文～平安	大字墓地字堀之内
9	太郎遺跡	弥生	大字 神保字太田
10	宮島遺跡	縄文～平安	大字吉田 字宮島
11	宮脇遺跡	弥生～平安	大字吉田 字宮脇
12	築地遺跡	縄文～平安	大字墓地 字藏之台・原倉
13	琵琶塚古墳	古墳	大字小泉 字琵琶塚・町裏
14	琵琶塚遺跡	弥生～平安	大字小泉 字琵琶塚・町裏
15	八幡山遺跡	古墳	大字小泉 字八幡山
16	八幡山古墳	平安	大字小泉 字八幡山
17	寛輪遺跡	平安	大字墓地 字寛輪
18	古原倉遺跡	弥生	大字墓地 字古原倉
19	須々賀城跡	中世	大字下之条 字須々賀山
20	駒場古墳	古墳	大字小泉 字駒場二
21	前沢古墳	古墳	大字小泉 字前沢
22	中の沢遺跡	平安	大字小泉 字中の沢
23	中の沢1号古墳	古墳	大字小泉 字中の沢
24	中の沢2号古墳	古墳	大字小泉 字中の沢
25	中の沢3号古墳	古墳	大字小泉 字中の沢
26	北沢古墳	古墳	大字小泉 字北沢
27	堂の人遺跡	中世	大字小泉 字北沢

第1図 遺跡位置図



- 1層 … 灰褐色土層(永田耕作土・弱い粘土性をもつ)
 2層 … 灰白色土層(上層に赤褐色をもつ・シルト質)
 3層 … 黄灰色土層(シルト質)
 4層 … 灰褐色土層(遺物包含層・炭化物混じる・シルト質)
 5層 … 黒茶褐色土層(シルト質)
 6層 … 黄茶褐色土層(シルト質)

第2図 基本土層



第3図 調査位置図



第4図 調査地公園(明治22年作成公園より)

第三章 遺跡の調査

第一節 遺跡の概要

浦田遺跡は、青木・浦野方面から流れてくる浦野川と塩田平から流れてくる産川が合流する地点の内側の段丘上に展開している遺跡である。当初は、浦野川に沿った部分のみの遺跡とされていたが試掘の結果、産川沿いの河岸段丘上にも遺跡が広がっていることが確認された。その為、産川沿いの河岸段丘部分を浦田A遺跡とし、浦野川沿いの河岸段丘部分を浦田B遺跡とした。本調査の結果も、浦田A遺跡と浦田B遺跡の間には遺構のない空間があることが判明した。このことから、浦田A遺跡と浦田B遺跡は関連性はあるだろうが別の遺跡と捉えた方がよいと思われる。(第1図)

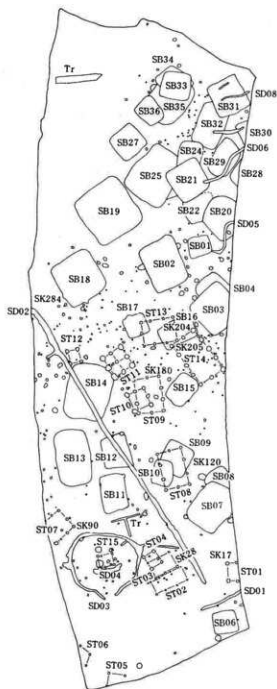
調査地の土砂の堆積は浅く、1層(耕作土)から2層(灰白色土層)・3層(黄灰色土層)の下に4層(灰黒褐色土層)の遺物包含層がわずかに残る。そして、5層(黒茶褐色土層)に掘り込まれるように遺構が検出される。いずれの土層もシルト質であり、水はけが良い。(第2図)

遺跡は産川の河岸段丘上に立地しており、調査地は南北に細長く、浦野川と産川が合流する地点まで伸びている。遺構は竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑などが検出されている。これらは、①弥生時代後期箱清水式期から古墳時代前期までの遺構②奈良から平安時代までのものに分けることができる。また、浦野川との合流地点に近い産川河岸段丘上には小さな谷地形が埋没していることが確認された。その谷を埋めた土砂からは遺物の出土は無く、検出面からは2～3の土坑が確認されているのみである。

①弥生時代後期箱清水式期から古墳時代前期の遺構は、いずれの時代も大型の竪穴住居が多く、隅丸長方形から隅丸方形へと変化する課程が読みとれる。また、竪穴住居に伴うと思われる掘立柱建物や溝も確認されており、中には倉庫と思われる総柱の掘立柱建物も確認されている。遺構は調査地域全面に広がっており、さらに産川河岸段丘方面へと広がることが予想される。竪穴住居出土の土器の構成からは箱清水式土器のみの時期から外来系の土器が入り込んでくる時期を経て古墳時代となり箱清水式土器が見られなくなるまでの時期のものが継続して営まれていたことが伺われる。遺物は土器と石器・土製品が出土した。土器は北陸系の土器を中心とした外来系のものが多く出土している。石器は、磨製石包丁が多いことが注目される。磨製石包丁の形態は外湾刃半月形・直線刃半月形・長方形が確認できる。紐穴と思われる穴はいずれも1ヶ所だけである。石材は頁岩のものが多く、原石や製作途中のものも多く出土している。また、蔽石・磨石・砥石も多く出土している。原石の頁岩は当該遺跡の北側にある浦野川の対岸の城山山系にその露頭がいくつか確認されている。このことから、露頭から原石を採集して、集落内で磨製石包丁を製作していたことが考えられる。筆者も、この露頭から頁岩を採取して蔽石・砥石を使って石包丁を製作したが、当該遺跡出土のものとはほとんど同じものを作ることができた。

②奈良・平安時代の時代の遺構は、奈良時代中頃から平安時代初期の頃までの竪穴住居・掘立柱建物・溝などが確認されている。遺構は調査地内にまばらに配置されており、切り合いはほとんど無い。集落は調査地から産川寄りに展開していると思われる。浦田A遺跡での当該期の集落の在り方は散村的であると思われる。律令体制下での集落の在り方のひとつが確認されたと言える。

また、遺構の確認はできなかったが、縄文時代の土偶や弥生時代前期の条痕文土器の出土も確認されており、周辺に何らかの遺構の存在が推定される。



0 20m

第5図 浦田A遺跡全体図

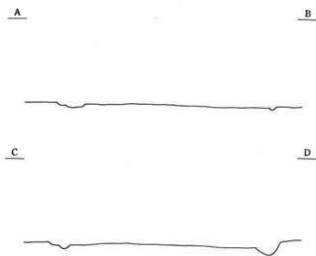
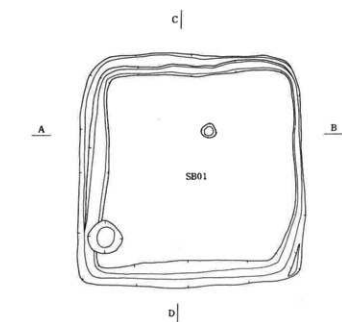
第二節 遺構

浦田A遺跡では竪穴住居36軒、掘立柱建物16棟、溝11本、土坑などが確認された。遺構は調査地区ほぼ全面から検出されている。しかし、所属時期によっては遺構に偏りがみられる。また、調査地区北端の埋没した小さな谷の跡は低地となっており、遺構はほとんど確認することができない。

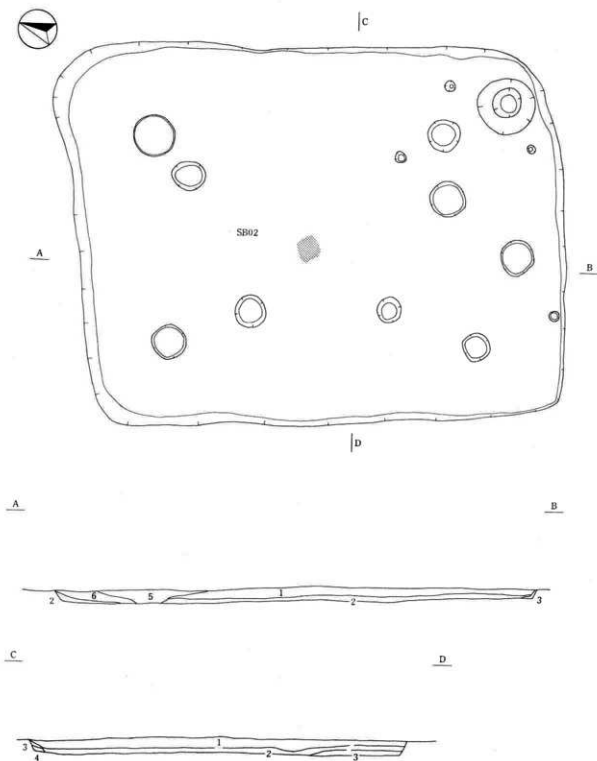
竪穴住居は出土土器の所属時期から大きく、①弥生時代後期のもの（4、10、11、12、13、15、16、29号住居跡）②古墳時代初頭のもの（7、8、14、24、25、35、36号住居跡）③古墳時代前期のもの（2、3、9、18、19、20、27号住居跡）④奈良時代のもの（31、33号住居跡）⑤平安時代のもの（1、6、21号住居跡）に分けることができる。これらの時期区分と遺構の関係は竪穴住居跡の切り合い関係からみても支障はないと思われる。

①弥生時代後期の竪穴住居は土器が箱清水式土器のみで構成される時期である。出土土器からさらに2時期に細分できそうである。竪穴住居跡の平面形は隅丸長方形である。②古墳時代初頭のものは在地系土器の組み合わせの中に外來系土器が入り込んでくる時期である。器台も器種構成に加わる。竪穴住居跡は大型のものと普通の大きさのものがある。竪穴住居跡の平面形は隅丸長方形である。③古墳時代前期のものは弥生時代からの伝統的な箱清水式土器の姿を消し、ハケ調整を多用した甕が主流となる時期である。小型丸底土器・広口壺が器種構成に加わる。竪穴住居跡の平面形は隅丸方形が主流となる。大型のものと普通の大きさのものがある。竪穴住居跡はいずれも主軸が北西方向に軸がそろっている。④奈良時代のもは8C第二四半期から第三四半期頃の時期と思われる。削平が著しく、カマド等は痕跡として残っているだけであったが、床面から出土した土器により所属時期は確定することができた。竪穴住居跡の平面形は方形であった。⑤平安時代のもは奈良時代終わりから平安時代初頭の8C後半頃の時期と思われる。削平が著しく、カマド等は痕跡として残っているだけであったが、床面から出土した土器により所属時期は確定することができた。竪穴住居跡の平面形は隅丸方形であった。

掘立柱建物は2間×4間のもの（ST14）・2間×3間のもの（ST08・09・13）・2間×2間で総柱のもの（ST11）1間×1間のもの（ST04・10・12）などがある。所属時期は必ずしも明らかではないが、桁行きと梁行の揃え方によりいくつかの時期に分けることができそうである。特に、SD02と平行に並んで配置されているST11とST14は同一時期と思われる。所属時期はSD02からの出土遺物により古墳時代前期と思われる。また、ST15はSD03に囲まれており、特異な形態をしている。所属時期はSD03・04からの出土土器から古墳時代初頭から前期にかけてのものと思われる。この遺構の類例は北陸地方を中心に増加している。新潟県柏崎市下谷内遺跡・富山県中新川郡江上A遺跡・石川県金沢市磯部運動公園遺跡・同市上荒屋遺跡・同小松市漆町遺跡・高堂遺跡などの50基以上にのぼると思われる。最古の例は、弥生時代中期中葉から確認できる。最新の例は上荒屋遺跡で古墳時代前期に属するものが確認されている。当該遺構は、低湿地の遺跡や墓域と推定される地区に多く、掘立柱建物・土坑・方形周溝などに隣接する例が多いとされる。周溝については湿気抜き機能も考えられており、平地式建物の可能性が示唆されている。（『小松市高堂遺跡』1990石川県立埋蔵文化財センター・『上荒屋遺跡Ⅰ』1995金沢市教育委員会参照）このような、北陸地方を中心として検出される遺構が浦田A遺跡に存在することは、他の竪穴住居跡から北陸系土器が多く出土したことを考え合わせると、日本海側の人々の移動が示唆される。



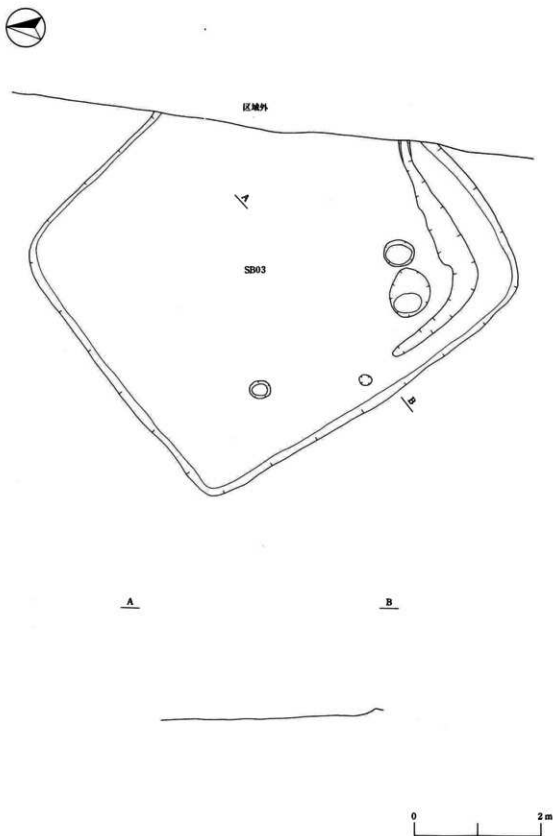
第6图 1号住居跡



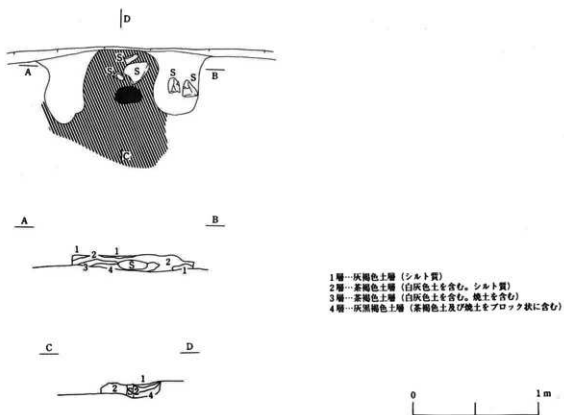
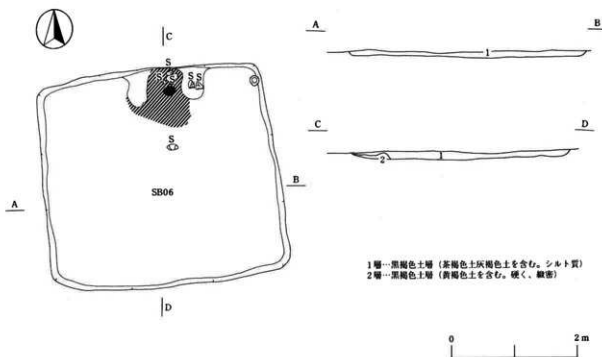
- 1層…黒茶褐色土層 (炭を少量含む・シルト質)
- 2層…灰黒褐色土層 (炭を含む)
- 3層…黄褐色土層 (茶褐色土を含む)
- 4層…灰黒褐色土層
- 5層…黒褐色土層 (小円礫を多く含む。)
- 6層…黄褐色土層 (円礫・茶褐色土を含む。)

0 2m

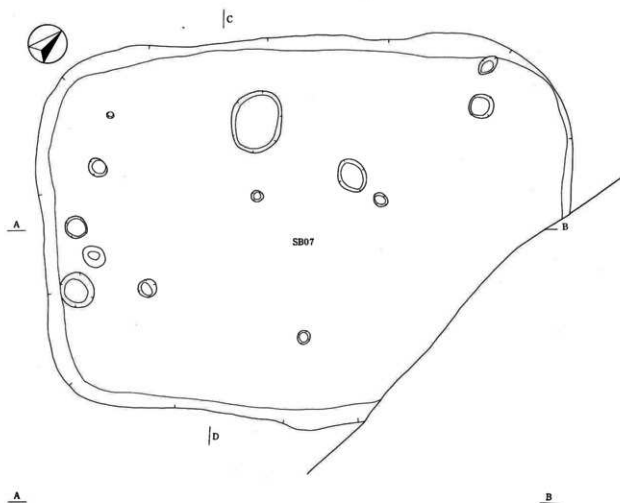
第7図 2号住居跡



第8図 3号住居跡



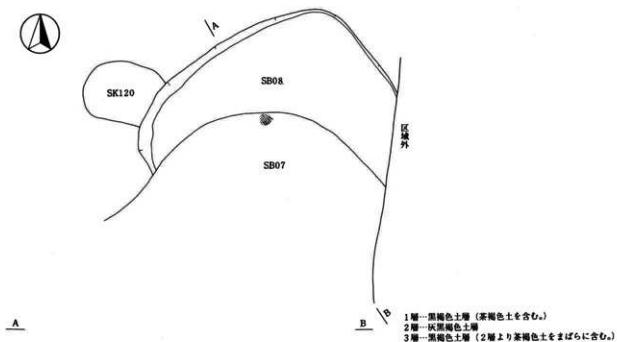
第9図 6号住居跡



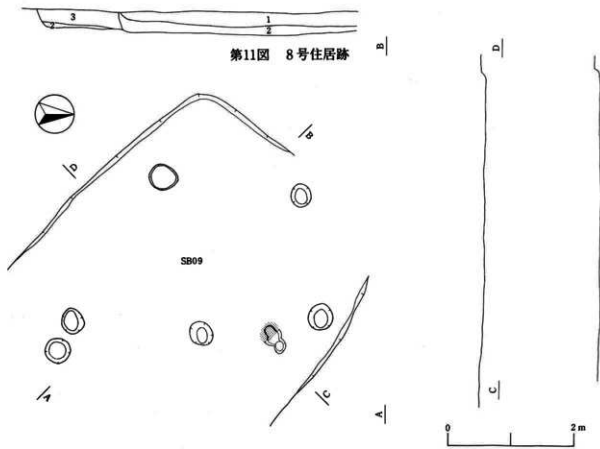
- 1層…灰黒褐色土層 (茶褐色土を含む。)
- 2層…黒多褐色土層 (灰黒褐色土・黄褐色土を含む。)
- 3層…黒褐色土層 (茶褐色土を含む)
- 4層…黒褐色土層 (茶褐色土をブロック状に含む)
- 5層…黒褐色土層 (茶褐色土・炭を含む。)
- 6層…灰黒褐色土層
- 7層…灰黒褐色土層 (炭を含む。)
- 8層…黒灰色土層 (シルト質)



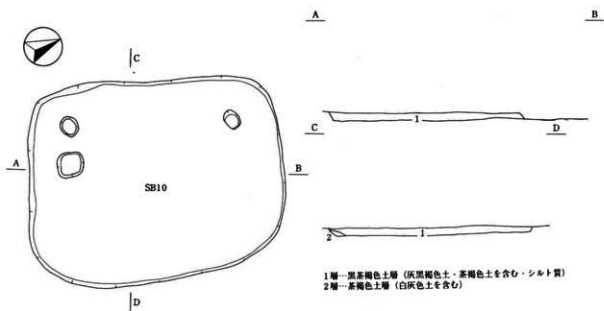
第10図 7号住居跡



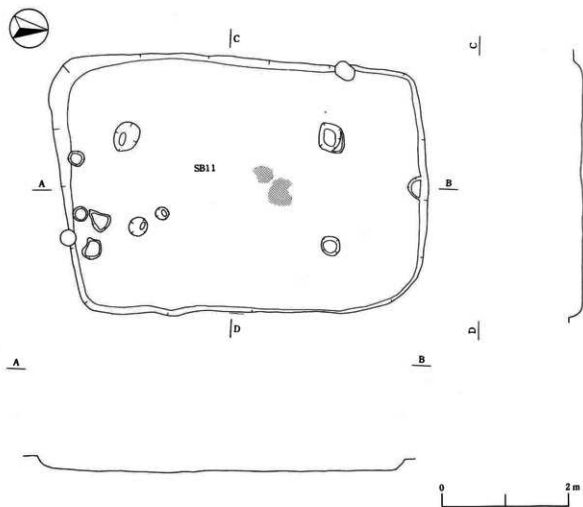
第11図 8号住居跡



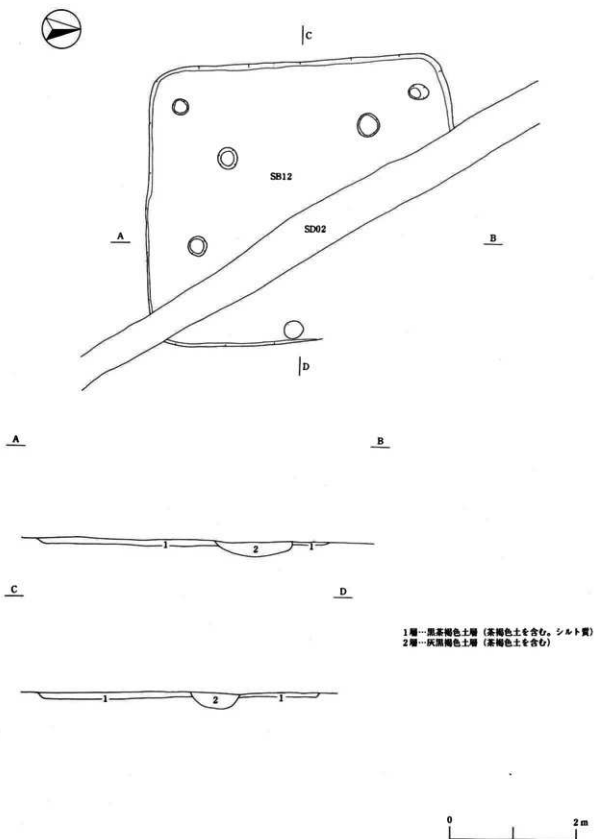
第12図 9号住居跡



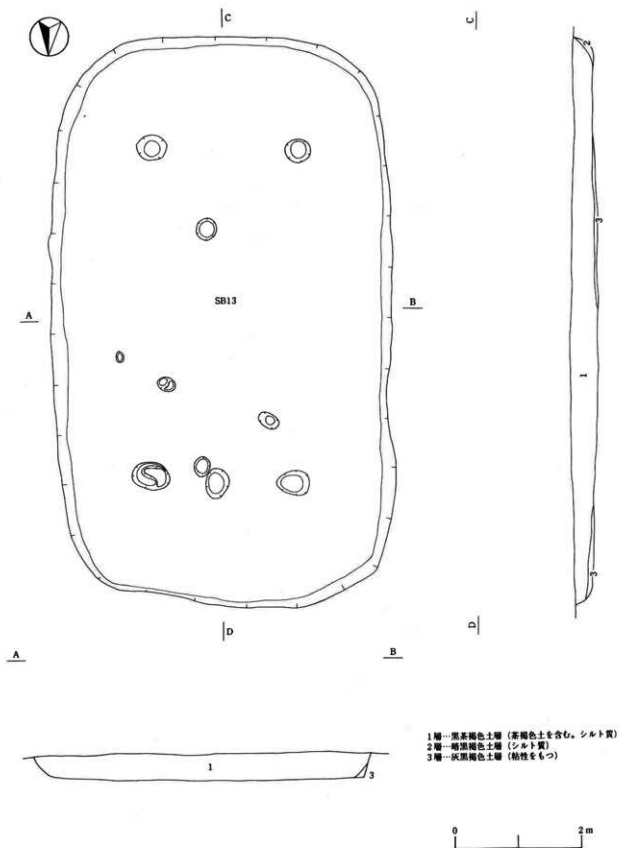
第13図 10号住居跡



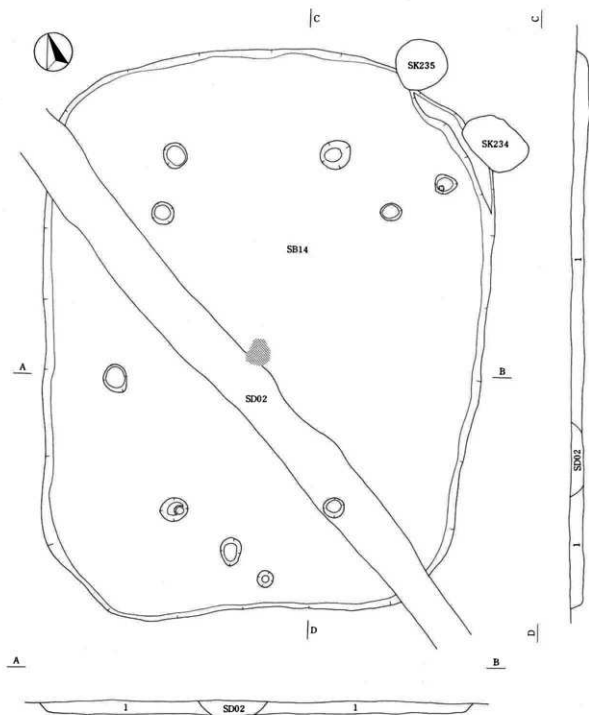
第14図 11号住居跡



第15図 12号住居跡



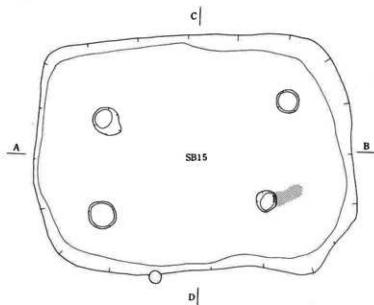
第16図 13号住居跡



1層…黒褐色土層 (茶褐色土を含む)

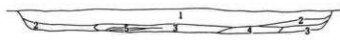
0 2m

第17図 14号住居跡



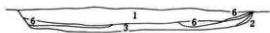
A

B



C

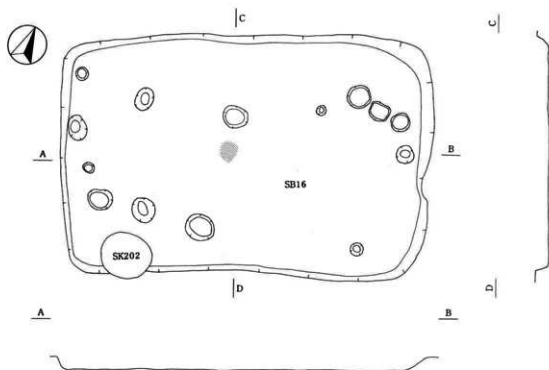
D



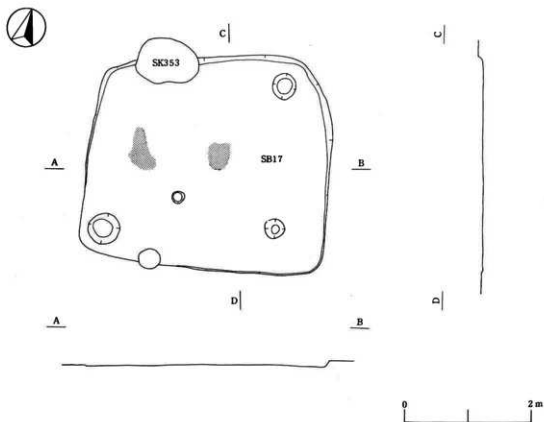
- 1層…黒褐色土層（茶褐色土を含む）
- 2層…灰黒茶褐色土層（茶褐色土を含む）
- 3層…灰黒褐色土層（土器が集中している）
- 4層…茶褐色土層（小石及び灰黒褐色土を状に含む）
- 5層…灰層（灰・灰黒褐色土を含む）
- 6層…灰黒褐色土層（黄褐色土がブロック状に混入）



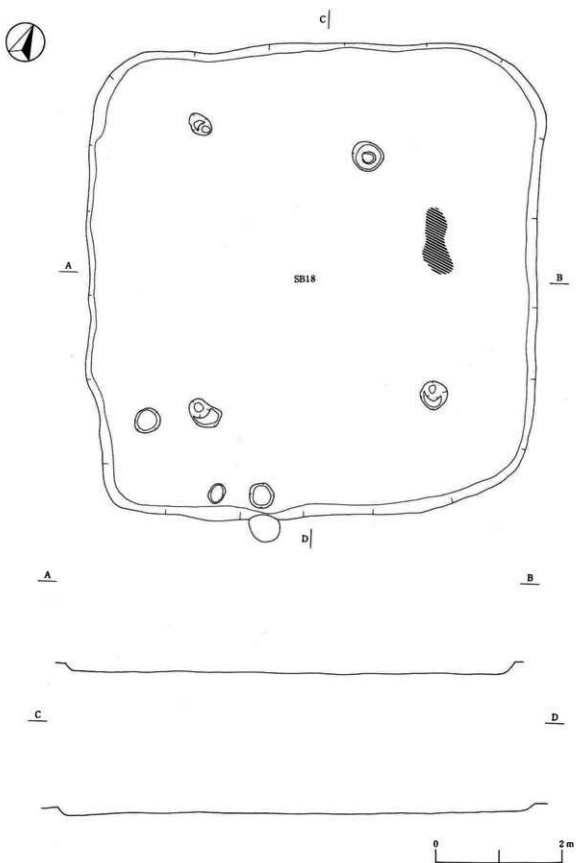
第18図 15号住居跡



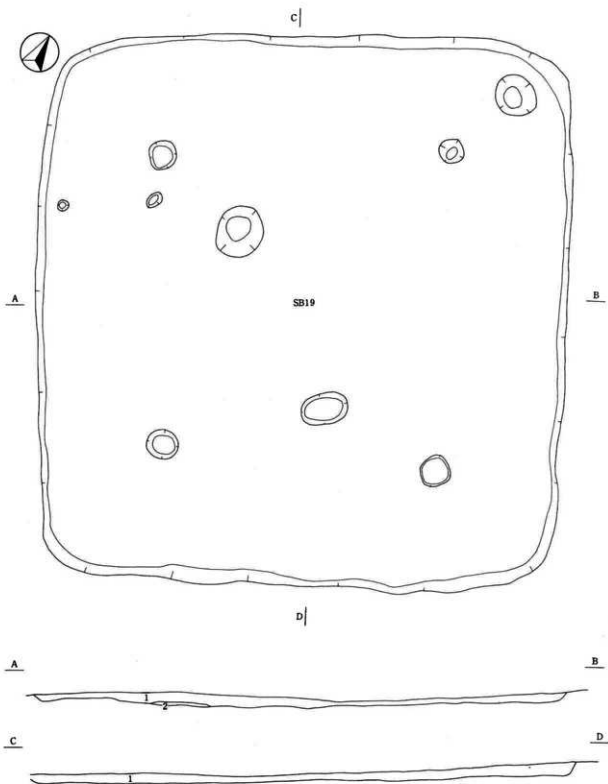
第19図 16号住居跡



第20図 17号住居跡



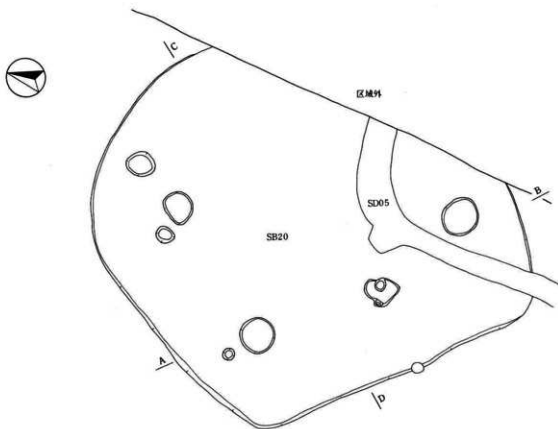
第21図 18号住居跡



1層…暗黒褐色土層（多大の円痕が多く残る。）
 2層…灰黒褐色土層（小跡が残る。）

0 2 m

第22図 19号住居跡



A

B



C

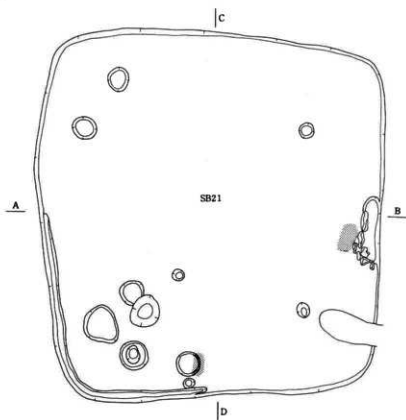
D



1層一暗黒褐色土層（円礫及び炭が混じる）



第23図 20号住居跡



A

B

C

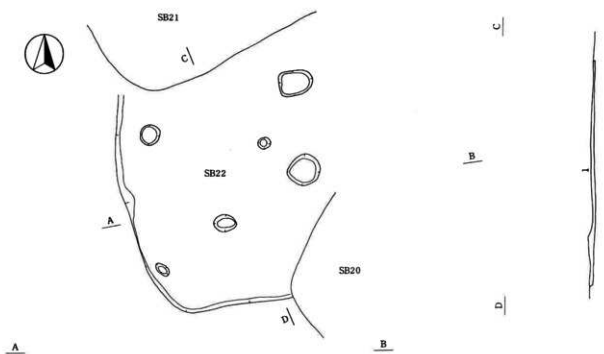
D



1層→黒褐色土層 (茶褐色土を含む・シルト質)
2層→黒褐色土層 (黄土を含む・シルト質)

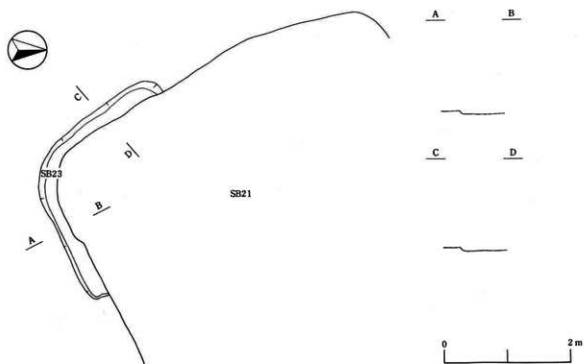


第24図 21号住居跡

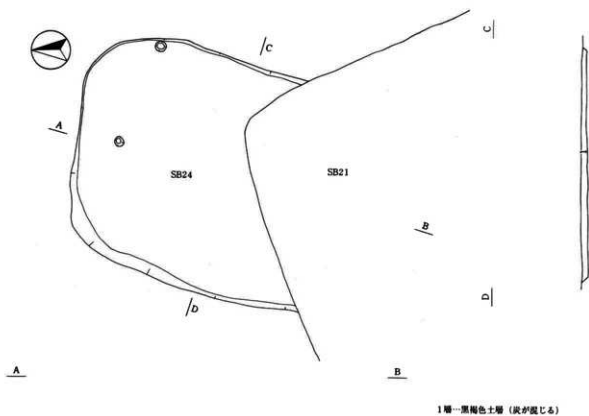


1層…黒褐色土層（茶褐色土・灰黒褐色土を含む）

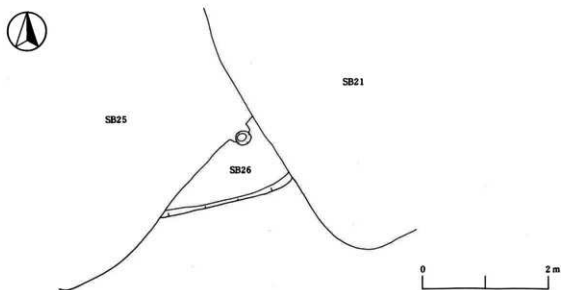
第25図 22号住居跡



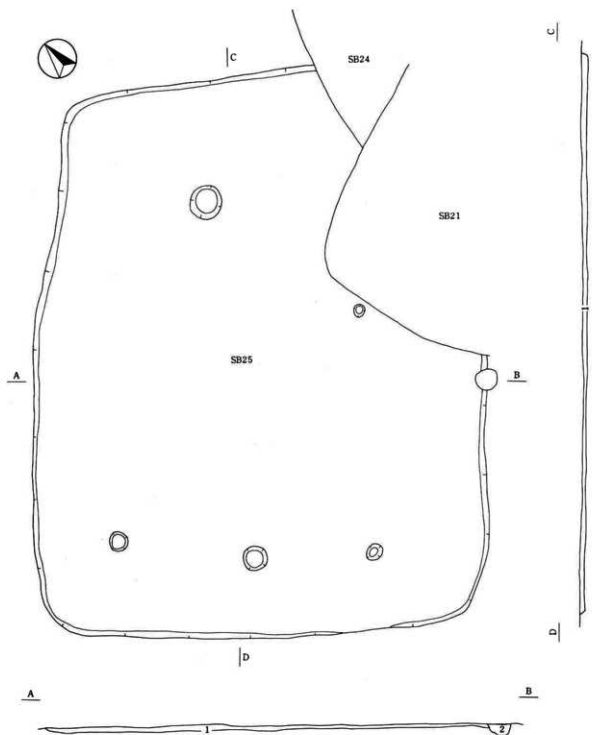
第26図 23号住居跡



第27図 24号住居跡



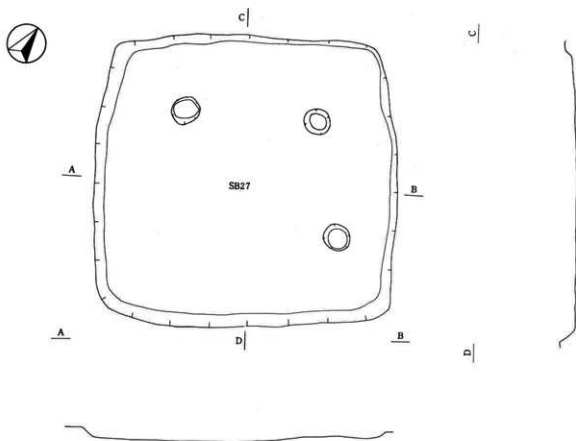
第28図 26号住居跡



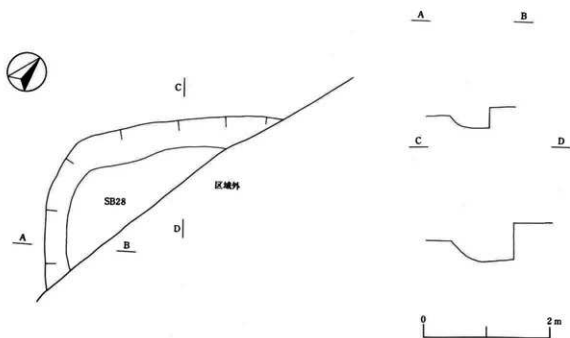
1層…灰黒褐色土層 (赤褐色土・小石を含む)
2層…灰黒褐色土層

0 2 m

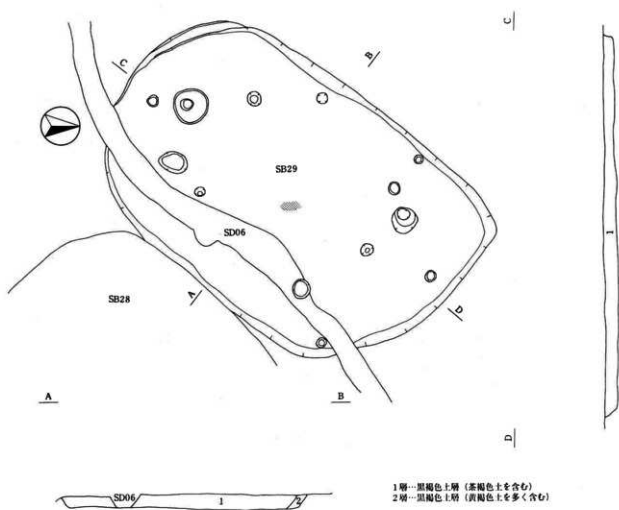
第29図 25号住居跡



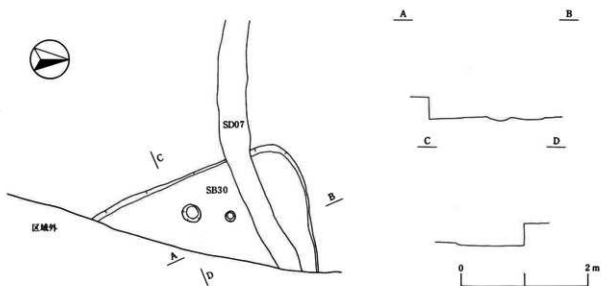
第30图 27号住居跡



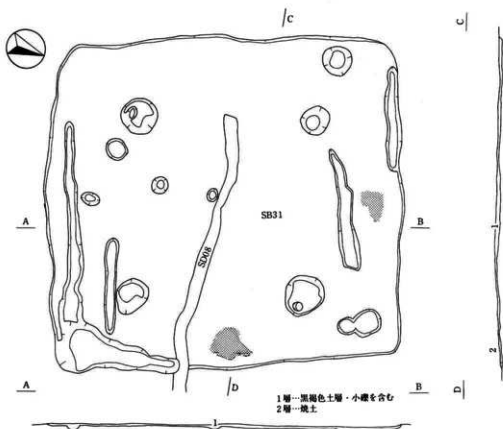
第31图 28号住居跡



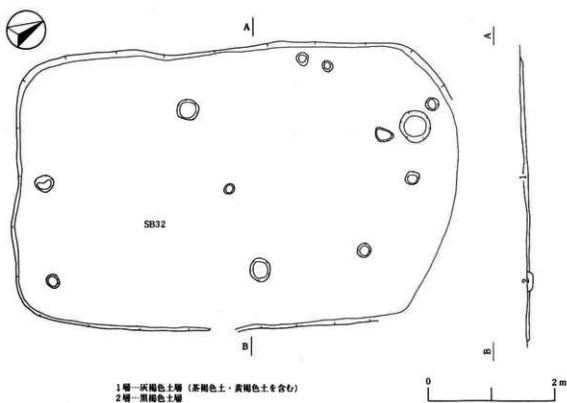
第32図 29号住居跡



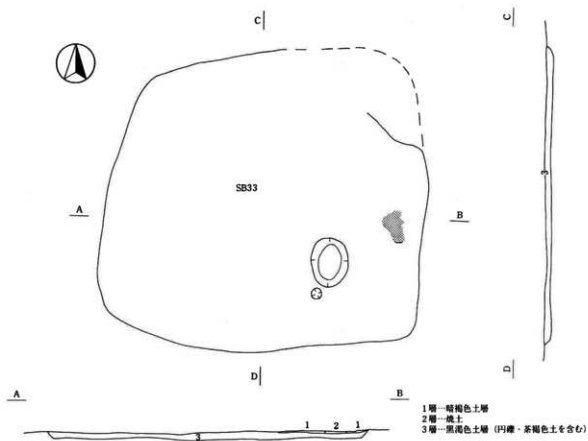
第33図 30号住居跡



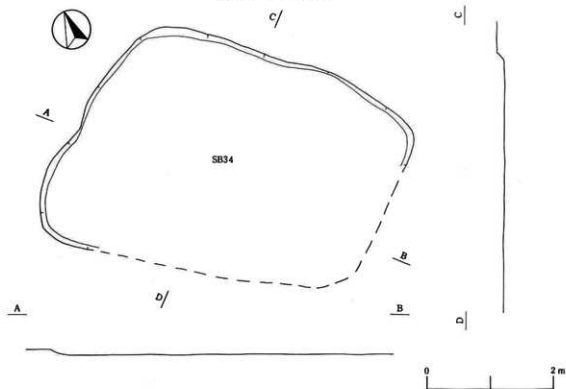
第34図 31号住居跡



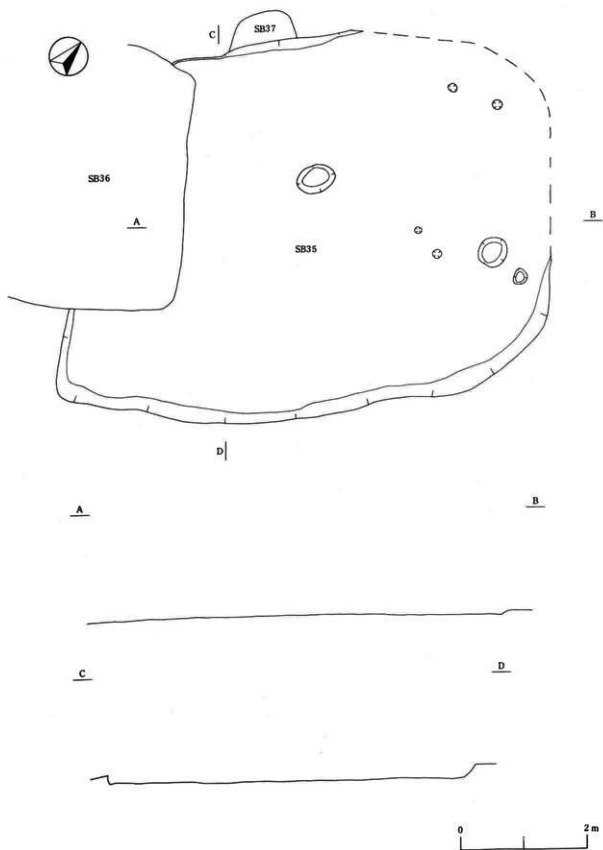
第35図 32号住居跡



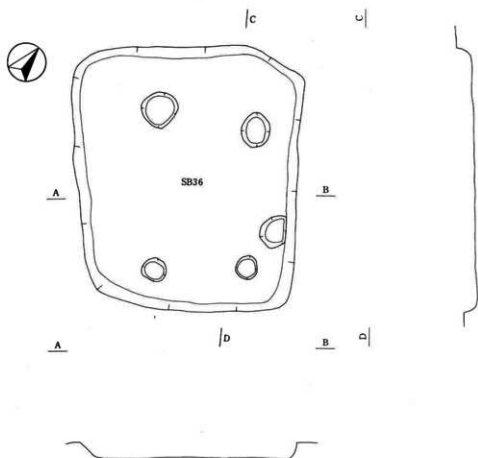
第36図 33号住居跡



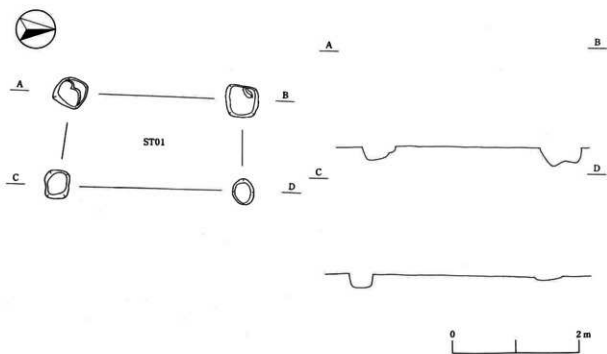
第37図 34号住居跡



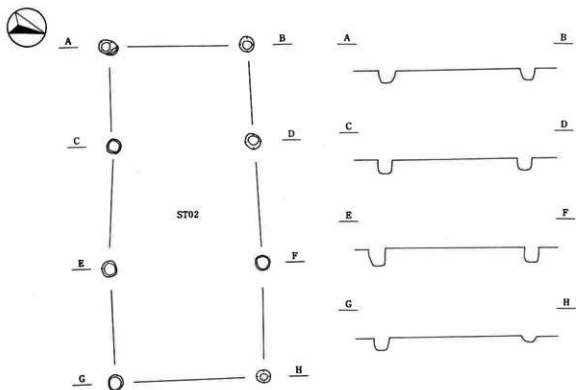
第38図 35号住居跡



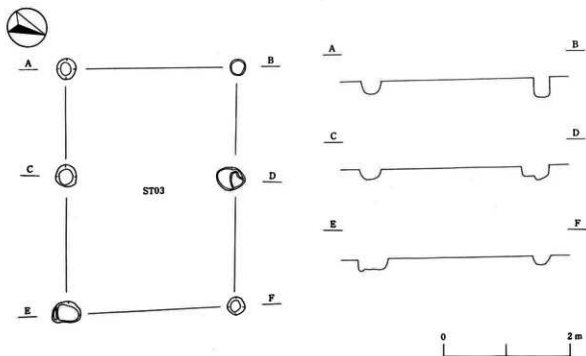
第39图 36号住居跡



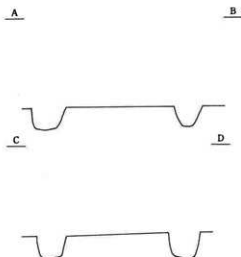
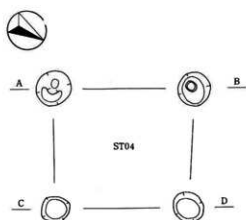
第40图 1号掘立柱建物跡



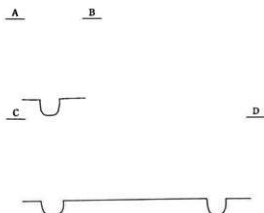
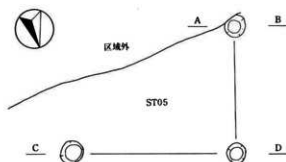
第41图 2号掘立柱建物跡



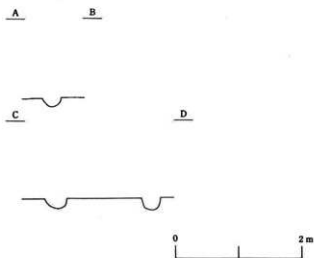
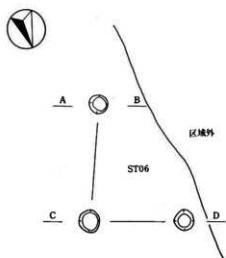
第42图 3号掘立柱建物跡



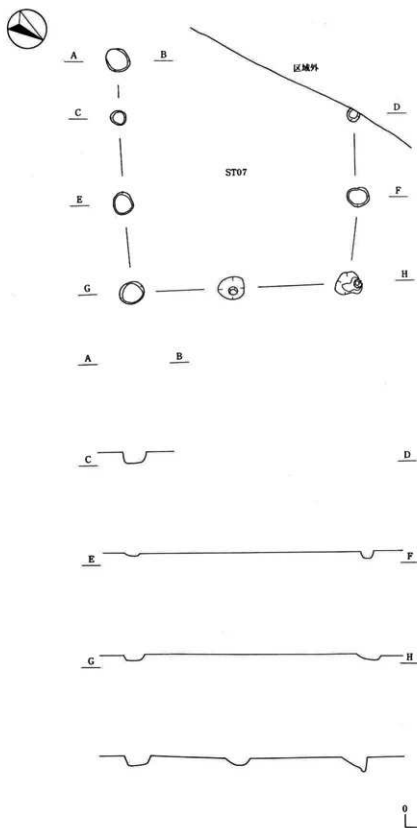
第43图 4号掘立柱建物跡



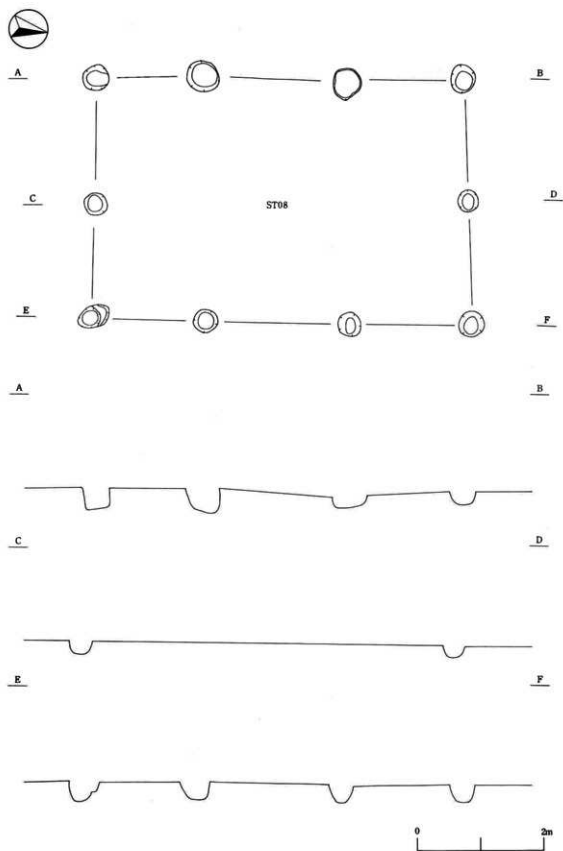
第44图 5号掘立柱建物跡



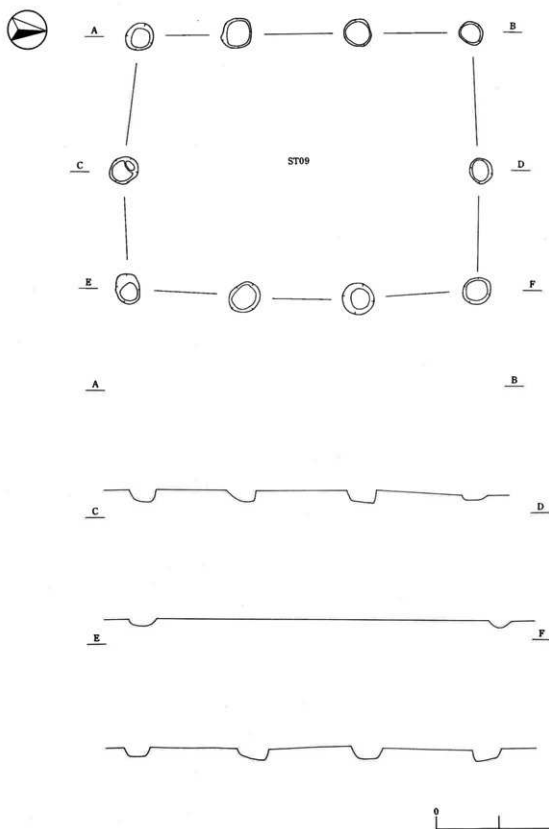
第45图 6号掘立柱建物跡



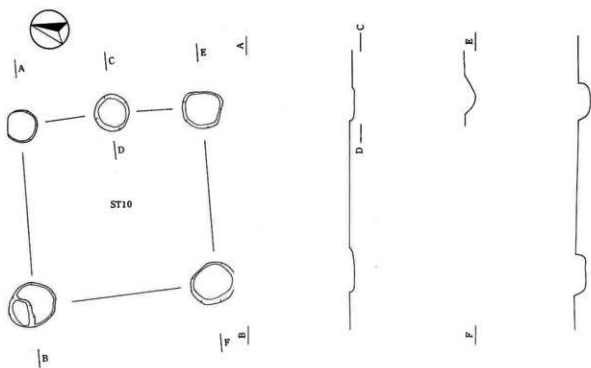
第46图 7号掘立柱建物跡



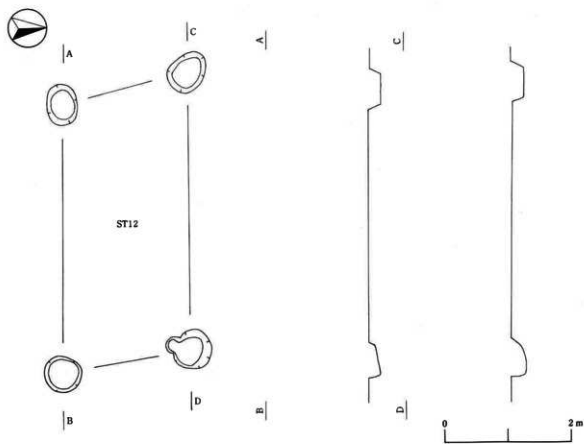
第47图 8号掘立柱建物跡



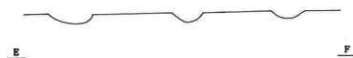
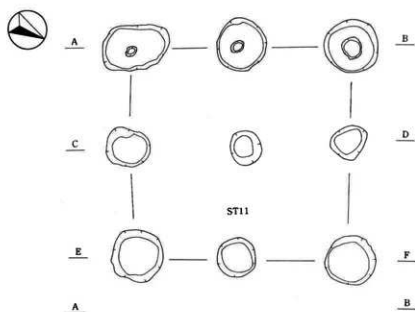
第48图 9号掘立柱建物跡



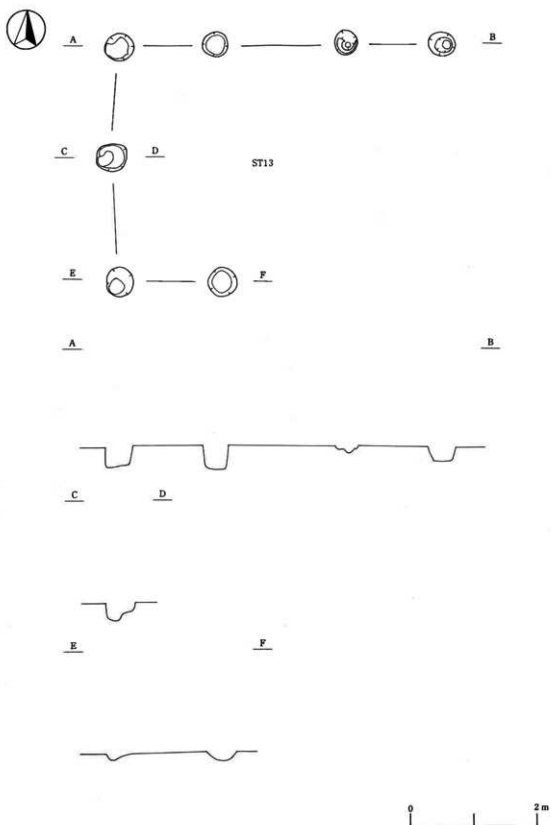
第49图 10号掘立柱建物跡



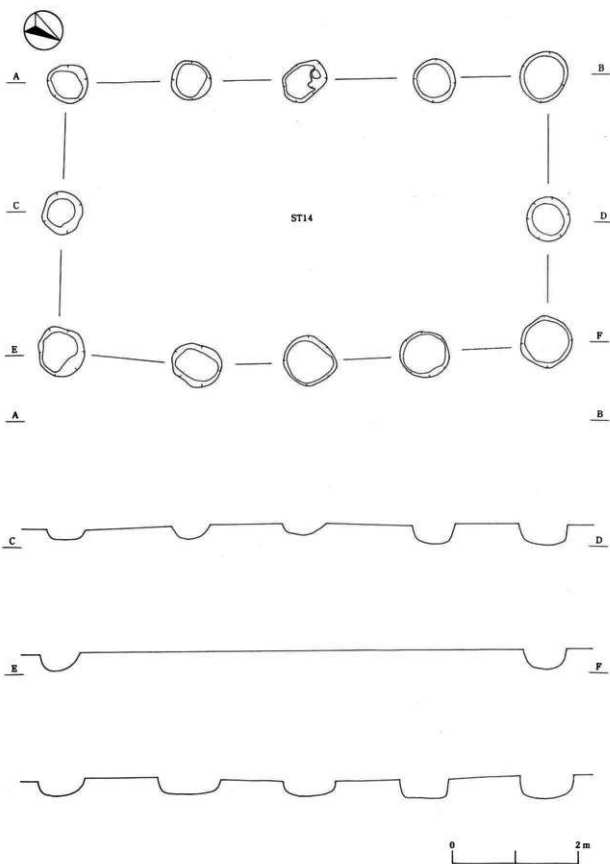
第50图 12号掘立柱建物跡



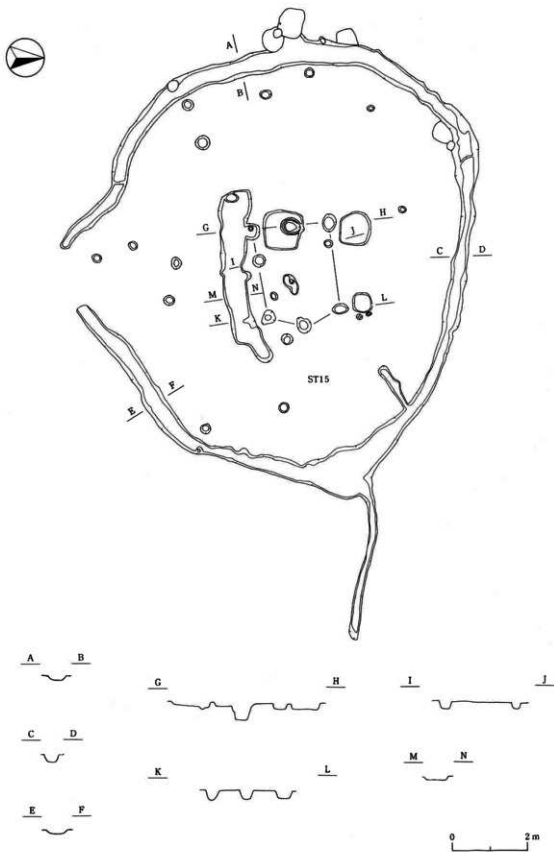
第51図 11号掘立柱建物跡



第52图 13号掘立柱建物跡



第53图 14号掘立柱建物跡



第54图 15号掘立柱建物跡

遺構観察表

竪穴住居

No	時 期	平 面 形	主軸方向	炉又はカマド	柱 穴	その他の屋内施設	出 土 遺 物	備 考
SB01	平安時代初頭	隅丸方形	N-7°-W	不明		壁際全周に周溝を巡らす	1, 2	前平が著しい
SB02	古墳時代前期	隅丸長方形	N-20°-W	ほぼ中央に地床炉	4	南東の隅に貯蔵穴	3~56	
SB03	古墳時代前期	隅丸方形	N-40°-W		2		57~70	
SB04	弥生時代終末 古墳時代初頭	隅丸方形	N-46°-E	不明	不明		71~80	
SB05							81, 82	SD05の間違いと思われる
SB06	平安時代	方形	N-3°-W	北壁ほぼ中央にカマド	不明		83~87	
SB07	弥生時代後期	隅丸長方形	N-40°-E	不明	不明	南西壁付近に一つの貯蔵穴様の穴	88~195	
SB08	弥生時代後期	隅丸長方形	N-38°-W	北西壁寄りに地床炉	不明		196~207	
SB09	古墳時代初頭	隅丸長方形	N-45°-W	不明	2		208~212	北東壁付近の土坑に焼土
SB10	弥生時代後期	隅丸長方形	N-21°-E	不明	2		213~222	
SB11	弥生時代後期	隅丸長方形	N-5°-W	やや北寄りに地床炉	4	南壁際に2本の小柱穴が並んでいる	223~234	
SB12	弥生時代後期	隅丸方形	N-4°-W	不明	4	主柱穴の外側に支柱穴をもつ	235~238	
SB13	弥生時代後期	隅丸方形	N-2°-E	北側柱穴間の土坑が地床炉と思われる	4		239~267	
SB14	弥生時代後期	隅丸長方形	N-16°-E	ほぼ中央に地床炉	4	北東の隅に欄状施設	268~284	
SB15	弥生時代後期	隅丸長方形	N-46°-E	不明	4		285~314	東側の主柱穴付近に焼土
SB16	弥生時代後期	隅丸長方形	N-63°-E	ほぼ中央に地床炉	4		315~325	
SB17	不明	隅丸長方形	N-15°-W	ほぼ中央と西寄りに地床炉	3		326, 327	

No	時 期	平 面 形	主軸方向	炉又はカマド	柱 穴	その他の屋内施設	出 土 遺 物	備 考
SB18	古墳時代前期	方形	N-25°-W	東壁外に地床炉	4		328~349	
SB19	古墳時代前期	方形	N-29°-W	不明	4		350~373	
SB20	古墳時代前期	方形	N-43°-E	不明	5?		374~380	
SB21	平安時代	方形	N-63°-E	東側壁はほぼ中央にカマド	4		381~385	支柱も何本かあると思われる
SB22	弥生時代後期	隅丸方形	N-16°-E	不明	1		389	
SB23	不明	隅丸方形	N-66°-E	不明	不明			
SB24	弥生時代後期	隅丸長方形	N-18°-E	不明	不明		386~388	
SB25	弥生時代後期	隅丸長方形	N-42°-E	不明	3		390~400	6本柱の可能性 がある
SB26	不明	不明	N-79°-E	不明	不明			
SB27	古墳時代前期	隅丸方形	N-36°-W	不明	3		401~411	
SB28	弥生時代後期	不明	N-46°-W	不明	不明		412~414	
SB29	弥生時代後期	隅丸長方形	N-39°-E	ほぼ中央に地床炉	4		415~428	
SB30	不明	不明	N-24°-W	不明	1			
SB31	奈良時代か?	方形	N-69°-E	東壁はほぼ中央にカマドの痕跡	4		429~431	削平が著しい
SB32	弥生時代後期	隅丸長方形	N-26°-E	不明	2		436	
SB33	平安時代	隅丸台形	N-87°-E	東壁はほぼ中央にカマドの痕跡	不明		432~435	
SB34	不明	不整隅丸長方形	N-43°-W	不明	不明			
SB35	弥生時代後期	隅丸長方形	N-46°-E	不明	不明		437~444	
SB36	弥生時代後期	隅丸長方形	N-38°-W	不明	4		445~454	
SB37	不明	不明		不明	不明			コーナーのみであり土坑の可能性が高い

掘立柱建物

No	時 期	規 模	主 軸 方 向	柱 の 数	備 考
ST01	不明	1間×1間	N-3°-E	4	東側調査地区外へ続く
ST02	弥生時代後期	1間×3間	N-70°-E	8	
ST03	弥生時代後期	1間×2間	N-66°-E	6	
ST04	奈良・平安時代?	1間×1間	N-29°-W	4	
ST05	不明	1間×	N-76°-W	3	南側調査地区外へ続く
ST06	不明	1間×	N-23°-E	3	西側調査地区外へ続く
ST07	不明	2間×3間	N-55°-E	8	西側調査地区外へ続く
ST08	奈良・平安時代	2間×3間	N-8°-W	10	
ST09	奈良・平安時代	2間×3間	N-5°-W	10	
ST10	古墳時代初頭	1間×1間	N-70°-E	5	
ST11	弥生~古墳時代初頭	2間×2間	N-28°-W	9	総柱建物
ST12	不明	1間×1間	N-87°-W	4	
ST13	弥生時代後期?	2間×3間	N-87°-E	7	
ST14	不明	2間×4間	N-32°-E	12	
ST15	弥生~古墳時代初頭	2間×2間	N-86°-E	8	掘立柱建物跡の周りを南側を開けたほぼ円形の溝に囲まれる。

溝

No	時 期	断 面 形	出 土 遺 物	備 考
SD01	不明	U字・丸底		
SD02	古墳時代前期	U字・丸底	455~458	S B12・14を切って、北西方向に伸びている。
SD03	不明	U字・丸底		ST15を囲むように巡る。溝は南側で途切れている。
SD04	不明	平底		
SD05	平安時代	U字・丸底	459, 460	当初S B05であると思われたが、本調査において溝跡の誤りであったことを確認。
SD06	奈良時代	U字・丸底	461~465	

第三節 遺物

遺物は土器・石器・土製品などが出土している。その所属時期から①弥生時代後期のもの②古墳時代初頭のもの③古墳時代前期のもの④奈良時代のもの⑤平安時代のものに分けることができる。

①弥生時代後期の土器は、箱清水式土器と呼ばれている。土器はS B 04・10・11・12・13・15・16・29などから出土している。甕、壺などの胴部の丸味が強くなるものが出現してくるなどの形態の変化から2時期に細分できそうである。

②古墳時代初頭の土器は、箱清水式土器の組成の中に外来系の土器が入ってくる段階である。弥生時代と古墳時代の端境期と考えることができる。S B 07・08・14・25・35などから出土している。箱清水式系の甕は北陸系土器の影響からか、92・437のように口縁部に面取りを施した形にしているものもある。しかし、総じて甕・壺・高坏などは外来系の土器の影響を受けていない。外来系土器は、その系統から大きく北陸系と東海系とに分けることができる。北陸系土器には109・110・111・112・114・115・137・161・163・164・165・166・181・187・193・194・199・200・268・394などがある。甕には有段口縁のものと「く」の字状口縁の口唇部に面取りを施すものとに分かれるが、出土量は「く」の字状口縁のものが多いようである。193・194は蓋である。類例は少ないが金沢市西念・南新保遺跡などに類例がみられる。164は鉢形土器である。東海系土器には118・119・201などがある。「S」字状口縁の甕がほとんどである。その他の地域の影響をもつものとして108・182・202などがある。108は、器面にタタキを施しており庄内式土器と思われる。また、その他に系譜がはっきりしないものもあった。

③古墳時代前期の土器は、箱清水式系の土器がみられなくなる段階である。S B 02・03・09・18・19・20・27などから出土している。甕は、器面にハケ目をもつものが中心となる。在来系の土器の系譜上に位置するものも残るが、甕(210・337・358)には櫛波状文が施文されなくなる。有段口縁をもつ鉢形土器が多く確認されるようになる。広口壺(404・405)も確認されるようになる。外来系と思われる土器も確認できる。外来系土器は、古墳時代初頭に引き続き、北陸系と東海系のものが多く確認される。北陸系の土器には12・14・24・25・329・343・345・349・359・360・374などが確認できる。そのほとんどは、「く」の字状口縁の口唇部に面取りを施す甕である。これらは、器面にハケ調整を施しているものが多い。また、有段口縁の壺(25・349・359・374)も確認できる。器台(343)も確認されている。東海系の土器には8・209・335などで、そのほとんどが「S」字状口縁の甕である。この様に、北陸系の土器は東海系の土器に比べて多くの量とバラエティーに富んだ器種が出土している。

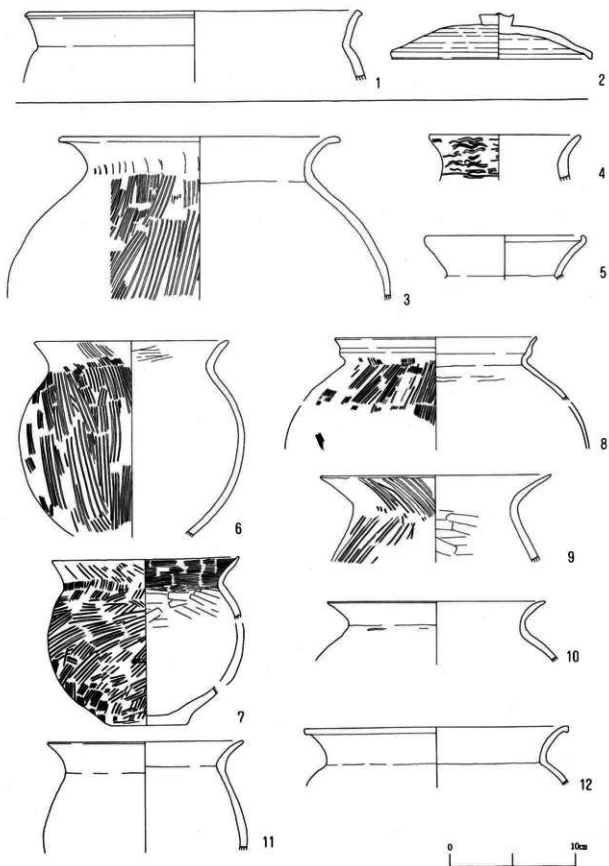
④奈良時代の土器は、S B 31・33などから出土している。

製作技法及び形態から8 C第二四半期から第三四半期頃のものと思われる。土器には土師器と須恵器がある。土師器の坏は底部を丸くしている。

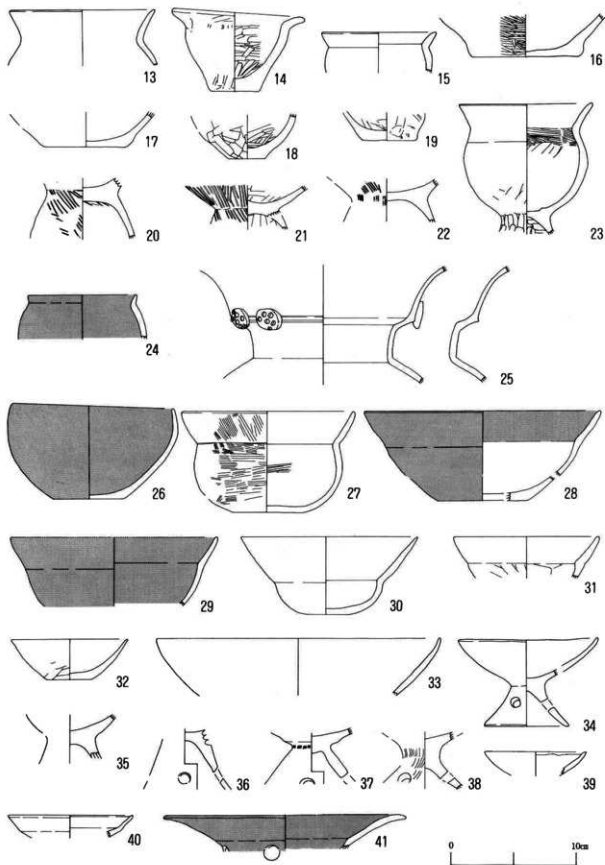
⑤平安時代の土器は、S B 01・06・21などから出土している。

製作技法及び形態から平安時代初頭の8 C後半頃のものと思われる。土器には土師器と須恵器がある。土師器の坏の底部は平底となっている。

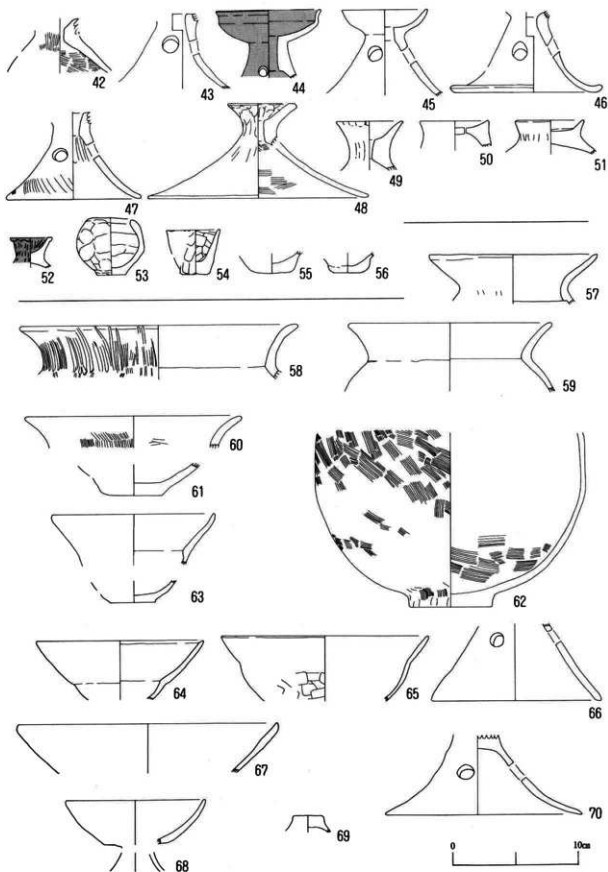
その他、遺構は確認できなかったが弥生前期と思われる土器が確認されている。これらは、縄文系(482・483・484・488・496)の土器と条痕文系土器(486・490・491・492・493・494・495)に分けることができる。



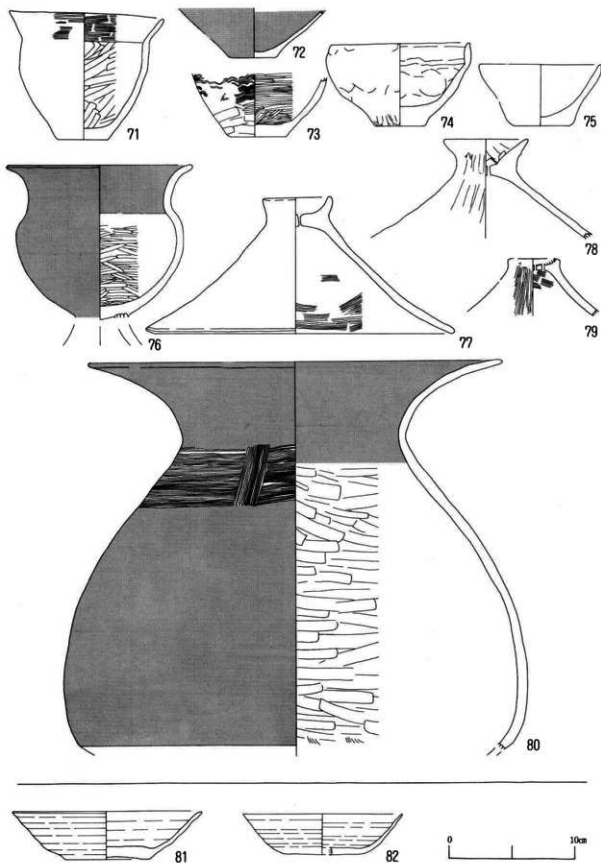
第 55 图 1·2 号住居跡出土土器



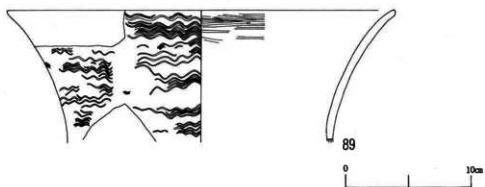
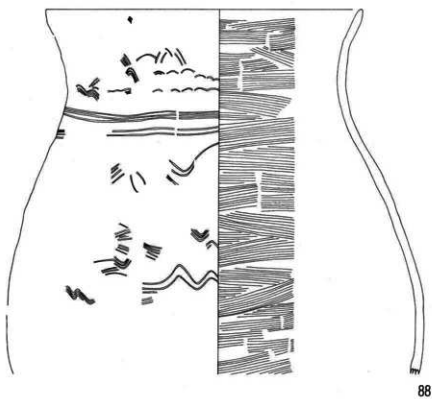
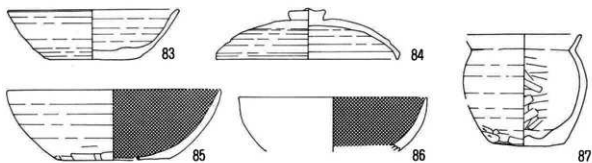
第 56 图 2 号住居跡出土土器



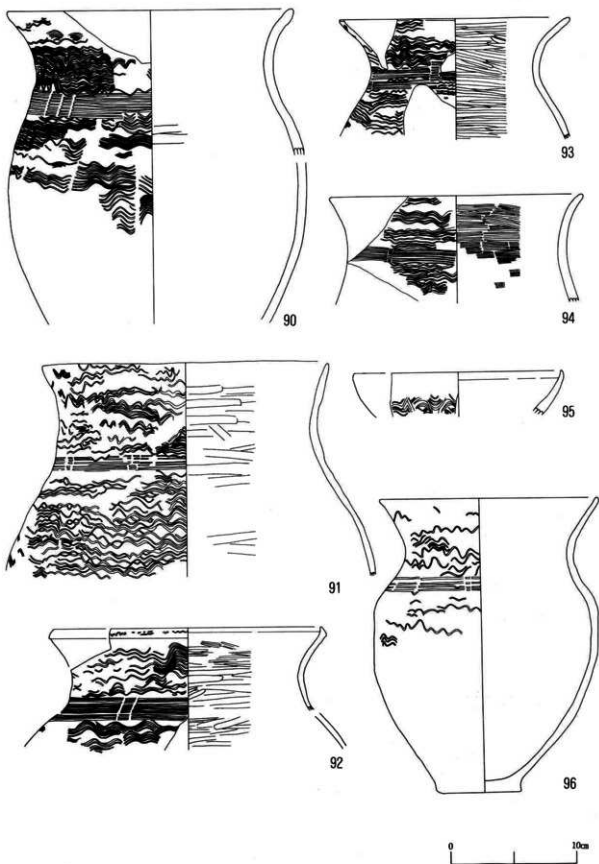
第 57 图 2 号·3 号住居跡出土土器



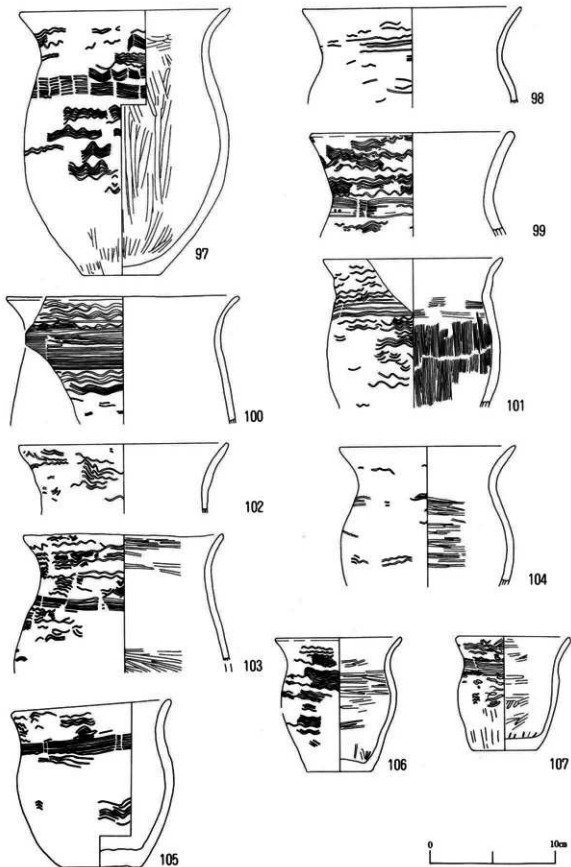
第 58 图 4 号·5 号住居跡出土土器



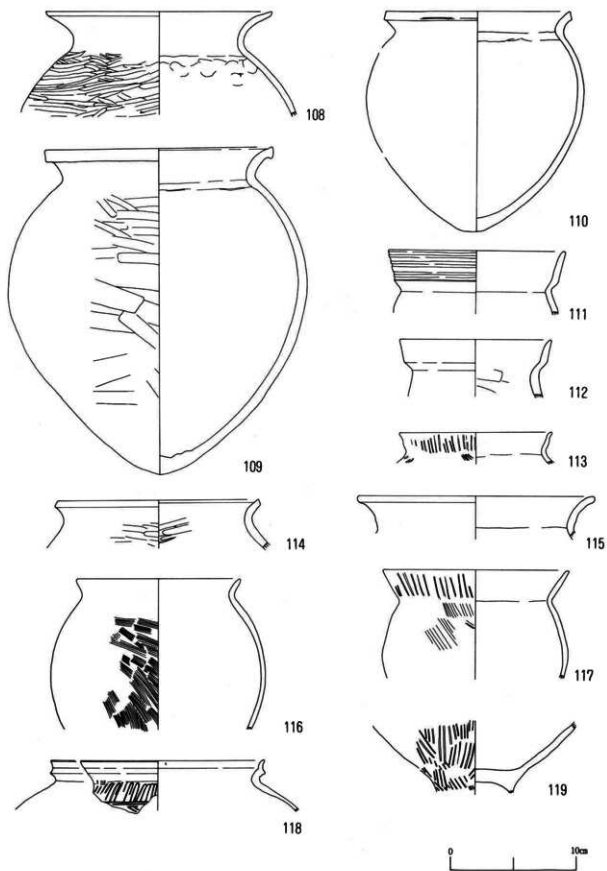
第 59 图 6 号·7 号住居跡出土土器



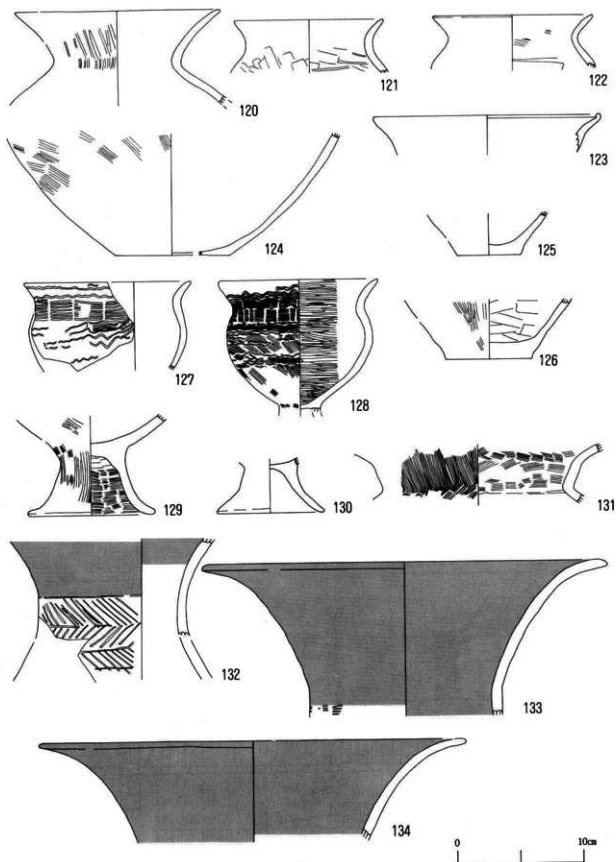
第 60 图 7 号住居跡出土土器



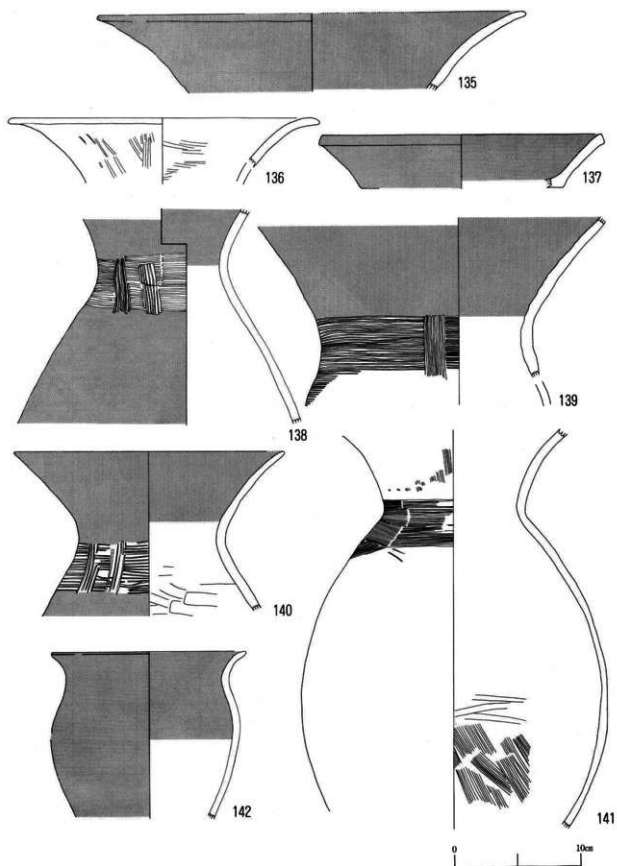
第 61 图 7 号住居跡出土土器



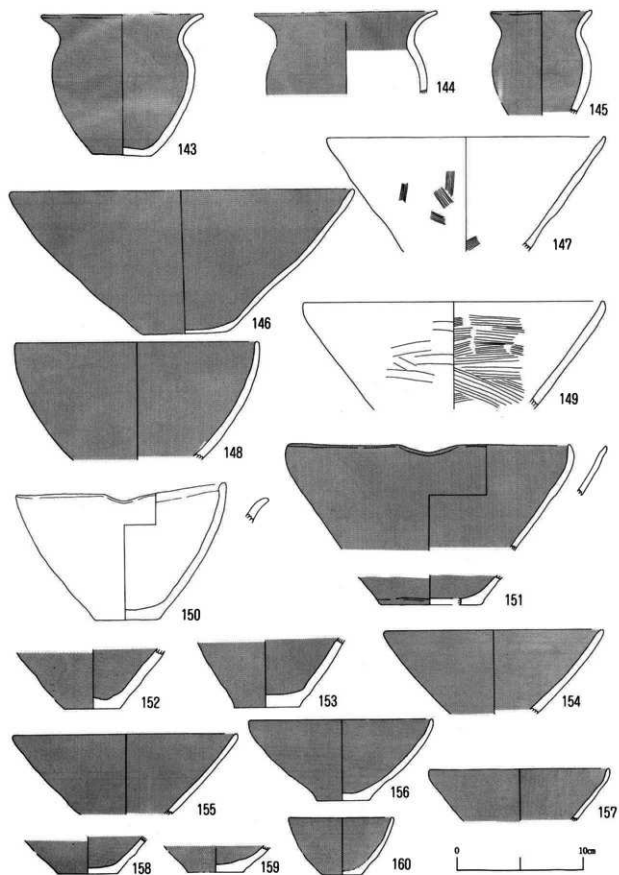
第 62 图 7号住居跡出土土器



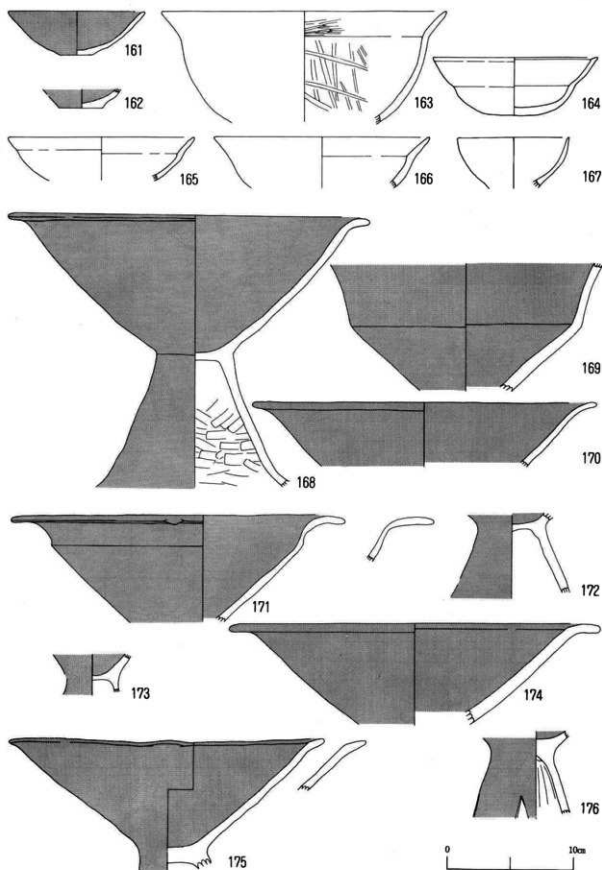
第 63 圖 7 号住居跡出土土器



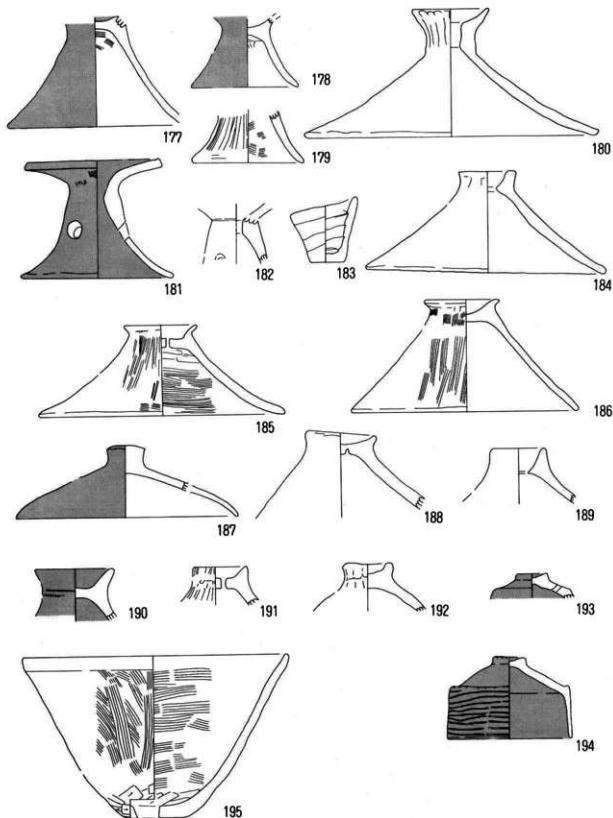
第 64 图 7 号住居跡出土土器



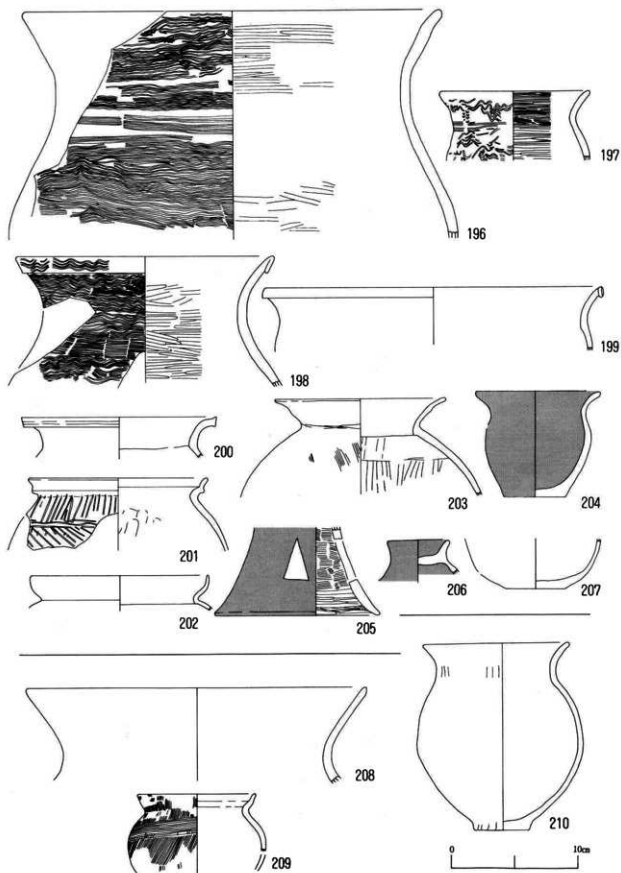
第 65 图 7 号住居跡出土土器



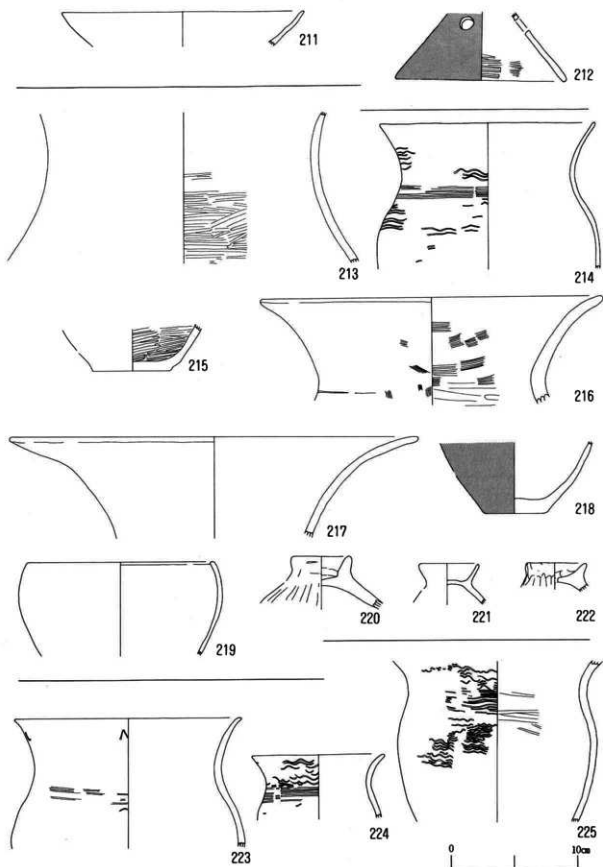
第 66 图 7 号住居跡出土土器



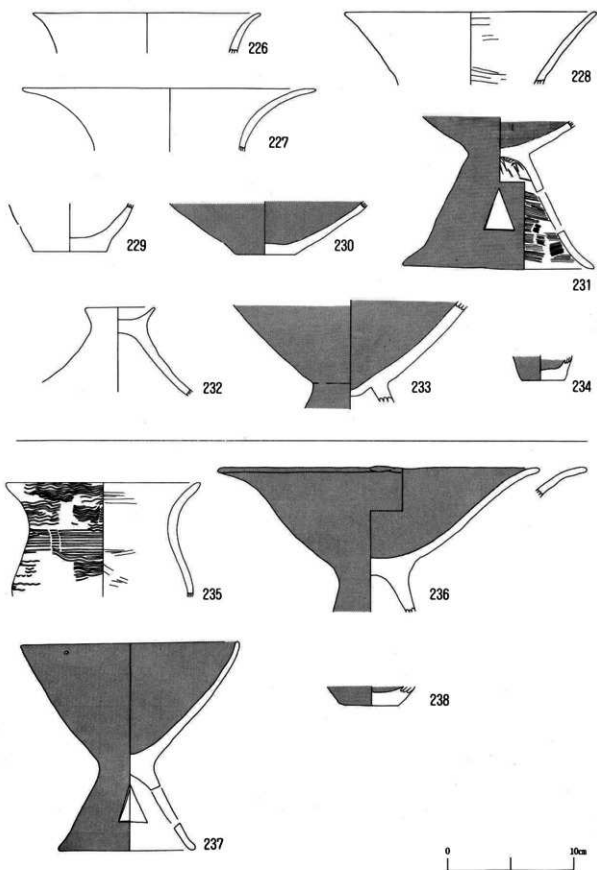
第 67 图 7 号住居跡出土土器



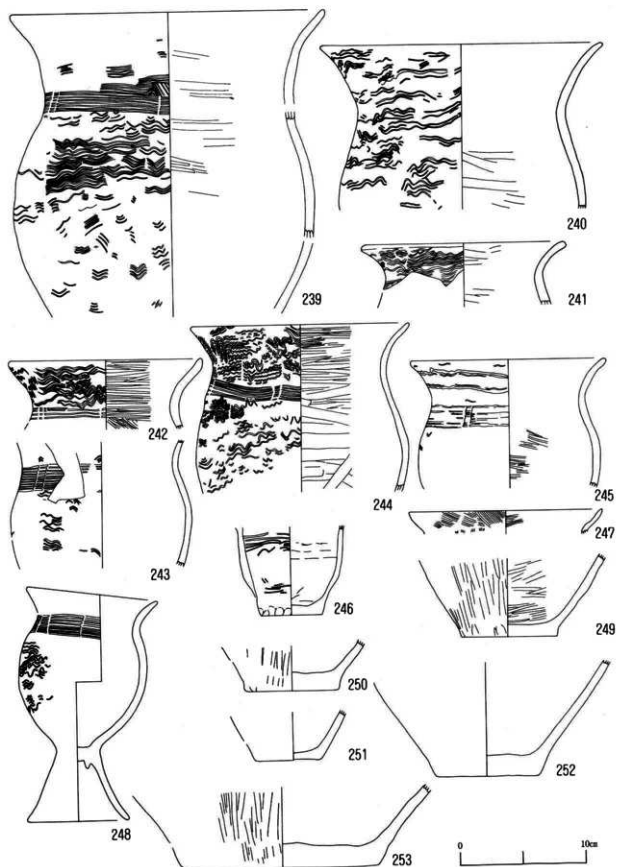
第 68 图 8 号·9 号住居跡出土土器



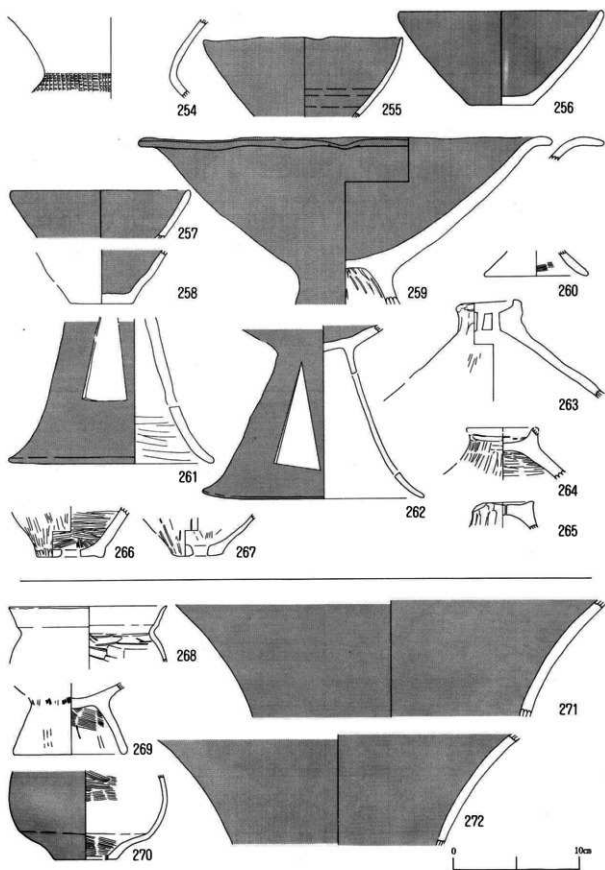
第 69 图 9 号·10号·11号住居跡出土土器



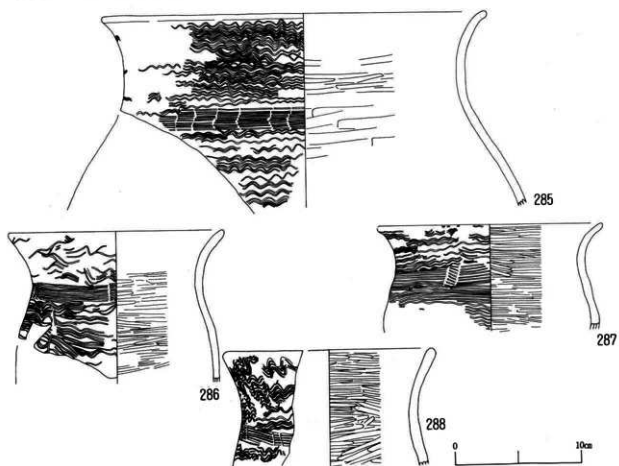
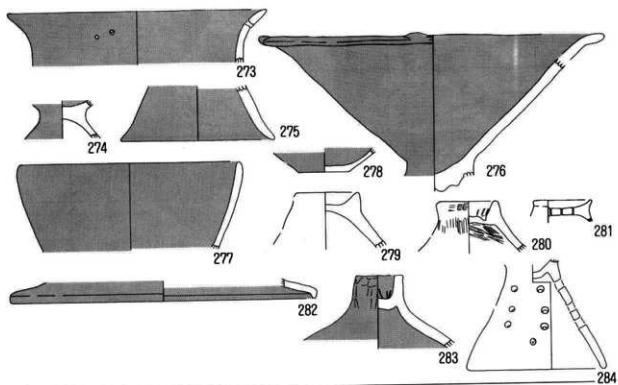
第 70 图 11号·12号住居跡出土土器



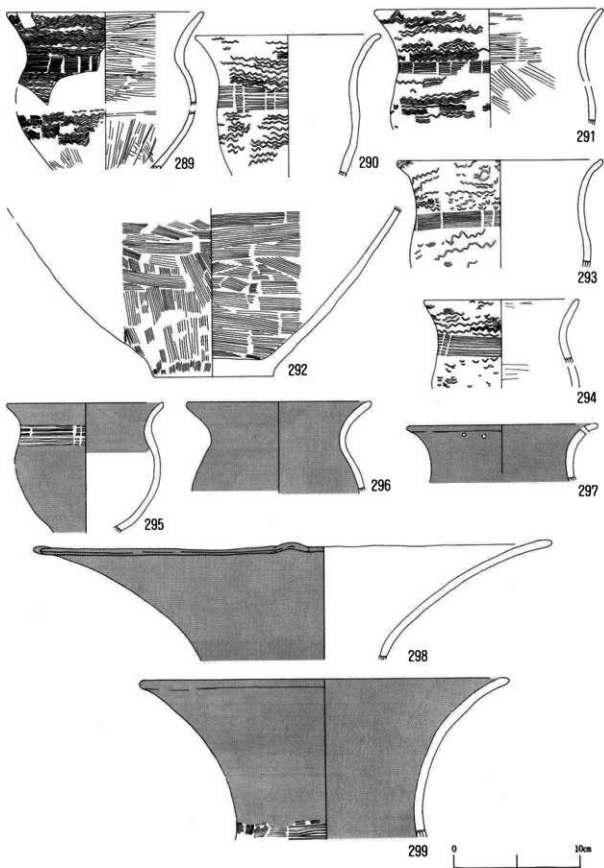
第 71 图 13号住居跡出土土器



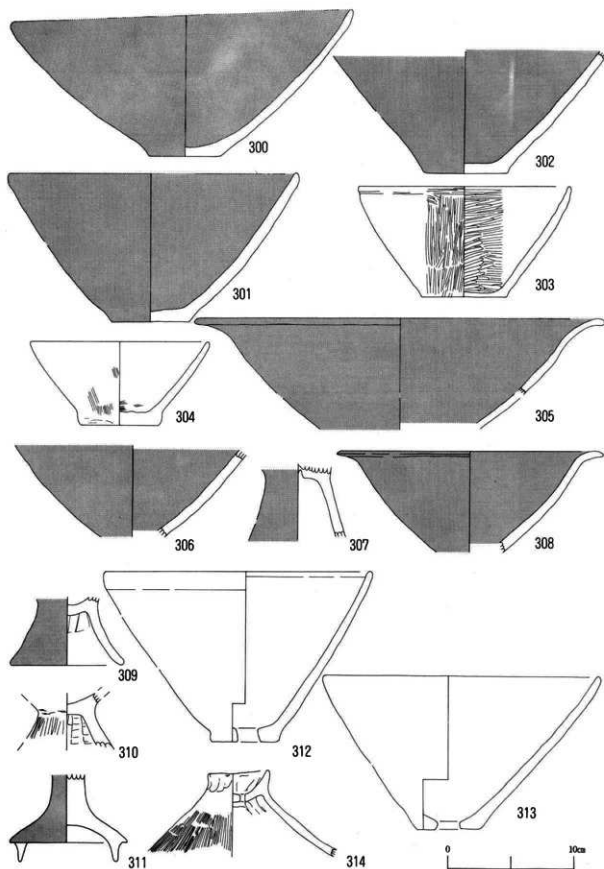
第 72 图 13号·14号住居跡出土土器



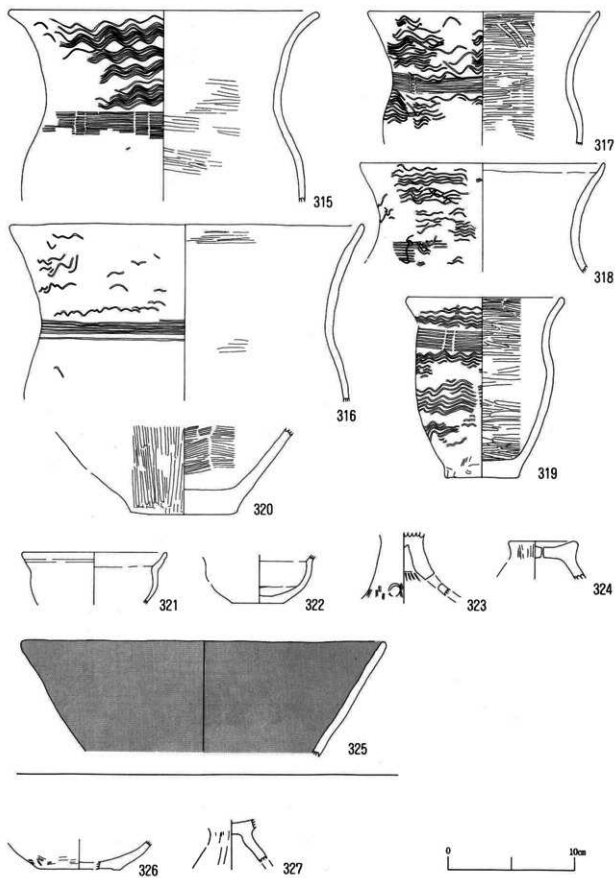
第 73 图 14号·15号住居跡出土土器



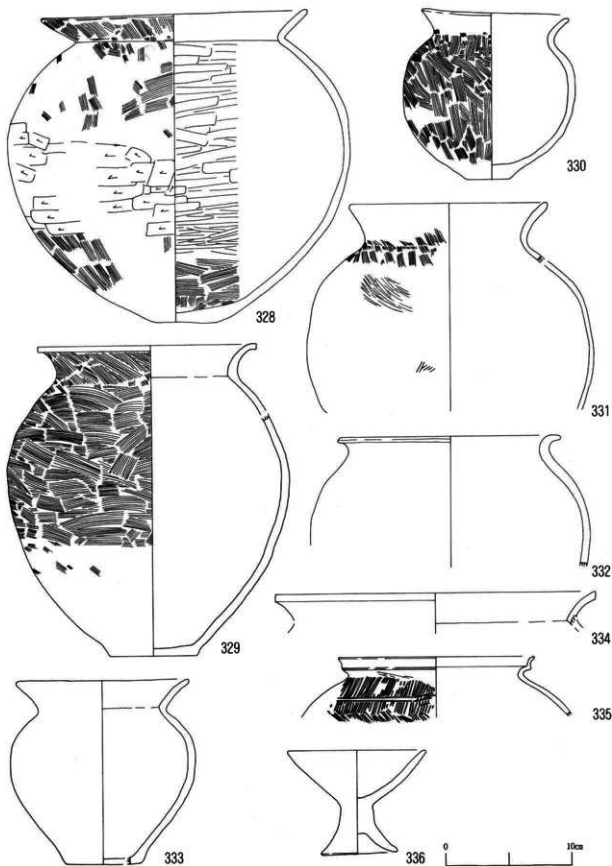
第 74 图 15号住居跡出土土器



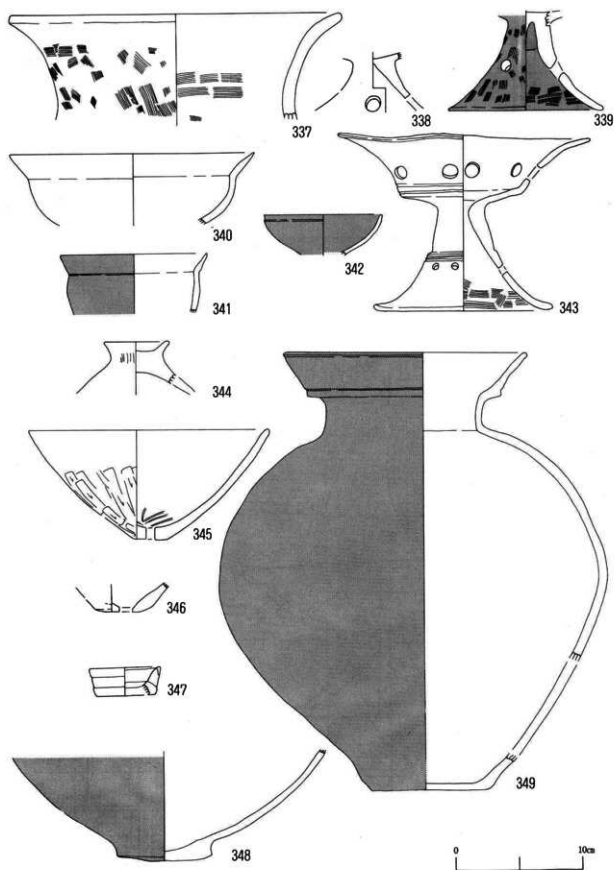
第 75 图 15号住居跡出土土器



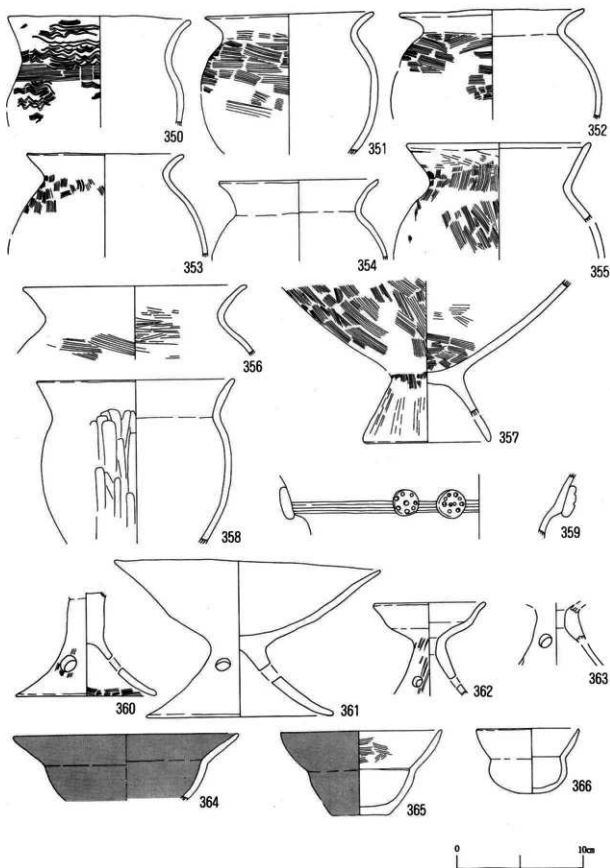
第 76 图 16号·17号住居跡出土土器



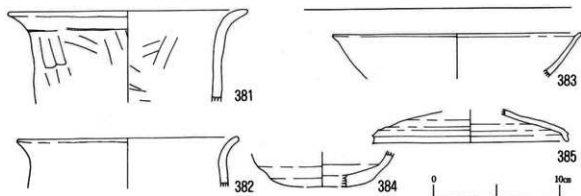
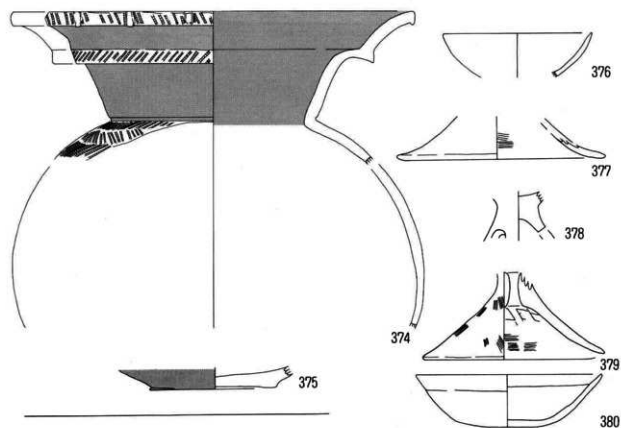
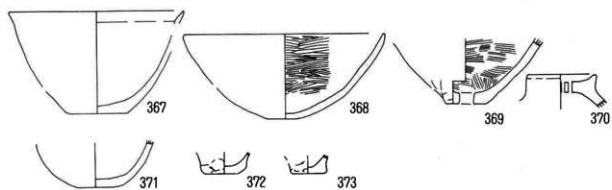
第 77 图 18号住居跡出土土器



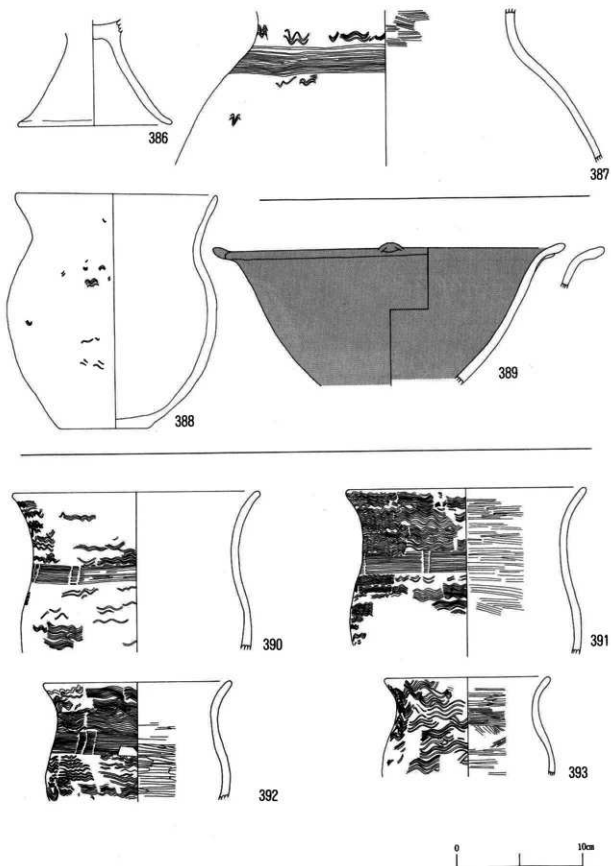
第 78 图 18号住居跡出土土器



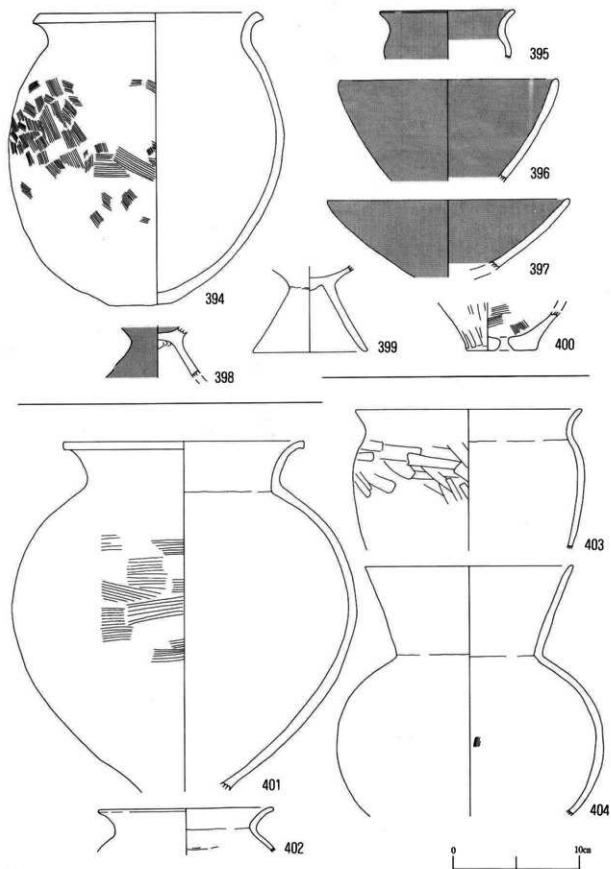
第 79 图 19号住居跡出土土器



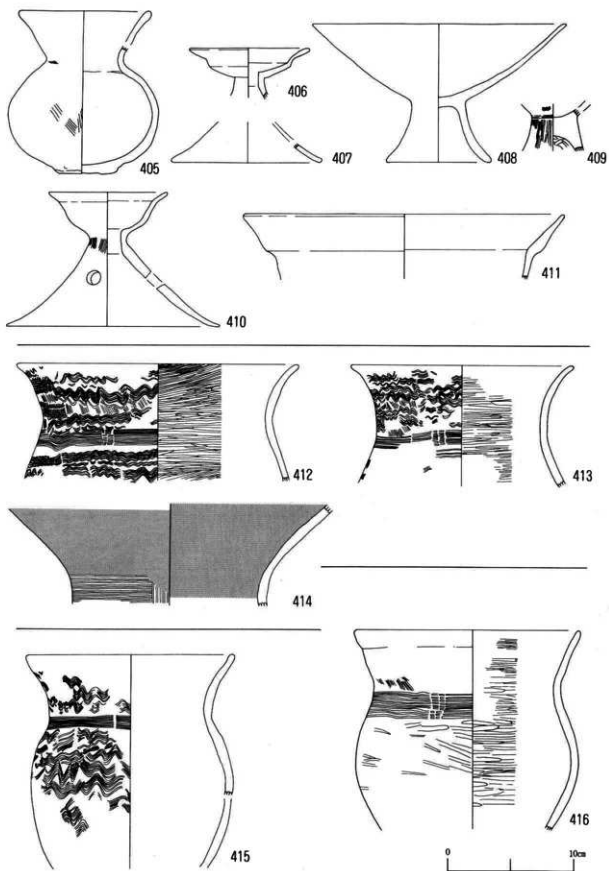
第 80 图 19号·20号·21号住居跡出土土器



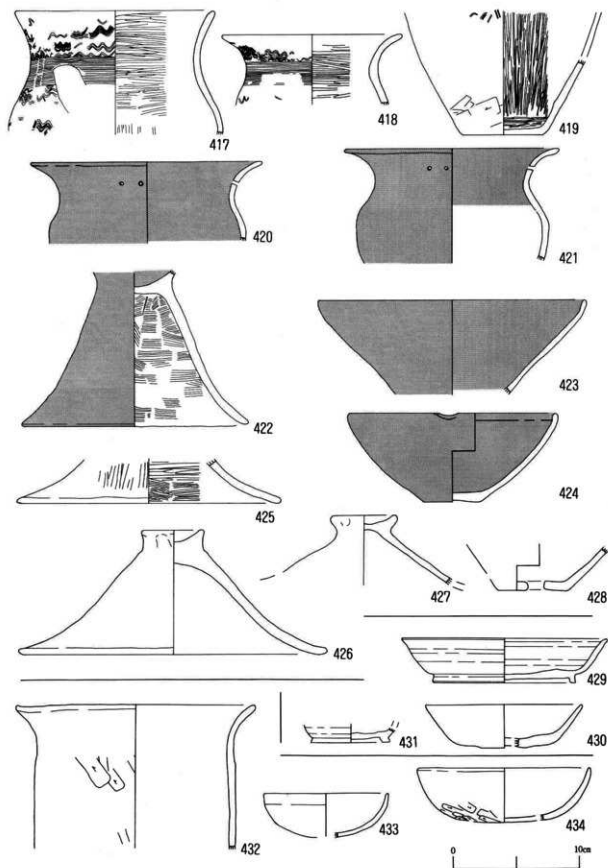
第 81 圖 24号・22号・25号住居跡出土土器



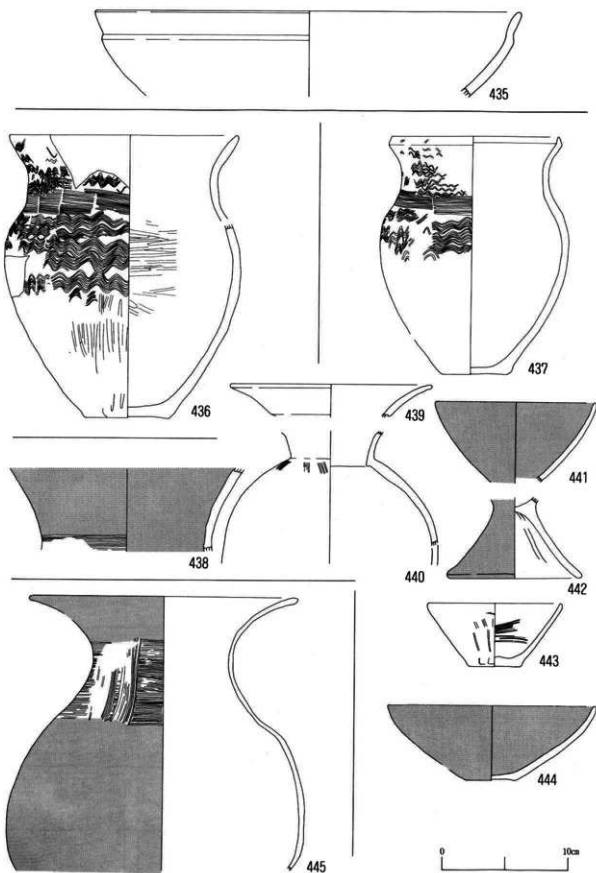
第 82 图 25号·27号住居跡出土土器



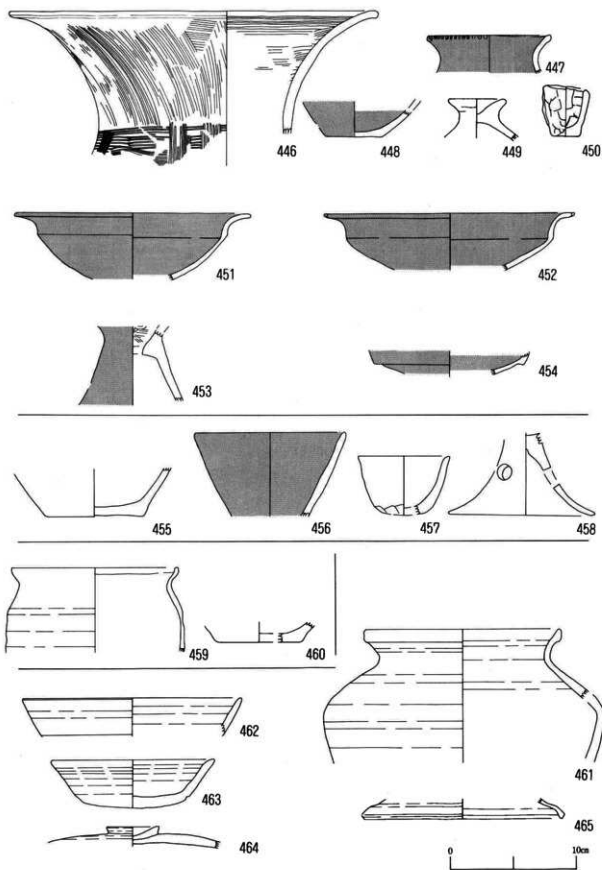
第 83 图 27号·28号·29号住居跡出土土器



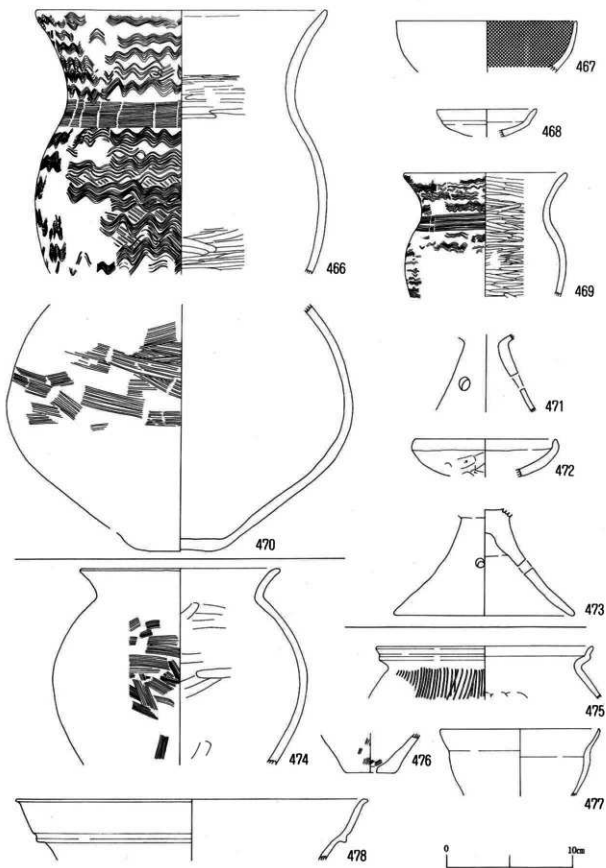
第 84 图 29号·31号·33号住居跡出土土器



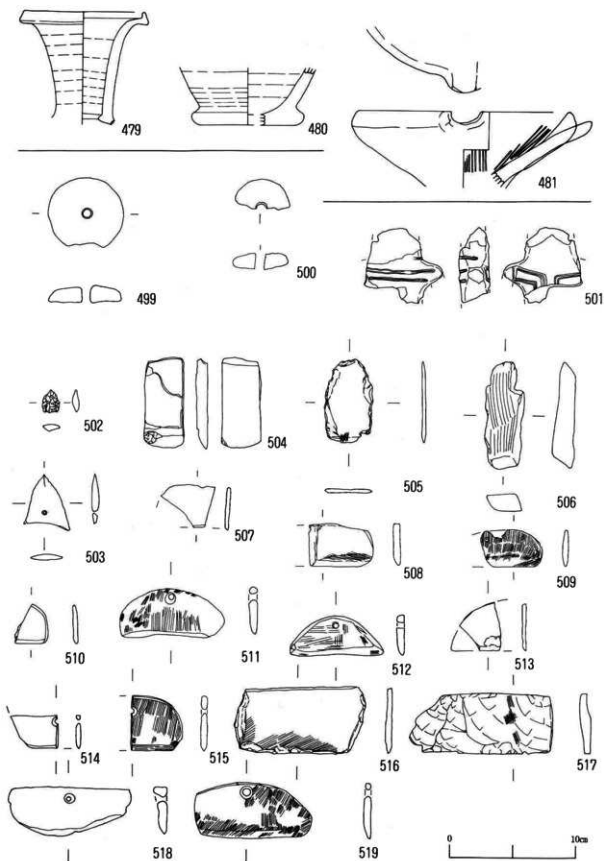
第 85 图 33号·32号·35号·36号住居跡出土土器



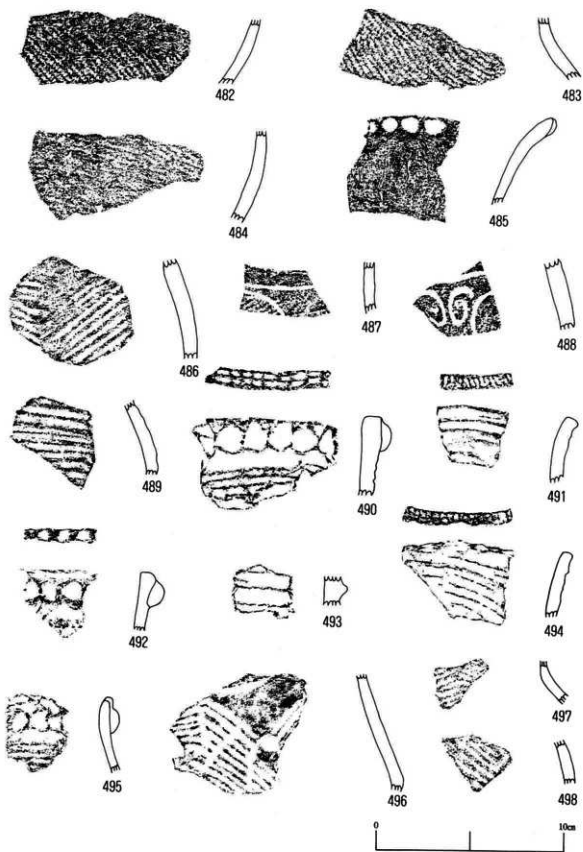
第 86 图 36号住居跡
2号・5号・6号溝跡出土土器



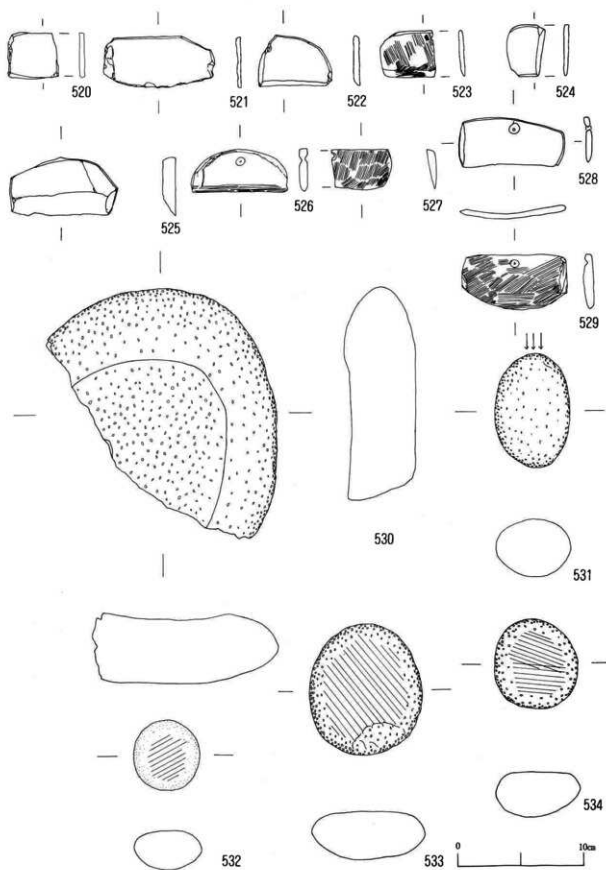
第 87 图 土坑·遺構外出土土器



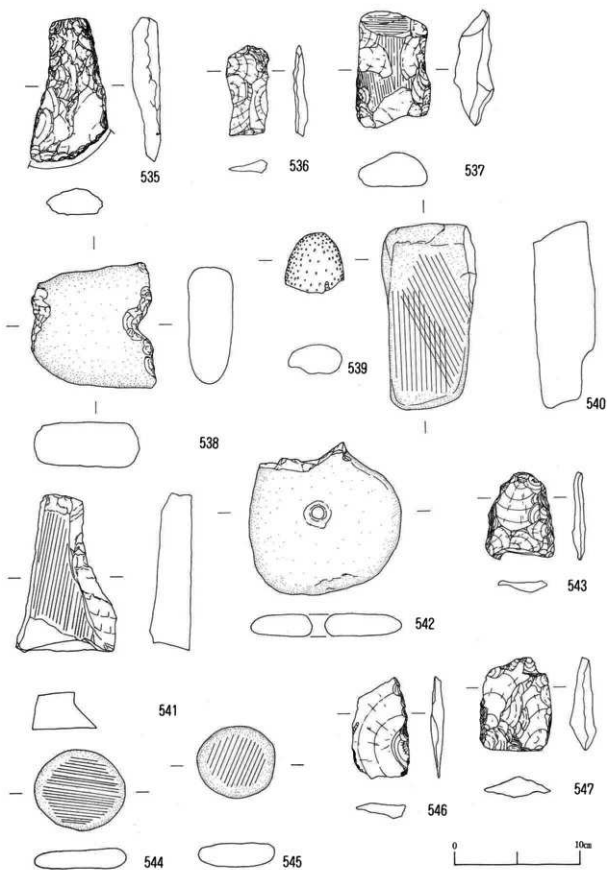
第 88 図 遺構外出土土器・石器・その他



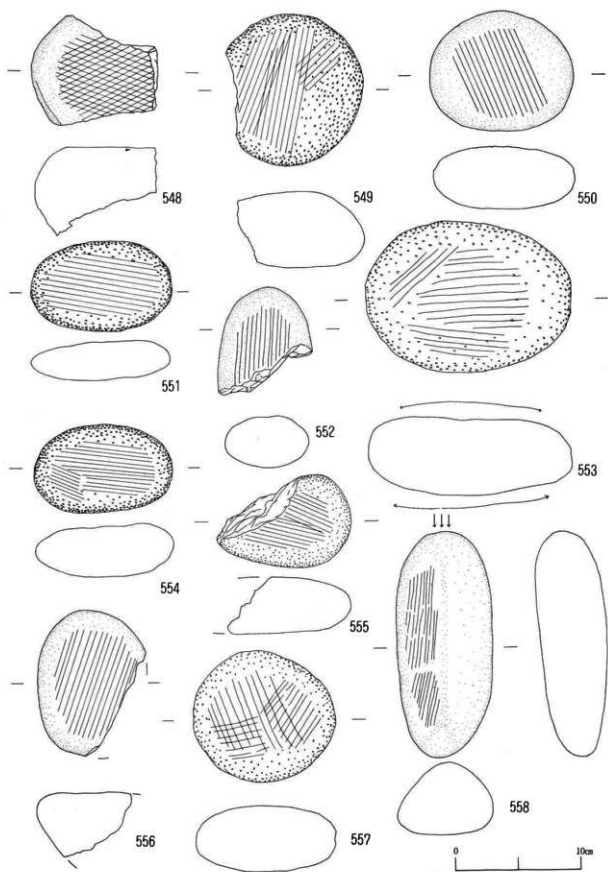
第 89 圖 出土土器拓本



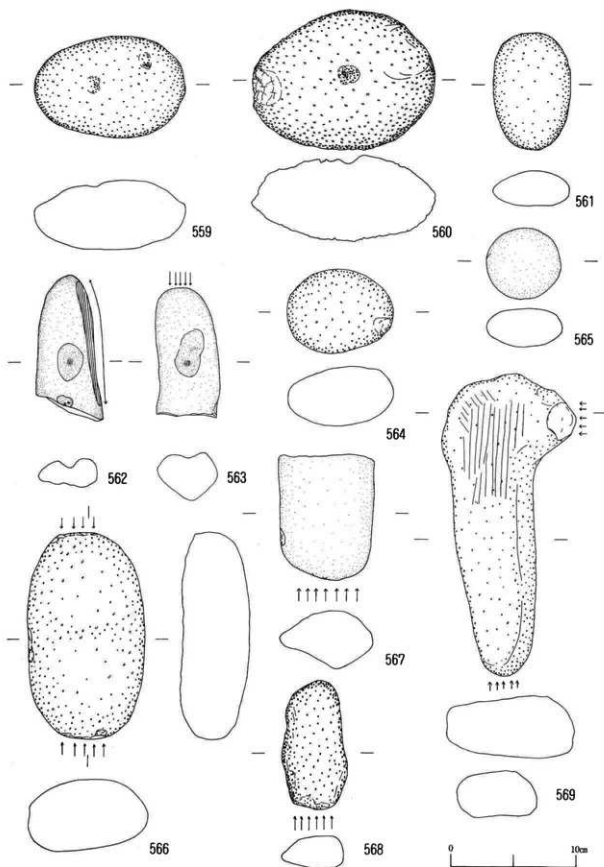
第 90 図 石器①



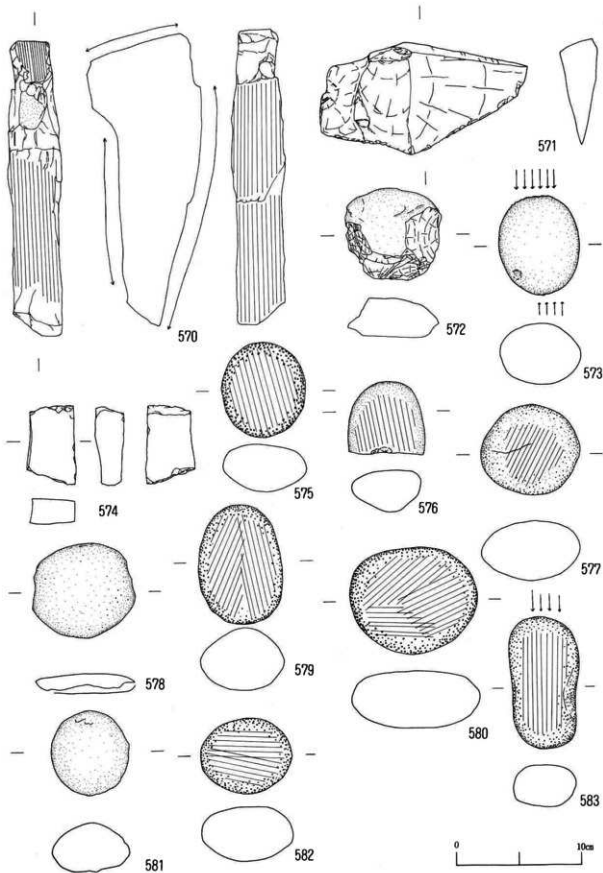
第 91 図 石器②



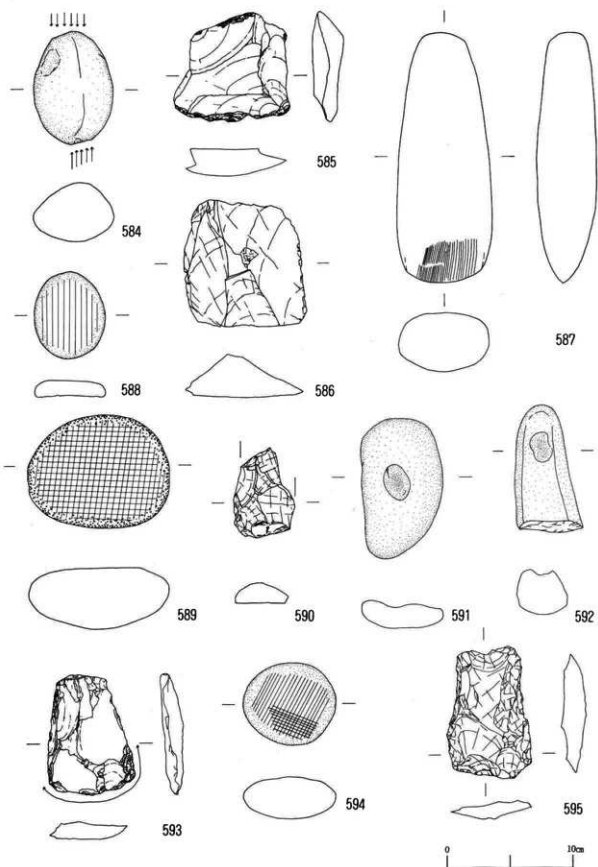
第 92 図 石器③



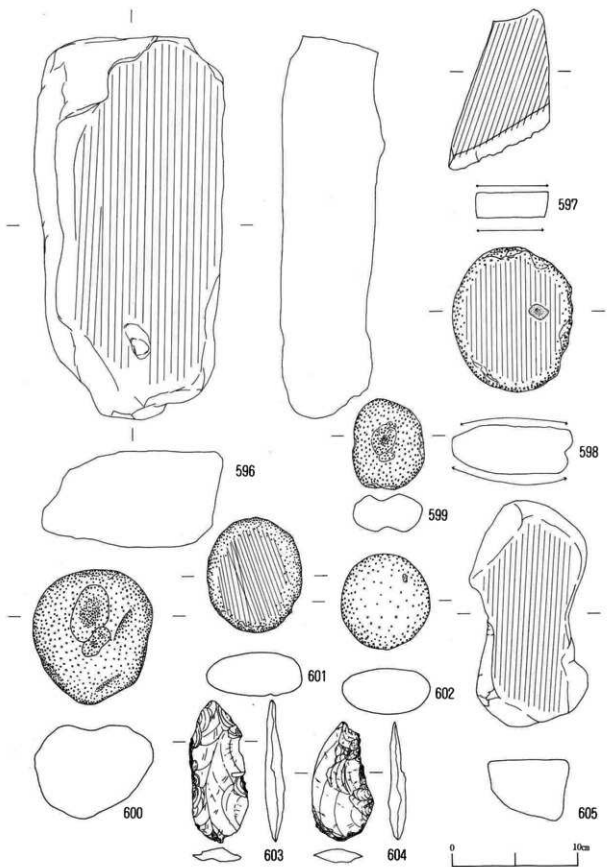
第 93 圖 石器④



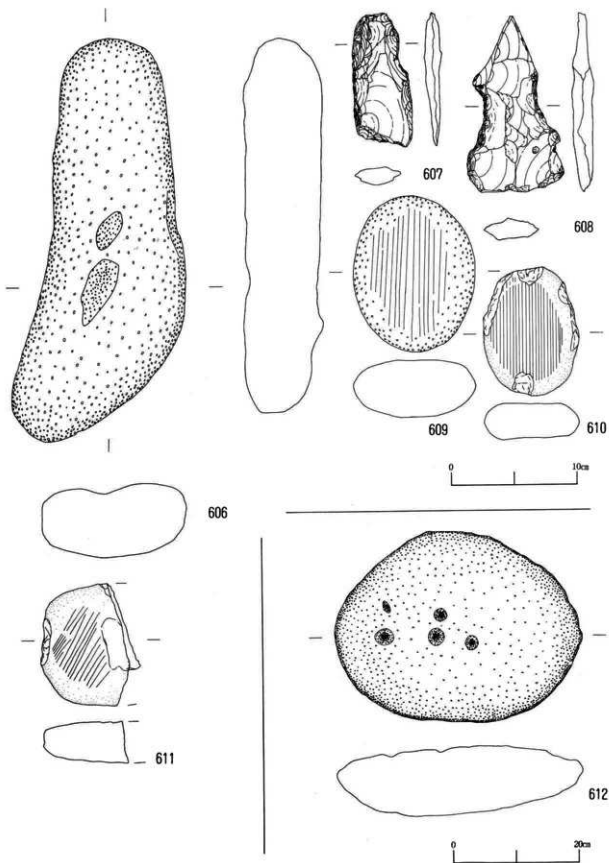
第 94 图 石器⑤



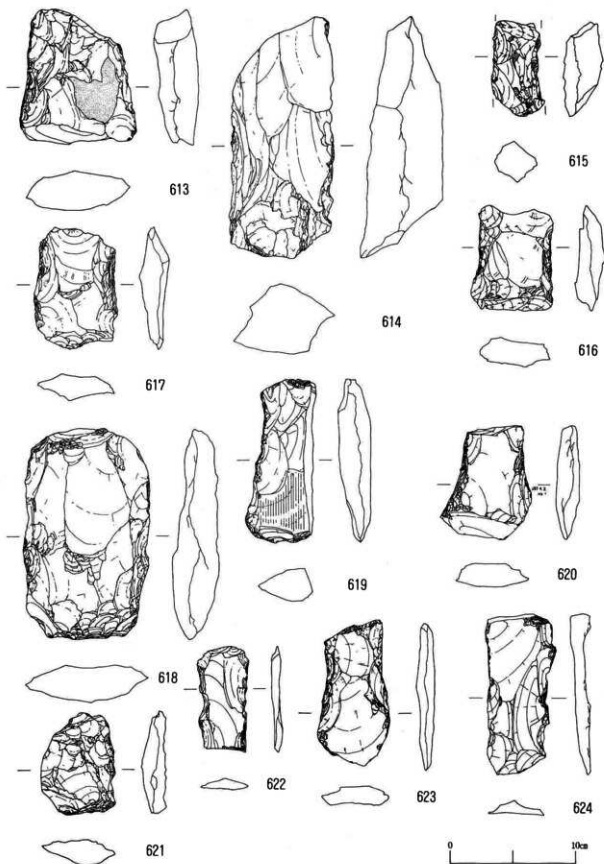
第 95 図 石器⑥



第 96 図 石器②



第 97 図 石器⑧



第 98 図 石器⑨

出土土器観察表

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
1	SB01	A 甕 (須恵器)	a 灰白 c やや不良 (軟質)	1/4(口縁)
2	SB01	A ふた (須恵器)	a 灰 c 良好	1/2
3	SB02	A 甕	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
4	SB02	A 甕 C 波状文を施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
5	SB02	A 甕 B 口縁先端が内湾する。 D 器面荒れており調整等不明。	a にぶい橙 c 良好	1/8
6	SB02	A 甕	a 赤褐 b 砂粒を含む c 良好	2/3(口縁)
7	SB02	A 甕	a 赤褐 c 良好	2/3
8	SB02	A 甕 B S字口縁をもつ。	a 浅黄橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2(口縁)
9	SB02	A 甕 C 外面にヘラによる斜状の沈線を施す。	a 明褐 c 良好	1/4
10	SB02	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2(口縁)
11	SB02	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a 明褐灰 b 小石(2mm前後)を多く含む。 c 良好	1/4
12	SB02	A 甕 D 口縁部に面取りを施す。器面荒れており調整等不明。	a 明赤褐 c 良好	1/4(口縁)
13	SB02	A 甕 D 器面荒れており調整等不鮮明。	a にぶい褐 c 良好	1/4(口縁)
14	SB02	A 小型甕 D 口縁部が鐙状に広がる。	a 橙 c 良好	4/5
15	SB02	A 小型甕 D 器面荒れており調整等不明。	a にぶい橙 c 良好	1/4(口縁)
16	SB02	A 甕	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	底部
17	SB02	A 甕	a 橙 c 良好	底部
18	SB02	A 甕	a 橙 c 良好	底部
19	SB02	A 甕	a にぶい橙 c 良好	底部
20	SB02	A 台付甕	a 明赤褐 c 良好	1/4(台部)
21	SB02	A 台付甕	a にぶい橙 c 良好	接合部
22	SB02	A 台付甕	a 赤褐 b 砂粒を含む c 良好	接合部
23	SB02	A 台付甕 D 器面荒れており調整等不明。	a 浅黄橙 c 良好	4/5
24	SB02	A 短頸壺 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
25	SB02	A 壺 D 貼付文が4ヶ所につく。器面荒れており調整等不明。	a 橙 c 良好	1/2(口縁)
26	SB02	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 c 良好	4/5

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
27	SB02	A 鉢 B 口縁が大きく外反する。 C 外面に強いハケ状工具による調整をもつ。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	3/5
28	SB02	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a にぶい褐 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	1/4
29	SB02	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	1/4(口縁)
30	SB02	A 小型丸底土器 D 器面荒れており調整等不明。	a 黄橙 c 良好	1/3
31	SB02	A 小型丸底土器	a 明褐 b 小石を含む c 良好	1/4(口縁)
32	SB02	A 鉢	a 橙 c 良好	1/3
33	SB02	A 高坏 D 器面荒れている。	a 橙 c 良好	1/4(口縁)
34	SB02	A 高坏 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。器面荒れている。	a 赤褐 c 良好	4/5(坏部)
35	SB02	A 高坏	a にぶい橙 c 良好	接合部
36	SB02	A 高坏 D 脚部に円形透窓を4ヶ所にもつ。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	接合部
37	SB02	A 高坏 D 脚部に円形透窓を4ヶ所にもつ。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	接合部
38	SB02	A 高坏 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。	a 橙 c 良好	接合部
39	SB02	A 器台	a 明赤褐 c 良好	1/4(受縁)
40	SB02	A 器台	a 明赤褐 c 良好	1/4(受部)
41	SB02	A 器台 D 内外面に赤彩を施す。受部に円形透窓をもつ。	a にぶい褐 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	1/4(受部)
42	SB02	A 器台	a 明褐 b 砂粒を含む c 良好	1/3(脚部)
43	SB02	A 器台 D 脚部に円形透窓をもつ。	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	脚部
44	SB02	A 器台 D 受部内面・外面に赤彩を施す。脚部に円形透窓をもつ。	a 橙 c 良好	1/4
45	SB02	A 器台 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2
46	SB02	A 器台 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。器面荒れており調整等不明。	a 橙 c 良好	脚部
47	SB02	A 器台 D 脚部に円形透窓を3ヶ所に持つ。	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	脚部
48	SB02	A ふた D つまみ部に穴を一つもつ。	a 明赤褐 c 良好	1/4
49	SB02	A ふた D つまみ部に穴を一つもつ。	a にぶい橙 b 小石を含む c 良好	1/2(つまみ)
50	SB02	A ふた D つまみ部に穴を複数もつ。	a 赤褐 b 砂粒を多く含む c 良好	つまみ

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
51	SB02	A ふた	a 橙 c 良好	つまみ
52	SB02	A ふた	a にぶい橙 c 良好	つまみ
53	SB02	A 手捏土器 B 球形に近い形態を呈する。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	完形
54	SB02	A 手捏土器	a にぶい褐 b 砂粒を含む c 良好	1/2
55	SB02	A 手捏土器	a 明褐 c 良好	底部
56	SB02	A 手捏土器	a にぶい褐 c 良好	底部
57	SB03	A 甕	a 橙 c 良好	1/4(口縁)
58	SB03	A 甕	a にぶい褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
59	SB03	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
60	SB03	A 甕	a 極暗赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
61	SB03	A 甕	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	底部
62	SB03	A 甕 D 器面全体にハケ目調整を施す。	a 褐灰 b 砂粒を含む c 良好	1/4
63	SB03	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4
64	SB03	A 小型丸底土器	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4
65	SB03	A 小型丸底土器	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4
66	SB03	A 高坏	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	2/3(脚部)
67	SB03	A 高坏	a 浅黄橙 c 良好	1/8(坏部)
68	SB03	A 高坏 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を多く含む c 良好	坏部
69	SB03	A ふた	a 黄橙 b 砂粒を含む c 良好	つまみ
70	SB03	A 高坏 D 脚部に円形透窓を3ヶ所に持つ。器面荒れており調整等不明。	a 赤褐 b 砂粒を多く含む c 良好	脚部
71	SB04	A 甕 D 器面荒れている。	a 赤褐 c 良好	完形
72	SB04	A 鉢 D 内外面赤彩を施す。	a 浅黄橙 c 良好	底部
73	SB04	A 甕 C 波状文を施す。	a 黒褐 c 良好	底部
74	SB04	A 鉢	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	2/3
75	SB04	A 鉢	a 橙 b 小石及び砂粒を含む c 良好	1/4
76	SB04	A 台付甕型土器 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	甕部分
77	SB04	A ふた D つまみ部に穴を1つもつ。器面荒れており調整等不鮮明。	a 浅黄橙 b 砂粒をもつ c 良好	完形

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
78	SB04	A ふた D つまみ部に穴を2つもつ。器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	2/3
79	SB04	A ふた D つまみ部に穴を2つもつ。	a にぶい橙 c 良好	1/4
80	SB04	A 壺 C 頸部にT字文をもつ。 D 内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	2/3
81	SB05	A 坏 (須恵器) D 底部回転糸切り	a 灰 c 良好	完形
82	SB05	A 坏 (須恵器) D 底部回転糸切り	a 灰白 c 良好	1/4
83	SB06	A 坏 (須恵器) D 底部回転ヘラケズリ	a 灰 c 良好	1/2
84	SB06	A ふた (須恵器)	a 灰黄 c 良好	完形
85	SB06	A 坏 D 内面に黒色処理を施す。底部ヘラ調整	a にぶい赤褐 c 良好	1/2
86	SB06	A 坏 D 内面に黒色処理を施す。器面荒れている。	a 赤褐 c 良好	1/3
87	SB06	A 小型甕 D ロクロ調整をもつ。底部ヘラ調整を施す。	a 赤 c 良好	1/3
88	SB07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。 D 器面荒れている。	a にぶい褐 c 良好	2/3
89	SB07	A 甕 C 波状文を施す。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3(口縁)
90	SB07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。 D 器面荒れている。	a 暗褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3
91	SB07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/2
92	SB07	A 甕 B 口縁部が内側に屈曲する。C 簾状文・波状文を施す。	a 橙 c 良好	2/3(口縁・胴部)
93	SB07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。	a 褐灰 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁・胴部)
94	SB07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
95	SB07	A 甕 C 波状文を施す。	a 明褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/8(口縁)
96	SB07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。 D 器面荒れている。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
97	SB07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
98	SB07	A 甕 C 波状文を施す。 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 茶色粒子・白色粒子を含む c 不良	1/4(口縁・胴部)
99	SB07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。	a 褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁・胴部)

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
100	SB 07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。 D 器面荒れている。	a にぶい赤褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁~胴部)
101	SB 07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。 D 器面荒れている。	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁~胴部)
102	SB 07	A 甕 C 波状文を施す。 D 器面荒れており調整等不明。	a 褐 b 茶色粒子・白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3(口縁)
103	SB 07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。 D 器面荒れている。	a にぶい赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/2(口縁~胴部)
104	SB 07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。 D 器面荒れており調整等不明。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁~胴部)
105	SB 07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。 D 器面荒れている。	a 赤褐色 b 砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
106	SB 07	A 甕 C 波状文を施す。	a にぶい黄橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2
107	SB 07	A 甕 C 簾状文・波状文を施す。	a にぶい赤褐 b 砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
108	SB 07	A 甕 B 口縁部に面取りを施す。 D 胴部に叩き目を施す。	a にぶい橙 b 白色粒子を含む c 良好	1/3(口縁~胴部)
109	SB 07	A 甕 B 口縁部に面取りを施す。	a 明褐色 b 砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
110	SB 07	A 甕 B 口縁部に面取りを施す。 D 器面荒れており調整等不明。	a 浅黄橙 b 砂粒を多く含む c 良好	2/3
111	SB 07	A 甕 B 口縁部に段をもつ。 C 口縁部に擬凹線文を施す。 D 器面荒れている。	a 褐色 b 白色粒子を含む c 良好	2/3(口縁)
112	SB 07	A 甕 B 口縁部に段をもつ。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/8(口縁)
113	SB 07	A 甕	a 浅黄橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
114	SB 07	A 甕 B 口縁部に面取りを施す。	a 橙 b 黒雲母・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3(口縁)
115	SB 07	A 甕 B 口縁部に面取りを施す。	a 橙 b 茶色粒子・白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
116	SB 07	A 甕 D 器面荒れている。	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	2/3
117	SB 07	A 甕	a 褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁~胴部)
118	SB 07	A 甕 B 口縁部断面がS字状を呈する。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
119	SB 07	A 台付甕 D 恐らく、S字甕の底部と思われる。	a にぶい褐 b 茶色粒子・白色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
120	SB 07	A 甕 D 器面荒れている。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/3(口縁)

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
121	SB 0 7	A 甕	a 灰褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
122	SB 0 7	A 甕	a 褐灰 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁～胴部)
123	SB 0 7	A 甕 B 口縁部先端が内湾する。 D 器面荒れており調整等不明。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/8(口縁)
124	SB 0 7	A 甕	a 褐灰 b 砂粒を少量含む c 良好	1/2(胴部～底部)
125	SB 0 7	A 甕	a 橙 b 茶色粒子を含む c 良好	底部
126	SB 0 7	A 甕 D 器面荒れている。	a 浅黄橙 b 白色粒子・茶色粒子を含む c 良好	底部
127	SB 0 7	A 甕(台付甕となる可能性がある。) C 簾状文・波状文を施す。 D 器面荒れている。	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子を含む c 良好	1/4(口縁～胴部)
128	SB 0 7	A 台付甕 C 簾状文・波状文を施す。	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	甕部(台部欠損)
129	SB 0 7	A 台付甕	a 橙 b 白色粒子を含む c 良好	脚部
130	SB 0 7	A 台付甕(高坏の可能性もある) D 器面荒れている。	a 浅黄橙 b 砂粒を含む c 良好	脚部
131	SB 0 7	A 壺	a 褐灰 b 砂粒を含む c 良好	1/4(頸部)
132	SB 0 7	A 壺 B 頸部にヘラ描斜状文をもつ。 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2(頸部)
133	SB 0 7	A 壺 C 頸部にT字文が施されていると思われる。 D 内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁)
134	SB 0 7	A 壺 D 内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
135	SB 0 7	A 壺 D 内外面に赤彩を施す。	a 黄橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
136	SB 0 7	A 壺	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	2/3(口縁)
137	SB 0 7	A 壺 B 口縁部に段をもつ。 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
138	SB 0 7	A 壺 C 頸部にT字文を施す。 D 内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐 c 良好	頸部～胴部
139	SB 0 7	A 壺 C 頸部にT字文を施す。 D 内外面に赤彩を施す。	a 淡橙 b 茶色粒子を含む c 良好	頸部～胴部
140	SB 0 7	A 壺 C 頸部にT字文を施す。 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	口縁
141	SB 0 7	A 壺 C 頸部に横溝文を施す。	a 淡橙 b 砂粒を含む c 良好	1/3
142	SB 0 7	A 甕型土器 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色・白色粒子・砂粒を含む c 良好	2/3

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
143	SB 0 7	A 甕型土器 D 内外面に赤彩を施す。	a 褐灰 b 砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
144	SB 0 7	A 甕型土器 D 内外面に赤彩を施す。	a 明褐灰 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁・胴部)
145	SB 0 7	A 甕型土器 D 内外面に赤彩を施す。	a 浅黄橙 b 小石・砂粒を含む c 良好	1/3
146	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 灰白 c 良好	2/3
147	SB 0 7	A 鉢	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
148	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐 b 白色粒子を含む c 良好	1/4(口縁)
149	SB 0 7	A 鉢 D 器面荒れており調整等不明。	a 灰褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
150	SB 0 7	A 片口鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 灰白 b 砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
151	SB 0 7	A 片口鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/2
152	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
153	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 暗赤褐 b 砂粒を含む c 良好	底部
154	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(底部)
155	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/3(口縁)
156	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。口縁部に穴を1つもつ。	a 灰白 b 砂粒を含む c 良好	1/2
157	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 黄橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
158	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	底部
159	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 明褐灰 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	底部
160	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3
161	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・黒雲母を含む c 良好	1/3
162	SB 0 7	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 黄橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	底部
163	SB 0 7	A 鉢 B 口縁部が「く」の字状にひらく。 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/3
164	SB 0 7	A 鉢 B 口縁部が「く」の字状にひらく。口唇部に面取りを施す。	a におい褐 c 良好	ほぼ完形
165	SB 0 7	A 鉢 B 口縁部が「く」の字状にひらく。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
166	SB 0 7	A 鉢 B 口縁部が「く」の字状にひらく。	a 褐 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/8(口縁)

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
167	SB07	A 高坏	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁)
168	SB07	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 c 良好	2/3
169	SB07	A 高坏 D 内外面に赤彩を施す。	a 灰白 b 砂粒を含む c 良好	1/3(坏部)
170	SB07	A 高坏 D 内外面に赤彩を施す。	a にぶい褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(坏部)
171	SB07	A 高坏 D 内外面に赤彩を施す。口縁部に舌状突起をもつ。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2(坏部)
172	SB07	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 灰白 b 茶色粒子を含む c 良好	1/2(脚部)
173	SB07	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 黄橙 b 砂粒を含む c 良好	接合部
174	SB07	A 高坏 D 内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(坏部)
175	SB07	A 高坏 D 内外面に赤彩を施す。口縁部に舌状突起をもつ。	a にぶい赤褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	2/3(坏部)
176	SB07	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。脚部に三角透意をもつ。	a 暗褐 b 砂粒を多く含む c 良好	1/2(脚部)
177	SB07	A 高坏 D 外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	脚部
178	SB07	A 高坏 D 外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(脚部)
179	SB07	A 高坏 D 器面荒れている。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2(脚部)
180	SB07	A ふた D つまみ部に一つの穴をもつ。器面荒れており調整等不明。	a にぶい橙 b 茶色粒子・白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4
181	SB07	A 器台 D 脚部に円形透意を3ヶ所にもつ。	a 灰黄褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
182	SB07	A 器台 D 脚部に円形透意を3ヶ所にもつ。	a 黄橙 b 砂粒を多く含む c 良好	1/2(脚部)
183	SB07	A ミニチュア土器	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	完形
184	SB07	A ふた D つまみ部に1つの穴をもつ。器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 茶色粒子・白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3
185	SB07	A ふた D つまみ部に3つの穴をもつ。	a 褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4
186	SB07	A ふた	a 黒褐 b 砂粒を含む c 良好	1/3
187	SB07	A ふた B 外面に赤彩を施す。	a 黄褐 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/3
188	SB07	A ふた D つまみ部に3つの穴をもつ。その内の1つは穴が通っていない。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	つまみ
189	SB07	A ふた D つまみ部に焼成後、大きな穴を1つ開けてある。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	つまみ

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
190	SB 0 7	A ふた D つまみ部に1つの穴をもつ。内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	つまみ
191	SB 0 7	A ふた D つまみ部に4つの穴をもつ。	a 黒褐 b 砂粒を含む c 良好	つまみ
192	SB 0 7	A ふた	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	つまみ
193	SB 0 7	A ふた D 外面に赤彩を施す。かさの部分、2ヶ所に穴をもつ。	a 橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	つまみ部～かさ
194	SB 0 7	A ふた B かさ端部が長く垂直に延びる。C かさ端部に10本の沈線をもつ。D 内外面に赤彩を施す。	a 黄橙 b 茶色粒子・黒雲母を含む c 良好	1/2
195	SB 0 7	A こしき D 底部に1つの穴をもつ。	a 赤褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
196	SB 0 8	A 甕 C 簾状文・波状文	a 黄橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/3(口縁～胴部)
197	SB 0 8	A 甕 C 簾状文・波状文	a にぶい橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/6(口縁～胴部)
198	SB 0 8	A 甕 B 口縁部を折り返している。C 簾状文・波状文	a 褐灰 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁～胴部)
199	SB 0 8	A 甕 D 口縁部に面取りを施す。	a にぶい橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁部)
200	SB 0 8	A 甕 D 口縁部に面取りを施す。器面荒れており調整等不明。	a 明赤褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁部)
201	SB 0 8	A 甕 D 口縁部がS字を呈する。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁～胴部)
202	SB 0 8	A 甕 D 口縁部が内湾する。	a 橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/8(口縁部)
203	SB 0 8	A 甕	a 明褐灰 b 小石(1mm前後)・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁～胴部)
204	SB 0 8	A 甕型土器 D 内外面に赤彩を施す。	a 明褐灰 b 小石(1mm前後)を含む c 良好	1/2
205	SB 0 8	A 高坏 D 脚部に三角形透窓をもつ。外面に赤彩を施す。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(脚部)
206	SB 0 8	A ふた D 内外面に赤彩を施す。	a 黒褐 b 砂粒を含む c 良好	つまみ
207	SB 0 8	A 小型丸底土器?	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	胴部～底部
208	SB 0 9	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a にぶい赤褐 b 小石(1mm前後)を含む c 良好	1/4(口縁部)
209	SB 0 9	A 甕 (台付甕の可能性ある。)	a 褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁～胴部)
210	SB 0 9	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a 明褐 b 砂粒を多く含む c 良好	4/5
211	SB 0 9	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a にぶい赤褐 b 小石(1mm前後)を含む c 良好	1/4(坏部)
212	SB 0 9	A 高坏 D 外面に赤彩を施す。	a 浅黄褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(脚部)

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
213	SB10	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a ぶい褐色 b 砂粒を含む c 良好	1/4(頸部)
214	SB10	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a 赤褐 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/3(口縁・胴部)
215	SB10	A 甕	a 赤褐 b 茶色粒子・白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	底部
216	SB10	A 甕	a 褐 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁)
217	SB10	A 壺 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
218	SB10	A 鉢 D 外面に赤彩を施す。	a 赤褐 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/3
219	SB10	A 鉢 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4
220	SB10	A ふた D 器面荒れている。	a 灰褐 c 良好	つまみ
221	SB10	A ふた D 器面荒れている。	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	つまみ
222	SB10	A ふた D つまみ部に1つの穴をもつ。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	つまみ
223	SB11	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れており調整等不鮮明。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁・胴部)
224	SB11	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a 暗褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁・胴部)
225	SB11	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a ぶい褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁・胴部)
226	SB11	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a ぶい褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
227	SB11	A 壺 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁)
228	SB11	A 壺	a ぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
229	SB11	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a 黒褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
230	SB11	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 赤褐 b 砂粒を多く含む c 良好	底部
231	SB11	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。脚部に三角形透窓を4ヶ所にもつ。	a ぶい褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	2/3(脚部)
232	SB11	A ふた D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を多く含む c 良好	1/2
233	SB11	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	接合部
234	SB11	A 鉢(ミニチュア土器) D 内外面に赤彩を施す。	a ぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	底部
235	SB12	A 甕 C 波状文・簾状文	a 褐 b 砂粒を含む c 良好	2/3(口縁・胴部)
236	SB12	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。	a ぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	坏部

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
237	SB12	A 高坏 D 口縁部に穴を1つもつ。脚部に三角形透窓を4ヶ所にもつ。坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 浅黄橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
238	SB12	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
239	SB13	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a 褐 b 砂粒を含む c 良好	1/3
240	SB13	A 甕 C 波状文 D 器面荒れている。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁・胴部)
241	SB13	A 甕 C 波状文	a 黄橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2(口縁)
242	SB13	A 甕 C 波状文・簾状文	a 明赤褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	口縁部
243	SB13	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a 暗褐 b 砂粒を含む c 良好	1/3
244	SB13	A 甕 C 波状文・簾状文	a 赤褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
245	SB13	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4
246	SB13	A 甕 C 波状文・簾状文	a にぶい赤褐 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4
247	SB13	A 甕 C ハケ調整	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
248	SB13	A 台付甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a 褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
249	SB13	A 甕	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
250	SB13	A 甕	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	底部
251	SB13	A 甕	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	底部
252	SB13	A 甕 D 器面荒れており調整等不鮮明。	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
253	SB13	A 甕	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
254	SB13	A 壺 C 簾状文 D 器面荒れており調整等不明。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(頸部)
255	SB13	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
256	SB13	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4
257	SB13	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/3(口縁)
258	SB13	A 鉢 D 内面に赤彩を施す。	a 暗褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
259	SB13	A 高坏 D 口縁部に舌状突起が4ヶ所に付くと思われる。内外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	坏部
260	SB13	A 高坏	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(脚部)
261	SB13	A 高坏 D 脚部に三角形透窓を4ヶ所にもつ。外面に赤彩を施す。	a にぶい赤褐 b 砂粒を含む c 良好	脚部

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
262	SB13	A 高坏 D 脚部に三角形透窓を4ヶ所にもつ。外面に赤彩を施す。	a にくい黄褐色 c 良好 b 茶色粒子・砂粒を含む	脚部
263	SB13	A ふた D つまみ部に2つの穴をもつ。器面荒れており調整等不明。	a 褐色 b 砂粒を含む c 良好	1/2
264	SB13	A ふた	a 褐色 b 砂粒を含む c 良好	つまみ
265	SB13	A ふた D つまみ部に4つの穴をもつ。	a にくい褐色 c 良好 b 茶色粒子・砂粒を含む	つまみ
266	SB13	A こしき D 底部に穴を1つもつ。	a にくい褐色 c 良好 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む	底部
267	SB13	A こしき D 底部に穴を1つもつ。	a 褐色 b 砂粒を含む c 良好	底部
268	SB14	A 甕 B 有段口縁をもつ。	a にくい褐色 c 良好 b 小石(1mm前後)を含む	1/2(口縁~胴部)
269	SB14	A 台付甕	a 赤褐色 c 良好 b 白色粒子・砂粒を含む	台部
270	SB14	A 壺 D 外面に赤彩を施す。	a にくい褐色 c 良好 b 黒雲母・砂粒を含む	1/2
271	SB14	A 壺 D 内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐色 c 良好 b 茶色粒子・砂粒を含む	1/2(口縁)
272	SB14	A 壺 D 内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐色 c 良好 b 白色粒子・砂粒を含む	1/3(口縁)
273	SB14	A 甕型土器 D 口縁部に穴をもつ。内外面に赤彩を施す。	a にくい褐色 c 良好 b 砂粒を含む	1/4(口縁)
274	SB14	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。	a にくい褐色 c 良好 b 黒雲母・砂粒を含む	接合部
275	SB14	A 高坏 D 外面に赤彩を施す。	a 灰褐色 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	1/4(脚部)
276	SB14	A 高坏 D 口縁部に舌状の突起を4ヶ所にもつと思われる。内外面に赤彩を施す。	a にくい褐色 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	坏部
277	SB14	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a にくい褐色 c 良好 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む	1/2(口縁)
278	SB14	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 褐色 c 良好 b 白色粒子・砂粒を含む	底部
279	SB14	A ふた D 器面荒れており調整等不明。	a 暗赤褐色 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	つまみ
280	SB14	A ふた	a 浅黄褐色 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	つまみ
281	SB14	A ふた D つまみ部に3ヶ所、穴をもつ。	a 褐色 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	つまみ
282	SB14	A ふた D 内外面に赤彩を施す。	a にくい褐色 c 良好 b 砂粒を含む	端部
283	SB14	A ふた D 内外面に赤彩を施す。	a にくい褐色 c 良好 b 茶色粒子・砂粒を含む	1/2

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
284	SB14	A 高坏 D 脚部に縦に3つ並んだ円形の透穴が5ヶ所にある。開けかけの穴も1つある。	a ぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	2/3(脚部)
285	SB15	A 甕 C 波状文・簾状文	a ぶい橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3(口縁・胴部)
286	SB15	A 甕 C 波状文・簾状文	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁・胴部)
287	SB15	A 甕 C 波状文・簾状文	a 黒褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁・胴部)
288	SB15	A 甕 C 波状文・簾状文	a 黒灰 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁・胴部)
289	SB15	A 甕 C 波状文・簾状文	a 黄橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/3
290	SB15	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a 赤褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁・胴部)
291	SB15	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a 褐 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/3
292	SB15	A 甕 C ハケ調整	a 明褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	胴部～底部
293	SB15	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a 灰褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁・胴部)
294	SB15	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a ぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3
295	SB15	A 甕型土器 C 簾状文 D 内外面に赤彩を施す。	a 明赤褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3
296	SB15	A 甕型土器 D 内外面に赤彩を施す。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3(口縁・胴部)
297	SB15	A 甕型土器 D 口縁部に2ヶ所、穴をもつ。内外面に赤彩を施す。	a 明褐 b 白色粒子・茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
298	SB15	A 壺 D 口縁部に舌状の突起を4ヶ所にもつ。内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	2/3(口縁)
299	SB15	A 壺 C 簾状文 D 内外面に赤彩を施す。	a 明褐 b 茶色粒子・黒色粒子・砂粒を含む c 良好	口縁
300	SB15	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 褐 b 茶色粒子・黒色粒子・砂粒を含む c 良好	4/5
301	SB15	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
302	SB15	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a ぶい赤褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3
303	SB15	A 鉢	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
304	SB15	A 鉢	a ぶい褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
305	SB15	A 高坏 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(坏部)

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
306	SB15	A 高坏 D 内外面に赤彩を施す。	a ぶい褐 c 良好	b 白色粒子・砂粒を含む 1/2(坏部)
307	SB15	A 高坏 D 外面に赤彩を施す。	a 浅黄褐 c 良好	b 茶色粒子・砂粒を含む 接合部
308	SB15	A 高坏 D 外面に赤彩を施す。	a 褐 c 良好	b 茶色粒子・砂粒を含む 1/2(坏部)
309	SB15	A 高坏 D 外面に赤彩を施す。	a 明褐 c 良好	b 白色粒子・砂粒を含む 脚部
310	SB15	A 高坏	a 赤褐 c 良好	b 茶色粒子・砂粒を含む 接合部
311	SB15	A 高坏 D 脚部に突起を2ヶ所にもつ。外面に赤彩を施す。	a 明黄褐 c 良好	b 白色粒子・砂粒を含む 脚部
312	SB15	A こしき D 底部に1つの穴をもつ。	a 明褐 c 良好	b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む 1/2
313	SB15	A こしき D 底部に1つの穴をもつ。	a 浅黄褐 c 良好	b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む 1/2
314	SB15	A ふた D つまみ部に4ヶ所、穴をもつ。	a ぶい褐 c 良好	b 砂粒を含む 1/2
315	SB16	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れており調整等不鮮明。	a 褐 c 良好	b 砂粒を含む 1/2(口縁・胴部)
316	SB16	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れており調整等不鮮明。	a 赤褐 c 良好	b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む 1/3(口縁・胴部)
317	SB16	A 甕 C 波状文・簾状文	a 黄褐 c 良好	b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む 1/4(口縁・胴部)
318	SB16	A 甕 C 波状文 D 器面荒れており調整等不鮮明。	a 褐 c 良好	b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む 1/3(口縁)
319	SB16	A 甕 C 波状文・簾状文	a 暗赤褐 c 良好	b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む ほぼ完形
320	SB16	A 甕	a 褐 c 良好	b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む 底部
321	SB16	A 鉢	a 褐灰 c 良好	b 白色粒子・砂粒を含む 1/8(口縁・胴部)
322	SB16	A 鉢	a 明褐 c 良好	b 小石(1mm前後)を含む 1/2
323	SB16	A 高坏 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。	a 褐 c 良好	b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む 1/2(脚部)
324	SB16	A ふた D つまみ部に4ヶ所、穴をもつ。	a 暗赤褐 c 良好	b 白色粒子・砂粒を含む つまみ
325	SB16	A 鉢	a ぶい褐 c 良好	b 白色粒子・砂粒を含む 1/4(口縁)
326	SB17	A 甕	a 赤褐 c 良好	b 砂粒を含む 底部
327	SB17	A 高坏	a 灰褐 c 良好	b 白色粒子・砂粒を含む 接合部
328	SB18	A 甕 C ハケ調整	a 極暗褐 c 良好	b 小石・砂粒を含む ほぼ完形
329	SB18	A 甕 C ハケ調整 D 口縁部に面取りを施す。	a 極赤褐 c 良好	b 砂粒を含む ほぼ完形
330	SB18	A 甕 C ハケ調整 D 内面荒れており調整等不明。	a 赤褐 c 良好	b 砂粒を含む ほぼ完形

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
331	SB18	A 甕 C ハケ調整	a 黄橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/3(口縁~胴部)
332	SB18	A 甕 D 口縁部が短く外反する。 器面荒れている。	a 橙 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	1/4(口縁~胴部)
333	SB18	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a 黒褐 b 砂粒を含む c 良好	2/3
334	SB18	A 甕 D 口縁部に面取りを施す。	a 褐 b 白色粒子・茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/8(口縁)
335	SB18	A 甕 C ハケ調整 D 口縁部がS字状を呈する。	a にぶい橙 b 小石・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
336	SB18	A 高坏	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
337	SB18	A 甕	a 褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁)
338	SB18	A 高坏 D 脚部に円形透窓を4ヶ所にもつ。	a にぶい褐 b 白色粒子・茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	接合部~脚部
339	SB18	A 高坏 C ハケ調整 D 円形透窓を3ヶ所にもつ。 外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	脚部
340	SB18	A 鉢	a 明黄褐 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/6(口縁)
341	SB18	A 鉢 D 外面に赤彩を施す。	a にぶい褐 c 良好	1/6(口縁)
342	SB18	A 器台 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3(受部)
343	SB18	A 器台 D 受部に円形透窓をもつ。脚部に2つで1組の円形透窓をもつ。受部と脚部に2本ずつの沈線をもつ。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	4/5
344	SB18	A ふた	a 明黄褐 b 雲母・砂粒を含む c 良好	つまみ
345	SB18	A こしき D 底部に穴を1つもつ。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2
346	SB18	A こしき D 底部に穴を1つもつ。	a 黄橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	底部
347	SB18	A ミニチュア土器	a 赤褐 c 良好 b 白色粒子・砂粒を含む	1/3
348	SB18	A 壺 D 外面に赤彩を施す。	a 赤褐 b 砂粒を含む c 良好	胴部~底部
349	SB18	A 壺 D 口縁部に段をもつ。	a 浅黄褐 c 良好 b 小石・砂粒を含む	ほぼ完形
350	SB19	A 甕 C 波状文・籐状文 D 器面荒れている。	a 暗赤褐 c 良好 b 砂粒を多く含む	1/2
351	SB19	A 甕 C ハケ調整	a 明赤褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
352	SB19	A 甕 C ハケ調整	a 暗褐 c 良好 b 茶色粒子・砂粒を含む	1/2
353	SB19	A 甕 C ハケ調整	a 明赤褐 c 良好 b 小石・砂粒を含む	2/3(口縁)
354	SB19	A 甕	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
355	SB19	A 甕 C ハケ調整	a 黒褐 c 良好 b 茶色粒子・砂粒を含む	口縁部

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
356	SB19	A 甕 C ハケ調整	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3(口縁)
357	SB19	A 台付甕 C ハケ調整	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	台部
358	SB19	A 甕 C 縦のヘラケズリ	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁)
359	SB19	A 壺 D 口縁部に段をもつ。口縁部に円形の貼付文をもつ。	a にぶい橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	
360	SB19	A 高坏 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。	a にぶい橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	脚部
361	SB19	A 高坏 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
362	SB19	A 器台 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。	a にぶい橙 b わずかに砂粒を含む c 良好	1/3
363	SB19	A 器台 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(脚部)
364	SB19	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。器面荒れている。	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/6(口縁)
365	SB19	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
366	SB19	A 小型丸底土器 D 器面荒れており調整等不明。	a 明赤褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
367	SB19	A 鉢 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
368	SB19	A 鉢 D 外面荒れている。	a にぶい橙 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4
369	SB19	A こしき D 底部に穴を1つもつ。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
370	SB19	A ふた D つまみ部に複数の穴をもつ。	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	つまみ
371	SB19	A 鉢 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
372	SB19	A ミニチュア土器	a 褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
373	SB19	A ミニチュア土器	a 明褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
374	SB20	A 壺 C 口縁部と胴上部に縄文状の刺突をもつ。D 口縁部に段をもつ。外面に赤彩を施す。	a 黄橙 c 良好	1/4
375	SB20	A 壺 D 外面に赤彩を施す。374と同一個体。	a 黄橙 c 良好	底部
376	SB20	A 高坏 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3(坏部)
377	SB20	A 高坏	a 明褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(脚部)
378	SB20	A 高坏 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。	a 暗褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	接合部
379	SB20	A 器台	a にぶい褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	脚部
380	SB20	A 鉢	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
381	SB 2 1	A 長胴甕	a にぶい黄褐 b 雲母・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁~胴部)
382	SB 2 1	A 長胴甕	a 暗赤褐 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/8(口縁)
383	SB 2 1	A 碗(青磁の碗と思われる。) D カマド出土。	a 灰オリーブ c 良好	1/8(口縁)
384	SB 2 1	A 坏(須恵器) D 底部ヘラ調整。	a 灰 c 良好	1/4(底部)
385	SB 2 1	A ふた(須恵器)	a 灰 b 小石(1.5mm)を含む c 良好	1/4
386	SB 2 4	A 高坏 D 器面荒れており調整等不明。	a 赤褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(胴部)
387	SB 2 4	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れており調整等不鮮明。	a 橙 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(頸部)
388	SB 2 4	A 甕 C 波状文 D 器面荒れており調整等不鮮明。	a 明黄褐 b 砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
389	SB 2 2	A 高坏 D 内外面に赤彩を施す。口縁部に舌状突起をもつ。	a 暗赤褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/8(坏部)
390	SB 2 5	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a 黒褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁~胴部)
391	SB 2 5	A 甕 C 波状文・簾状文	a 橙 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
392	SB 2 5	A 甕 C 波状文・簾状文	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁~胴部)
393	SB 2 5	A 甕 C 波状文	a 褐 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/2(口縁~胴部)
394	SB 2 5	A 甕 C ハケ調整 D 口縁部に面取りを施す。	a 黄橙 b 茶色粒子・小石(1.5mm前後)・砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
395	SB 2 5	A 甕型土器 D 内外面に赤彩を施す。	a 黄橙 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
396	SB 2 5	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3
397	SB 2 5	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a にぶい黄褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3
398	SB 2 5	A 高坏 D 外面に赤彩を施す。	a にぶい黄褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	接合部
399	SB 2 5	A 高坏	a 橙 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	脚部
400	SB 2 5	A こしき D 底部に穴を1つもつ。	a 暗褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(底部)
401	SB 2 7	A 甕 C ハケ調整 D 口縁部に面取りを施す。	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	2/3
402	SB 2 7	A 甕	a 明赤褐 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
403	SB 2 7	A 甕 C ヘラケズリ	a 明褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3(口縁~胴部)
404	SB 2 7	A 広口壺	a 橙 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁~胴部)
405	SB 2 7	A 広口壺 D 器面荒れている。	a 黄橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	ほぼ完形

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
406	SB 2 7	A 器台	a 黄橙 b 白色粒子を含む c 良好	1/2(受部)
407	SB 2 7	A 器台 (406と同一個体と思われる。)	a 黄橙 b 白色粒子を含む c 良好	脚部
408	SB 2 7	A 高坏 D 器面荒れており調整等不明。	a 明褐 b 茶色粒子を含む c 良好	1/3
409	SB 2 7	A 高坏	a 赤褐 c 良好 b 白色粒子・砂粒を含む	接合部
410	SB 2 7	A 器台 D 脚部に円形透意を3ヶ所にもつ。器面荒れている。	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	2/3
411	SB 2 7	A 鉢	a 明黄褐 c 良好 b 白色粒子・砂粒を含む	1/3(口縁)
412	SB 2 8	A 甕 C 波状文・簾状文	a 暗褐 c 良好 b 白色粒子・砂粒を含む	1/4(口縁～胴部)
413	SB 2 8	A 甕 C 波状文・簾状文	a 暗褐 c 良好 b 白色粒子・砂粒を含む	1/4(口縁～胴部)
414	SB 2 8	A 甕 C T字文 D 内外面に赤彩を施す。	a 暗褐 c 良好 b 白色粒子・砂粒を含む	1/4(頸部)
415	SB 2 9	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a 橙 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
416	SB 2 9	A 甕 C 簾状文	a 暗褐 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	1/3
417	SB 2 9	A 甕 C 波状文・簾状文 D 419と同一個体と思われる。	a 明褐 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	1/2(口縁～胴部)
418	SB 2 9	A 甕 C 波状文・簾状文	a 褐 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	1/2(口縁～胴部)
419	SB 2 9	A 甕 C 波状文 D 417と同一個体と思われる。	a 赤褐 c 良好 b 白色粒子・砂粒を含む	胴部～底部
420	SB 2 9	A 甕型土器 D 頸部に一對の穴をもつ。内外面に赤彩を施す。	a 橙 c 良好 b 茶色粒子・砂粒を含む	1/4(口縁～胴部)
421	SB 2 9	A 甕型土器 D 頸部に一對の穴をもつ。内外面に赤彩を施す。	a 橙 c 良好 b 白色粒子・砂粒を含む	1/2(口縁～胴部)
422	SB 2 9	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 橙 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	脚部
423	SB 2 9	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 黄橙 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	1/4
424	SB 2 9	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 c 良好 b 茶色粒子・砂粒を含む	1/4
425	SB 2 9	A ふた	a ぶい黄褐 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	1/4
426	SB 2 9	A ふた	a 明赤褐 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	2/3
427	SB 2 9	A ふた D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	1/2
428	SB 2 9	A こしき D 底部に穴を1つもつ。器面荒れており調整等不明。	a 黄橙 c 良好 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む	1/2(底部)

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
429	SB 3 1	A 坏 (須恵器) D 底部に高台が付く。底部回転ヘラケズリ。	a 灰 b 小石(1mm前後)を含む c 良好	底部
430	SB 3 1	A 坏 (土師器) D 底部回転ヘラケズリ。器面荒れており調整等不明。	a 明赤褐 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2 (底部)
431	SB 3 1	A 坏 (須恵器) D 底部に高台が付く。底部回転ヘラケズリ。	a 灰 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	底部
432	SB 3 3	A 長胴壺	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	2/3(口縁~胴部)
433	SB 3 3	A 鉢 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2
434	SB 3 3	A 坏 D 内面に黒色処理を施す。	a 黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4
435	SB 3 3	A 鉢	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/8(口縁)
436	SB 3 2	A 壺 C 波状文・簾状文	a 暗褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	4/5
437	SB 3 5	A 壺 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている。	a 黒褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3
438	SB 3 5	A 壺 C T字文 D 内外面に赤彩を施す。	a 黄橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3 (頸部)
439	SB 3 5	A 壺 D 4 4 0 と同一個体と思われる。	a 橙 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
440	SB 3 5	A 壺 D 口縁部が有段口縁になるとと思われる。4 3 9 と同一個体と思われる。	a 橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2(胴部)
441	SB 3 5	A 高坏 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む	1/4(受部)
442	SB 3 5	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。	a におい橙 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/2(脚部)
443	SB 3 5	A 鉢	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4
444	SB 3 5	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 黄橙 b 砂粒を含む c 良好	1/3
445	SB 3 6	A 壺 C T字文 D 外面に赤彩を施す。	a 浅黄橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
446	SB 3 6	A 壺 C T字文	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	口縁~胴部
447	SB 3 6	A 壺型土器 C 口縁部に刻目 D 内外面に赤彩を施す。	a におい橙 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
448	SB 3 6	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	底部
449	SB 3 6	A ふた	a 黒褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	つまみ
450	SB 3 6	A ミニチュア土器	a におい橙 b 白色粒子・茶色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	完形

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
451	SB36	A 高坏 D 内外面に赤彩を施す。	a ぶい橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(坏部)
452	SB36	A 高坏 D 内外面に赤彩を施す。	a 黄橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(坏部)
453	SB36	A 器台? D 外面に赤彩を施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	接合部
454	SB36	A 器台? (ふたの可能性ある。) D 内外面に赤彩を施す。	a ぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	
455	SD02	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a 浅黄橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	底部
456	SD02	A 鉢 D 内外面に赤彩を施す。	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4
457	SD02	A 鉢	a ぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	2/3
458	SD02	A 高坏 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/4(脚部)
459	SD05	A 甕 C 胴部ロクロ調整 D 460と同一個体と思われる。	a 浅黄橙 b 砂粒を少量含む c 良好	1/4(口縁-胴部)
460	SD05	A 甕 D 底部回転糸切り。459と同一個体と思われる。	a 浅黄橙 b 砂粒を少量含む c 良好	底部
461	SD06	A 壺(須恵器)	a 灰黄 b 砂粒を含む c 良好	1/2
462	SD06	A 坏(須恵器)	a 灰 b 黒色粒子を含む c 良好	1/4(口縁)
463	SD06	A 坏(須恵器) D 底部回転ヘラケズリ。	a 赤灰 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/2
464	SD06	A ふた(須恵器)	a 灰黄 b 白色粒子・茶色粒子・小石を含む c 良好	つまみ
465	SD06	A ふた(須恵器)	a 灰 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	1/8(端部)
466	SK28	A 甕 C 波状文・簾状文	a 黒褐 b 白色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3
467	SK17	A 坏(土師器) D 内面に黒色処理を施す。	a ぶい黄橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4
468	SK90	A 器台	a 浅黄橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(受部)
469	SK205	A 甕 C 波状文・簾状文	a 褐 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/4(口縁-胴部)
470	SK120	A 壺	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2
471	SK180	A 器台 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 茶色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	脚部
472	SK204	A 坏(土師器)	a 橙 b 黒雲母・砂粒を含む c 良好	1/3
473	SK284	A 高坏 D 脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。	a 黄橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	1/3(脚部)

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
474	不 明	A 甕 C ハケ調整	a にぶい褐 b 砂粒を含む c 良好	2/3
475	不 明	A 甕 C ハケ調整 D S字口縁をもつ。	a にぶい橙 c 良好	1/4(口縁)
476	不 明	A こしき D 底部に穴を1つもつ。	a 黒褐 b 砂粒を含む c 良好	2/3(底部)
477	P-06	A 鉢	a にぶい橙 c 良好	1/2
478	不 明	A 甕 D 口縁部に段をもつ。	a 黒褐 c 良好	1/8(口縁)
479	P-03	A 長頸壺(須恵器)	a 暗オリーブ灰 c 良好	口縁
480	不 明	A すり鉢(須恵器)	a 灰 c 良好	1/2(底部)
481	Tr-06	A すり鉢(須恵器) D 内面に筋をもつ。	a 暗オリーブ灰 c 良好	1/4
482	Tr-15	A 深鉢 C 縄文を施す。	a にぶい赤褐 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	胴部(破片)
483	Tr-16	A 甕 C 縄文を施す。	a 暗赤褐 b 白色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	頸部(破片)
484	Tr-16	A 深鉢 C 縄文を施す。	a にぶい橙 b 白色粒子・黒雲母・砂粒を含む c 良好	胴部(破片)
485	Tr-16	A 甕 C 口縁部に凸帯をもつ。	a にぶい黄橙 b 白色粒子・雲母・砂粒を含む c 良好	口縁(破片)
486	Tr-16	A 深鉢 C 条痕文を施す。	a にぶい橙 b 黒雲母・小石(1.5mm前後)を含む c 良好	胴部(破片)
487	Tr-16	A 深鉢? C 縄文を施す。	a にぶい橙 b 茶色粒子・砂粒を含む c 良好	胴部(破片)
488	Tr-16	A 深鉢?	a 明赤褐 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	胴部(破片)
489	Tr-17	A 深鉢 C 条痕文を施す。	a にぶい褐 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	胴部(破片)
490	SB02	A 深鉢 C 条痕文を施す。 D 口縁部に凸帯をもつ。口唇部に刻目を施す。口縁部に穴を1つもつ。	a にぶい橙 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	口縁(破片)
491	SB02	A 深鉢 C 条痕文を施す。 D 口唇部に刻目を施す。	a 灰褐 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	口縁(破片)
492	SB02	A 深鉢 D 口縁部に凸帯をもつ。口唇部に刻目を施す。	a 浅黄橙 b 砂粒を含む c 良好	口縁(破片)
493	SB02	A 深鉢	a にぶい黄橙 b 砂粒を含む c 良好	(破片)
494	SB03	A 深鉢 C 条痕文を施す。 D 口唇部に刻目を施す。	a にぶい橙 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	口縁(破片)
495	SB11	A 深鉢 C 条痕文を施す。	a 橙 b 小石(1.5mm前後)を含む c 良好	口縁(破片)
496	SK120	A 甕? C 並行沈線を施す。	a 橙 b 白色粒子・茶色粒子・砂粒を含む c 良好	頸部(破片)
497	SK120	D496・498と同一個体と思われる。		
498	SK120	D496・497と同一個体と思われる。		

土製品観察表

No	出土遺構名	名 称	時 期	材 質	特 徴
499	SB04	紡 垂 車	弥生時代後期?	土 製	
500	SB07	紡 垂 車	弥生時代後期?	土 製	
501	SB17	土 偶	縄文時代	土 製	

出土石器観察表

No	出土遺構名	名 称	時 期	石 材	特 徴
502	SB19	打 製 石 鎌	縄文時代?	黒 曜 石	
503	不 明	磨 製 石 鎌	弥生時代後期	緑 色 片 岩	基部に穴をもつ。
504	SB07	片 刃 石 器	弥生時代後期	頁 岩	
505	SB35	両 刃 石 器	弥生時代後期	頁 岩	周囲を打ち欠いて形を調整。
506	SB35	砥 石	弥生時代後期	頁 岩	
507	SB02	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
508	SB07	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
509	SB07	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
510	SB03	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
511	SB04	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
512	SB04	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
513	SB04	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
514	SB10	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
515	SB12	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
516	SB13	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
517	SB13	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
518	SB14	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
519	SB14	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
520	SB14	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	

No	出土遺構名	名 称	時 期	石 材	特 徴
521	SB14	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
522	SB18	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
523	SB19	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
524	SB29	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
525	SB27	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
526	SB35	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
527	SB35	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
528	SB35	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
529	不 明	石 包 丁	弥生時代後期	頁 岩	
530	SB02	石 皿		安 山 岩	
531	SB02	た た き 石		安 山 岩	
532	SB02	磨 石		安 山 岩	
533	SB02	磨 石		安 山 岩	
534	SB02	磨 石		安 山 岩	
535	SB02	打 製 石 斧		頁 岩	
536	SB02	打 製 石 斧		硬 質 砂 岩	
537	SB02	打 製 石 斧		頁 岩	
538	SB02	石 鎌		硬 質 砂 岩	
539	SB05	磨 石		凝 灰 岩	
540	SB06	砥 石		不 明	
541	SB06	砥 石		頁 岩	
542	SB06	不 明		硬 質 砂 岩	不整形のはば真中に穴を持つ。
543	SB07	打 製 石 斧	弥生時代後期	頁 岩	
544	SB07	磨 石	弥生時代後期	硬 質 砂 岩	
545	SB07	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
546	SB07	打 製 石 斧	弥生時代後期	頁 岩	
547	SB07	打 製 石 斧	弥生時代後期	頁 岩	
548	SB07	砥 石	弥生時代後期	安 山 岩	

No	出土遺構名	名 称	時 期	石 材	特 徴
549	SB07	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
550	SB07	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
551	SB07	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
552	SB07	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
553	SB07	磨 石	弥生時代後期	凝 灰 岩	砥石の機能も兼ねていると思われる。
554	SB07	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
555	SB07	磨 石	弥生時代後期	砂 岩	
556	SB07	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
557	SB07	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
558	SB07	砥 石	弥生時代後期	安 山 岩	
559	SB07	た た き 石	弥生時代後期	安 山 岩	
560	SB07	凹 石	弥生時代後期	安 山 岩	
561	SB07	磨 石	弥生時代後期	砂 岩	
562	SB07	凹 石	弥生時代後期	硬 質 砂 岩	
563	SB07	凹 石	弥生時代後期	硬 質 砂 岩	
564	SB07	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
565	SB07	磨 石	弥生時代後期	砂 岩	
566	SB07	た た き 石	弥生時代後期	安 山 岩	
567	SB07	砥 石	弥生時代後期	砂 岩	
568	SB07	た た き 石	弥生時代後期	安 山 岩 ?	
569	SB07	た た き 石	弥生時代後期	安 山 岩	
570	SB07	砥 石	弥生時代後期	頁 岩	
571	SB07	剥 片		頁 岩	
572	SB07	石 刻	弥生時代後期	頁 岩	
573	SB10	た た き 石	弥生時代後期	安 山 岩	
574	SB11	砥 石	弥生時代後期	砂 岩	
575	SB13	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
576	SB13	磨 石	弥生時代後期	砂 岩	

No	出土遺構名	名 称	時 期	石 材	特 徴
577	SB13	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
578	SB13	磨 石	弥生時代後期	砂 岩	
579	SB13	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
580	SB13	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
581	SB13	磨 石	弥生時代後期	砂 岩	
582	SB13	磨 石	弥生時代後期	凝 灰 岩	
583	SB13	た た き 石	弥生時代後期	安 山 岩	
584	SB13	た た き 石	弥生時代後期	安 山 岩	
585	SB13	石 鍬	弥生時代後期	頁 岩	
586	SB13	剥 片	弥生時代後期	頁 岩	
587	SB14	磨 製 石 斧	弥生時代後期	流 紋 岩	
588	SB14	磨 石		砂 岩	
589	SB14	磨 石		安 山 岩	
590	SB14	打 製 石 斧		頁 岩	
591	SB15	凹 石	弥生時代後期	頁 岩 ？	
592	SB15	凹 石	弥生時代後期	砂 岩	
593	SB15	打 製 石 斧	弥生時代後期	頁 岩	
594	SB17	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
595	SB18	打 製 石 斧	弥生時代後期	頁 岩	
596	SB18	砥 石		砂 岩	
597	SB25	砥 石		頁 岩	
598	SB25	砥 石		凝 灰 岩	
599	SB25	凹 石		安 山 岩	
600	SB27	凹 石		礫 岩	
601	SB29	磨 石		安 山 岩	
602	SB32	磨 石		安 山 岩	
603	SB32	打 製 石 斧		頁 岩	587と同一個体と思われる。
604	SB32	打 製 石 斧		頁 岩	586と同一個体と思われる。

No	出土遺構名	名 称	時 期	石 材	特 徴
605	SB35	砥 石		不 明	
606	SB35	砥 石		礫 岩	
607	SB36	打 製 石 斧		頁 岩	
608	SD05	石 鍬		頁 岩	
609	SD07	磨 石		安 山 岩	
610	SK120	磨 石		安 山 岩	
611	SK120	磨 石	弥生時代後期	安 山 岩	
612		凹 石	不 明	安 山 岩	地面に埋めて使用していたと思われる。
613	Tr01	打 製 石 斧		頁 岩	
614	Tr01	打 製 石 斧		頁 岩	
615	Tr16	打 製 石 斧		頁 岩	
616	Tr16	打 製 石 斧		頁 岩	
617	Tr16	打 製 石 斧		頁 岩	
618	Tr17	打 製 石 斧		頁 岩	
619	Tr17	打 製 石 斧		頁 岩	
620	不 明	打 製 石 斧		頁 岩	
621	Tr17	打 製 石 斧		頁 岩	
622	不 明	打 製 石 斧		頁 岩	
623	不 明	打 製 石 斧		頁 岩	
624	不 明	打 製 石 斧		頁 岩	

第四節 まとめ

<弥生時代前期>

当該遺跡の条痕文系土器は縄文系土器を伴っていると考えられ、その形態から弥生時代前期のものと思われる。条痕文系土器は量は多くはないが当該遺跡のほぼ全域から出土している。上田市域からの条痕文系土器の出土は産川の対岸の上田原遺跡からの事例に次ぎ2例目である。このことは、浦田遺跡と上田原遺跡の地域が上小地方の弥生時代の成立に重要な役割を果たしていたことが伺われる。この地域は産川と浦野川が合流した後、大河川である千曲川に合流する場所である。低湿地や微高地・河岸段丘が発達しており、付近に集落などの生活の痕跡があることが予想される。しかし、遺構は上田原遺跡の土坑のみでありその内容ははっきりとはしない。当面は土器を中心とした検討が必要となろう。

<弥生時代後期～古墳時代前期>

当該期は出土土器から①弥生時代後期②古墳時代初頭③古墳時代前期に分けることができる。①弥生時代後期は箱清水式期に集落が形成されたと思われる。出土土器はそのほとんどが箱清水式土器で構成されているが、一部に伝統的な箱清水式土器でないものも見られ古墳時代への胎動を見せている。②古墳時代初頭は北陸系を中心とした外来系の土器が箱清水式土器の中に入り込んでくる時期である。遺構も堅穴住居の他に北陸的なS T 15のようなものも確認されている。在来系の土器と外来系の土器とは共存をしている。全国的な動向の中でみると畿内庄内式併行期であると思われる。③古墳時代前期には箱清水系の土器は姿を消してしまうが、北陸系の土器と「S」字状口縁の甕は引き続き土器構成の中に入り込んでいる。堅穴住居の平面形は隅丸方形となる。また、当該期の掘立柱建物には2間×4間の大型ものや倉庫と思われる2間×2間の総柱のものが確認されている。このように、弥生時代後期から古墳時代前期へと時代が移り変わる時期に土器も箱清水式土器から土師器へと移り変わる大きな流れがある。一方で、その土器構成の中に引き続き入り込んでいる外来系の土器の在り方は、時代が変わっても変わらぬ北陸地方と上小地方との関係を示していると思われる。②古墳時代初頭は全国的に土器の交流がみられる時期であり、この時期の地域間の関係を個別に解明することが必要になると思われる。

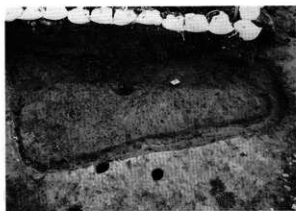
川西地方は、西光坊・宮の前・岳の鼻・琵琶塚・上田原遺跡など北陸系土器を出土する遺跡が多いが、当該遺跡はそれ以上の量と質を誇る。浦田遺跡での北陸系の土器を中心とした外来系の土器の出土とS T 15のような北陸的な遺構の存在は遺跡の立地条件（①日本海へ流れ込む千曲川に近いこと。②千曲川は上田より上流では急激にその傾斜を増しており激流となっていること。③上田より下流では千曲川による氾濫原及び沖積地が形成されるが、上流では狭い段丘崖の間を流れていること。）を考え合わせると日本海側からの人間の移住の可能性が強いことを意味している。産川を遡ると塩田平へと通じており、当該期の遺跡は産川及びその支流に展開している。また、浦野川を遡っても遺跡がその本流や支流に展開している。この二つの河川が合流する場所に浦田遺跡は立地しており、両河川の上流に北陸系土器を出土する遺跡が分布することから当該遺跡は拠点的な集落と思われる。また、浦田遺跡と産川を隔てた対岸には上田原遺跡が立地する段丘がある。この遺跡は弥生時代後期箱清水式期から古墳時代前期にかけての周溝墓が存在しており、浦田遺跡の墓域と考えることもできる。

<奈良・平安時代>

確認できた遺構は奈良時代の堅穴住居2軒・平安時代の堅穴住居が3軒と少なかった。出土土器より8C第二四半期頃から8C末までの短い間に継続的に営まれていた集落があったことが予想される。上小地方では、奈良時代前半の集落は林之郷遺跡でしか確認されておらず、今後の資料の蓄積を待ちたい。



浦田建設株式会社



SB01



SB02



SB03



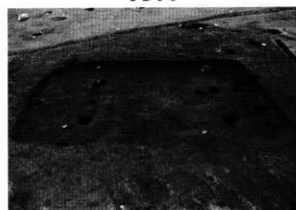
SB07



SB08



SB10



SB11



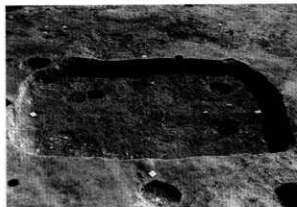
SB12



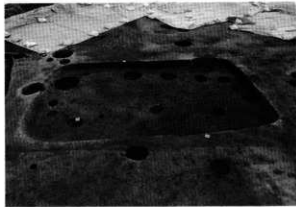
SB 13



SB 14



SB 15



SB 16



SB 17



SB 18



SB 19



SB 20



SB 21



SB 24



SB 25



SB 27



SB 29



SB 30



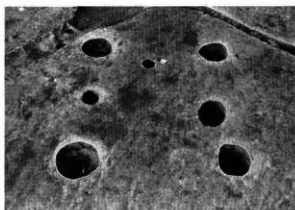
SB 31



SB 32



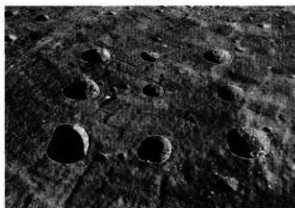
SB35



ST04



ST09



ST11



ST14



ST15



遠景



調査団



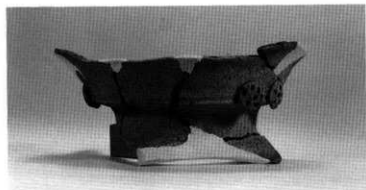
No. 7



No.14



No.53



No.25



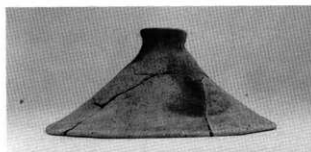
No.34



No.71



No.76



No.77



No.80



No.81



No.84



No.96



No.97



No.110



No.109



No.108



No.111



No.143



No.168



No.181



No.150



No.194



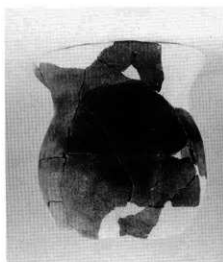
No.164



No.183



No.210



No.239



No.248



No.319



No.328



No.329



No.330



No.333



No.349



No.343



No.336



No.345



No.361



No.360



No.364



No.374



No.405



No.426



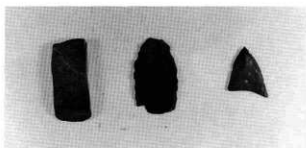
No.394



No.410



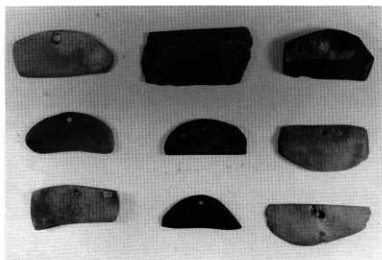
No.445



No.504 · 505 · 503



No.470



No.519 · 516 · 525 · 511 · 526 · 529 · 528 · 512 · 518
(上段左から)

Ⅱ 宮脇遺跡の調査

第一章 調査の経過

第一節 調査に至る経過

平成7年度秋、上田建設事務所より国道143号線バイパスを建設したいとの申し出があった。建設予定地について調べたところ、浦田遺跡と宮脇遺跡の二つの周知の遺跡が破壊される恐れのあることが判明した。そのため保護協議を行い、下記の計画で平成8年度の発掘調査を実施することにした。

発掘調査計画書

発掘調査地	上田市大字築地字浦田・大字吉田字宮脇
遺跡名	浦田A遺跡・宮脇遺跡
遺跡の状況	地目（水田）・破壊状況（一部破壊）
調査の目的及び概要	国道143号線バイパスの施工に先立ち、5,000㎡以上（浦田A遺跡2,500㎡以上・宮脇遺跡2,500㎡以上）を発掘調査して記録保存をはかる。 遺跡における発掘作業は平成9年3月25日までに終了する。 調査報告書は平成10年3月25日までに刊行するものとする。
調査の作業日数	発掘作業130日・整理事業130日・合計260日
調査に要する費用	26,820,000 円
調査報告書作成部数	300部（平成9年度刊行予定）
調査の主体者	上田市
その他	報告書作成は、平成9年度とし別途協議する。

その結果、平成8年4月8日に上田市は上田建設事務所と委託契約を結び調査に着手した。

第二節 調査の経過

(1) 平成8年度の経過

本年度に係る発掘調査の総事業費は浦田A遺跡と宮脇遺跡を合わせて22,104,000円にて行われた。調査の結果、総事業費は先のとおり減額された。発掘調査は宮脇遺跡については平成8年6月14日から行われ、平成8年10月31日には終了した。平成9年1月24日から平成9年3月25日までは整理作業を実施した。

(2) 平成9年度の経過

本年度に係る整理作業・報告書作成作業の総事業費は15,492,000円にて行われた。作業は、平成9年4月17日より行われた。平成10年3月20日には本書を刊行して調査を終了した。

第三節 調査日誌（抄）

(1) 平成8年度

1996年（平成8年）

6月14日 調査着手。表土剥ぎ。仮設ハウス・仮設トイレ等搬入。

6月17日 機材搬入。

6月19日 遺構検出作業を始める。

6月28日 メッシュ杭打ち・基準点測量着手。

7月19日 遺構掘り下げ開始。

10月25日 航空写真撮影。

10月30日 機材等撤収作業開始。

1997年（平成9年）

1月24日 信濃国分寺資料館にて整理作業開始。

3月25日 平成8年度作業の終了。

(2) 平成9年度の経過

1997年（平成9年）

7月1日 信濃国分寺資料館にて報告書作成作業を開始。

1998年（平成10年）

3月20日 報告書刊行。

第二章 遺跡の環境

第一節 地理的環境

上田盆地は、千曲川中流域で河川の勾配もきつい地域に属する。上田市のほぼ中央を流れる千曲川を境として東方を総称して川東地方とし西部を川西地方と呼ぶ。

川西地方は、浦野川流域と産川流域のつくる盆地性平野である。川西盆地川西丘陵及び福田段丘地によって塩田平と浦野平野とにわかれている。この浦野平野は北を子檀嶺岳（こまゆみだけ）・飯縄山や城山の連なる川西山地に、南を夫婦岳から東に次第に低くなる川西丘陵によって囲まれている。また、小牧から岩鼻にかけて千曲川の沖積氾濫原が続き、その南方の小牧から上田原にかけては、千曲川の第二段丘面が続いており、この段丘面の西端である上田原台地は、塩田平から流れてくる産川と7～10mの段丘崖によって接している。また、この上田原台地の北端は対岸の山口との間に、約1kmの狭隘部（きょうあいぶ）をつくり、そこで塩田方面から流れてくる産川と青木方面から流れてくる浦野川が合流して、千曲川に注いでいる。浦野平野は河岸に微高地の自然堤防も認められ、後背湿原上には扇状地の形成もあり、この沖積扇状地は早い時期に成立したと思われる。よって、歴史時代に入ってから千曲川の氾濫の害を受けなかったところであると考えられる。

また、上田盆地は、中小河川の流量は少なく溜池が表象するように寒暖の差が激しい大陸性の気候を呈する。雨量は乏しく、年間降水量は1,000mm以下の寡雨地帯である。

浦田遺跡のある築地地区はその産川と浦野川が合流する地点にあり、沖積扇状地上に微高地や後背湿地が認められる。また、両河川の砂礫質壤土が堆積しており、その下に湖成層（塩田層）・青木層・別所層が堆積しているものと思われる。湖成層は上田盆地が第四紀に湖沼であった当時の堆積物からなる。青木層は砂岩・礫岩層とそれに貫入したふん岩からなる。別所層はほとんど黒色頁岩からなり固結度も高く、その中に径10cm内外の石灰質の結核を含んでいる。また、城山に露呈している別所層には石英や黒くて薄くはげる黒雲母が入っている白っぽい流紋岩が入り込んでいる。別所温泉は、この別所層に貫入したふん岩の岩漿（がんしょう）が熱源である。

宮脇遺跡では調査地区の北半分を自然堤防で占められ、基本土層は耕作土である表土の直下に河川等の影響による砂礫質土が堆積しており、その土層のなかに黒褐色の落ち込みとして遺構が存在していた。後背湿地であった南半分についても耕作土の直下に検出面が確認された。

<参考文献>

上田小県誌刊行会「上田小県誌（第四巻自然編）」1963

上田市立博物館「舞土の地誌 上田盆地」1979

信州理科教育研究会「大地は語る」1994

第二節 歴史的環境

浦野川水系にも多くの遺跡が存在している。旧石器時代の遺跡は確認されていないが縄文時代から弥生時代・古墳時代・奈良平安時代、それ以降の時代の遺跡も含めて225遺跡ほどある。

縄文時代の遺跡は草創期の特徴的な資料とされる有舌尖頭器が平成8年の浦田B遺跡の調査で見つかっている。この石器は土器を伴わない単独出土であり、この周辺一帯が当時の狩猟場であったとの推定が可能

能である。早期では塚原遺跡（以下、上田原遺跡とする）から早期末の条痕文土器・絡状体圧痕文土器や鶴ヶ島台式土器が出土している。前期では上田原遺跡から花積下層式土器をはじめとする横維土器や諸磯式土器が出土している。また、南大原式・下島式土器の出土の記録もある。中島遺跡からも南大原式・下島式土器が出土している。いずれも、上田原台地の西端に展開している遺跡である。中期では初頭の五領ヶ台式期の集落が上田原遺跡から発掘調査により確認されている。また、勝坂式・加曾利E式土器の出土の記録もある。中島遺跡・宮本遺跡・浦田遺跡・屋敷遺跡からも勝坂式・加曾利E式土器が出土している。惣明遺跡からは勝坂式土器が出土し、駕籠田遺跡・箕輪遺跡からは加曾利E式土器が出土している。後期の遺跡としては上田原遺跡から掘之内式土器・加曾利B式土器が出土している。晩期の遺跡としても上田原遺跡から条痕文土器・大洞A式土器が出土している。

弥生時代の遺跡は前期から中期にかけての水神平系土器が上田原遺跡から出土している。また、浦田遺跡からも出土している。上田原遺跡からは中期の栗林式土器が確認されている。後期の遺跡としては緑川・天神堂遺跡・赤坂遺跡・殿海道遺跡・中島遺跡・上田原遺跡・浦田遺跡・蔵之台遺跡・屋敷遺跡・箕輪遺跡・惣明遺跡・宮脇遺跡・宮島遺跡・原田遺跡などで箱清水式土器を出土している。中でも、上田原遺跡では、上小地方ではじめて弥生時代後期から古墳時代初頭の周溝墓を確認することができた。遺跡はこの時期に急速に発展し、中之条付近の千曲川沖積氾濫原・上田原台地の西端・浦野川沿いなどに広く分布している。発掘調査によって上田原遺跡・琵琶塚遺跡などが集落として確認されている。

古墳時代の遺跡としては坂下古墳・六句古墳・初太郎古墳・タタラ塚・舟窪古墳群・森ノ木古墳・上平古墳・日天塚古墳・月天塚古墳・原峠古墳などが小牧山系に存在する。城山山系には下河原古墳・半過古墳群・八幡山古墳・日向小泉古墳群が存在している。上田原台地には塚原古墳群・手矢塚古墳群が存在している。いずれも後期の円墳である。また、琵琶塚遺跡など集落遺跡とされるものも多く存在する。

奈良・平安時代は上田・小県地方に信濃国府が設置されて信濃国分寺が造営されたこと、官道である東山道が整備されていたことにより繁栄していたことが推測される。当該地域も、東山道が通過しているとされており、多くの遺跡が存在している。高町遺跡・中沢遺跡・木ノ下遺跡・横堰遺跡・中之条遺跡群・六工・金敷田・大畑・三反田遺跡・殿海道遺跡・塚田・丁田遺跡・中島遺跡・前田遺跡・上田原遺跡・本町遺跡・宮本遺跡・堀之内遺跡・浦田遺跡・蔵之台遺跡・屋敷遺跡・西沖遺跡・箕輪遺跡・堀切遺跡・宮脇遺跡・宮島遺跡・東村・中村・新屋遺跡・原田遺跡など多くが確認されている。また、東村遺跡からは布目瓦が出土しており古代寺院の存在を伺わせる。この地域は「和名抄」などに福田郷として記載されている地域であった。

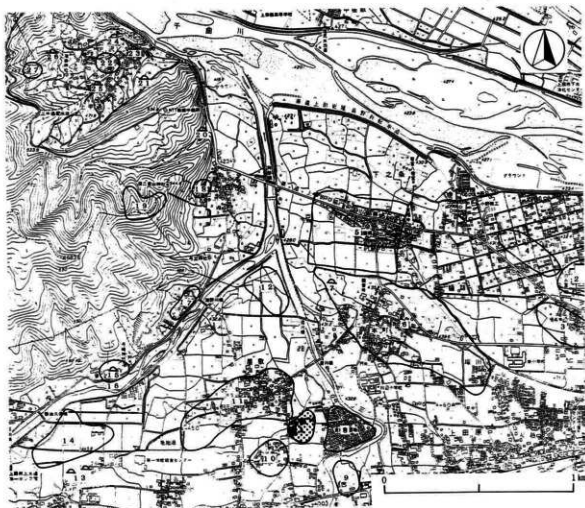
中世以降は、鎌倉時代の小泉庄に属した地域として泉氏の本拠地と考えられている。また、戦国時代には武田晴信と村上義清の争った上田原合戦の古戦場として、倉升山一帯には武田方が陣をすえたことを物語る御陣ヶ入・御陣ヶ原・岳糧山・相図山・物見山などの小字を残しており、産川下流の西には村上氏が陣をすえたと伝える天白山（須々貴山）がある。塚原遺跡からは上田原合戦に関係すると伝えられる五輪塔が出土している。また、付近には板垣信方などの武将の墓が伝承されている。

<参考文献>

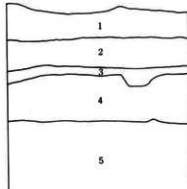
上田市教育委員会「上田市の原始・古代文化」1977

上田小県誌刊行会「上田小県誌（第一巻歴史篇上）」1980

上田市立博物館「発掘された原始・古代」1992



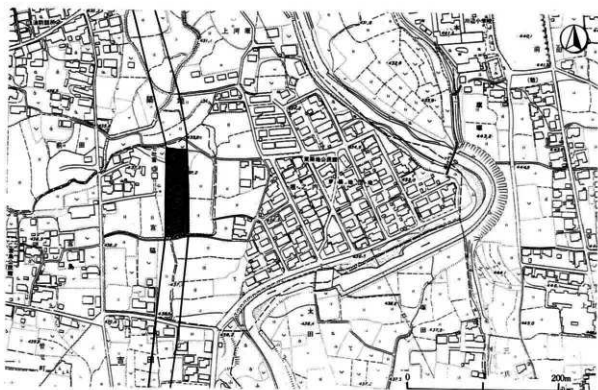
番号	遺跡名	時代	所在地
1	宮脇遺跡	縄文～平安	大字築地 字蔵之台・原敷
2	千曲高校遺跡	弥生～平安	大字中之条 字原敷田
3	西前田遺跡	平安	大字中之条 字西前田・下前田
4	天神堂遺跡	弥生～平安	大字中之条 字天神堂・緑川
5	下之島里太田遺跡	弥生～平安	
6	上田原遺跡	縄文～平安	大字上田原 字本町・中島・坂原
7	坂原古墳群	古墳	大字上田原 字坂原
8	堀之内遺跡	縄文～平安	大字築地字堀之内
9	太田遺跡	弥生	大字 神郷字太田
10	宮島遺跡	縄文～平安	大字古田 字宮島
11	築地遺跡	縄文～平安	大字築地 字蔵之台・原敷
12	浦田遺跡	縄文～平安	大字築地 字浦田
13	徒懸塚古墳	古墳	大字小泉 字徒懸塚・町裏
14	徒懸塚遺跡	弥生～平安	大字小泉 字徒懸塚・町裏
15	八幡山遺跡	古墳	大字小泉 字八幡山
16	八幡山古墳	平安	大字小泉 字八幡山
17	箕輪遺跡	平安	大字築地 字箕輪
18	古原遺跡	弥生	大字築地 字古原敷
19	須々貴城跡	中世	大字下之条 字須々貴山
20	駒場古墳	古墳	大字小泉 字駒場二
21	前沢古墳	古墳	大字小泉 字前沢
22	中の沢遺跡	平安	大字小泉 字中の沢
23	中の沢1号古墳	古墳	大字小泉 字中の沢
24	中の沢2号古墳	古墳	大字小泉 字中の沢
25	中の沢3号古墳	古墳	大字小泉 字中の沢
26	北沢古墳	古墳	大字小泉 字北沢
27	堂の入遺跡	中世	大字小泉 字北沢



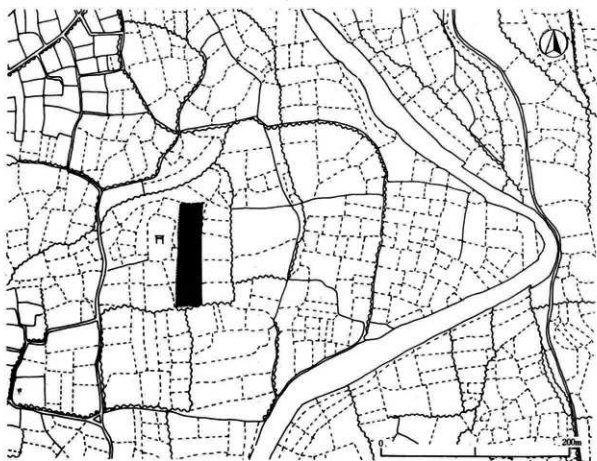
- 1層 … 明灰褐色土層(耕作土・シルト質)
 2層 … 黄褐色土層(粘板層)
 3層 … 褐灰色土層(粘性強い・小石を含む・遺物を含む)
 4層 … 白灰色土層(砂層・粘性強い・小石を含む)
 5層 … 黒褐色土層(地山・粘性強い)

第100図 基本土層

第99図 遺跡位置図



第101図 調査位置図



第102図 調査地公図（明治22年作成公図より）

第三章 遺跡の調査

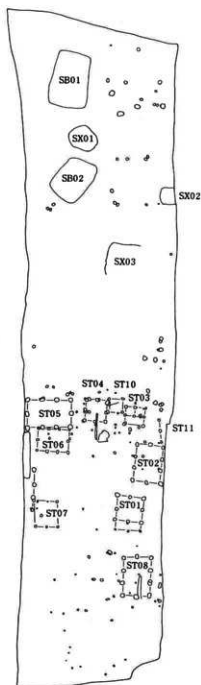
第一節 遺跡の概要

宮脇遺跡は、川西平野の東端で塩田平と川西平野の境目に位置している。南の塩田平から流れてくる産川により形成された氾濫原と西から流れてくるびろく沢（ひる沢）川の自然堤防に展開している遺跡である。産川は遺跡の東側に流れており、川の流れに突き出た堀之内地籍は平坦地を形成している。また、遺跡の北側にはひる沢川とその氾濫原が広がっている。（第99図）

調査地の遺構検出面までの土層は浅く、低地の氾濫原では1層（耕作土）と2層（溶脱層）の下にわずかに包含層である3層（灰黒褐色土層）が形成されている。その下の4層（白灰褐色土層）や5層（灰暗褐色土層）から遺構を検出することができた。また、微高地である自然堤防上では1層（耕作土）直下に砂礫混じりの地山層が形成されており、その砂礫層から遺構を検出することができた。（第100図）

調査地域は南北に細長く、自然堤防を横切る。遺跡は自然堤防上と氾濫原とでは所属時期の異なる遺構がそれぞれ存在している。調査地北側の自然堤防上には主に弥生時代後期から古墳時代前期の遺構が確認された。遺構は堅穴住居跡が4軒確認できた。当該期の遺構はひる沢川に沿って南西に続く自然堤防上に展開していると思われる。調査地南側の氾濫原には主に奈良時代から平安時代にかけての遺構が確認された。調査地域の南端と北端にはほとんど当該期の遺構・遺物が確認できていないことから遺跡は検出できた遺構を中心として大変狭い地域に展開していると思われる。表土及び包含層からの出土遺物のほとんどがこの地域からの出土であり、その遺物のほとんどが奈良時代から平安時代にかけての須恵器であった。遺構は掘立柱建物跡が1棟確認できた。これらは、「コ」の字型に建物が配置されていることが推測される。上小地域の当該期の遺跡は、ほとんどが堅穴住居と掘立柱建物が混在しているのであるが、宮脇遺跡の場合は掘立柱建物のみにより構成されていると思われる。当該期の都である平城京内では堅穴住居が皆無であり、あらゆる建物は掘立柱もしくは礎石建ちとなる。また、一般的集落は堅穴住居と掘立柱建物が混在し、官衙などの役所的建物の配置は「コ」の字或いは「ロ」の字型に配置されるようである。宮脇遺跡において掘立柱建物群が「コ」の字型に配置されていることは律令体制下における官衙などの建物配置を模倣していると考えられる。

また、七社宮を中心としたこの地域一帯は中世の館跡と思われる。その根拠は①神社の境内を方形に囲む如に残る土塁の存在。②発掘調査時に土塁の外側に確認できた堀の跡の存在。③明治22年作成の公図（第102図）から七社宮を中心とした方形の地割りが確認できたこと。④発掘調査地域の地形図等を確認すると②の堀跡の外側に大きな堀があった可能性が読みとれることである。これらのことから堀が方形に巡り、その内部も土塁や小さな堀でいくつかに区画されている館跡と推定できる。このように、単郭でない館の事例は、大町市の清水氏館跡（回字型）などに認められる。また、『長野県における中世考古学の諸問題』（1997長野県考古学会）の市川隆之氏の事例発表によると、善光寺平では館の中心部（屋敷地）の規模は30m・50m・100mの3分類する事ができ、堀配置形態は単独のロ字型・2重の堀となる回字型・田字型などがあると言う。ところで、「上田小県誌歴史篇(上)」によると隣接する東築地の堀之内地籍も館跡に推定されている。しかし、上記の事例と東築地の地籍図や公図から推定すると堀之内地籍は七社宮を中心とした館跡に付属する施設と考えた方がよいと思われる。



第103図 宮脇遺跡全体図

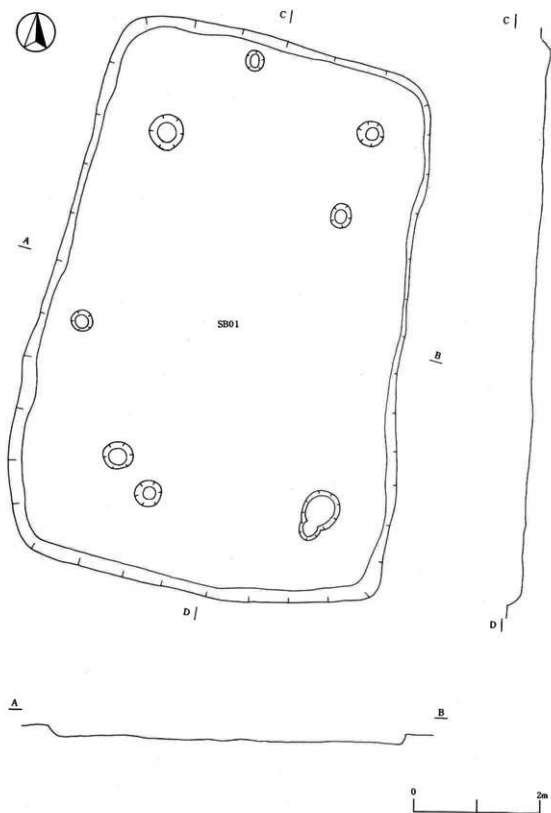
第二節 遺構

宮脇遺跡では竪穴住居跡が4軒、掘立柱建物跡が11棟、堀跡等が確認できた。

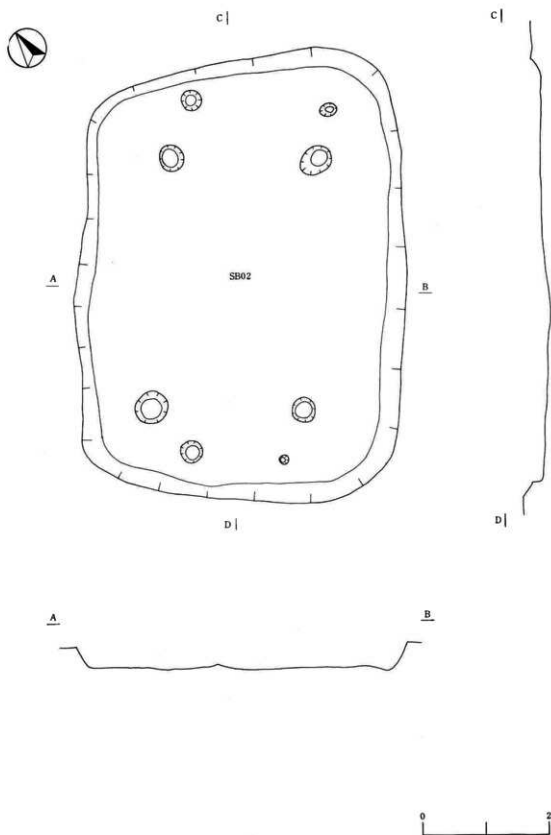
竪穴住居跡は調査地北側を中心に検出されている。1号住居跡はその出土遺物より弥生時代終末のものと思われる。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸約8.8m×短軸約5.8mである。主柱穴は4本であるが地床炉の位置は不明である。住居跡のほぼ中央からは大型の甕(24)が横倒しの状態で出土した。2号住居跡はその出土遺物より古墳時代初頭のものと思われる。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸約6.4m×短軸約4.6mである。主柱穴は4本である。支柱と思われる小さな柱穴がそれぞれの主柱穴の外側に確認された。また、地床炉の位置は不明である。2号竪穴状遺構はその平面形と遺構内の2つの柱穴と思われる土坑を持つことから竪穴住居跡と推定される。ただし、遺物はほとんど出土していない。3号竪穴状遺構は遺構検出時点では焼土が確認されており竪穴住居であったと思われる。しかし、削平が著しく、遺構の平面形は把握することができなかった。出土遺物も確認できなかった。これらの遺構は、3号竪穴状遺構を除き調査地北側の自然堤防上に立地している。集落が自然堤防上に立地していることは①洪水などの自然災害に強いこと。②乾燥地帯である為に衛生的であること。③周囲の後背湿地を水田として開発するために都合がよいことなどが考えられる。当時の自然環境及び集落立地条件が推測できよう。

掘立柱建物跡は調査地南側の低地に検出されている。遺構の配置は「コ」の字形を呈しており、建物の中央部に空間をもつ。掘立柱建物跡は1号掘立柱建物跡から11号掘立柱建物跡までが確認されている。桁行・梁行の揃え方と掘立柱建物の柱穴の切り合い関係から大きく2時期に分けられると思われる。1期は1号・2号・3号・4号掘立柱建物跡・6号掘立柱建物跡・9号掘立柱建物跡が所属するものと思われる。2期には5号掘立柱建物跡・7号・8号掘立柱建物跡・10号・11号掘立柱建物跡が所属するものと思われる。各時期ともに南を正面として配置されており、2間×3間の掘立柱建物を中心となって構成されている。また、廂付の掘立柱建物を配置し格式を高めており、掘立柱建物と竪穴住居が混在していない。調査地内の遺構のみで判断すれば遺跡は掘立柱建物だけで構成されているようである。柱穴の平面形は方形を呈するものもあるが、小型で円形や不整形円形のものが多く、つまり、柱そのものの太さは、それほど太いとは思われない。建物配置については官衙でいうところの正殿・脇殿がはっきりせず、左右が非対称である。建物配置についての強い規制は感じられない。

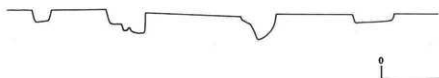
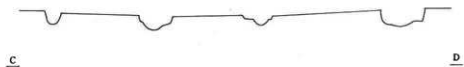
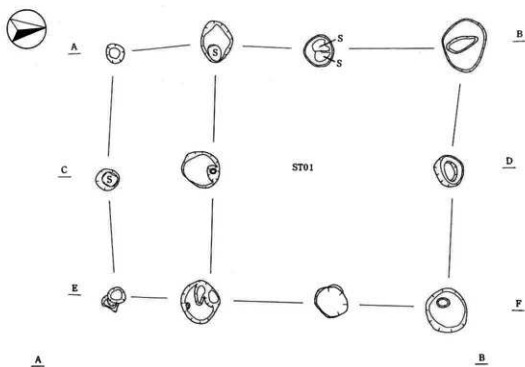
堀跡は七社宮の東側の土塁の外側より確認することができた。この場所は、調査地と七社宮との境であり一部に排水溝が設置されており土塁からの土砂の崩落が著しかった。堀跡は断面形が「V」字を呈する。推定する堀の深さは現在の地表面まで約1mである。また、幅は現在の地表面で推定1.5mから2mとなることが予想される。調査地の地形図からはほぼ中央部の遺構検出面が調査地を東西に横断するように落ち込んでおり、大きな堀であった可能性を残している。ただし、発掘調査や工事の都合上、断面の土層観察を行うことができず推測するに止まらざるを得なかった。この堀跡は地籍図の土地区画からも推定することができ、方形の堀が想定される。土塁は、そのほとんどが調査区域外となるために、排水溝工事により削られている場所の精査のみを行った。その結果、土塁は円礫を多く含んだ土砂により形成されていることが確認された。特に、土塁上層部には約20cm程のほとんど円礫のみの層も確認された。また、堀底から残存する土塁頂部までの比高差は約1.5mであった。



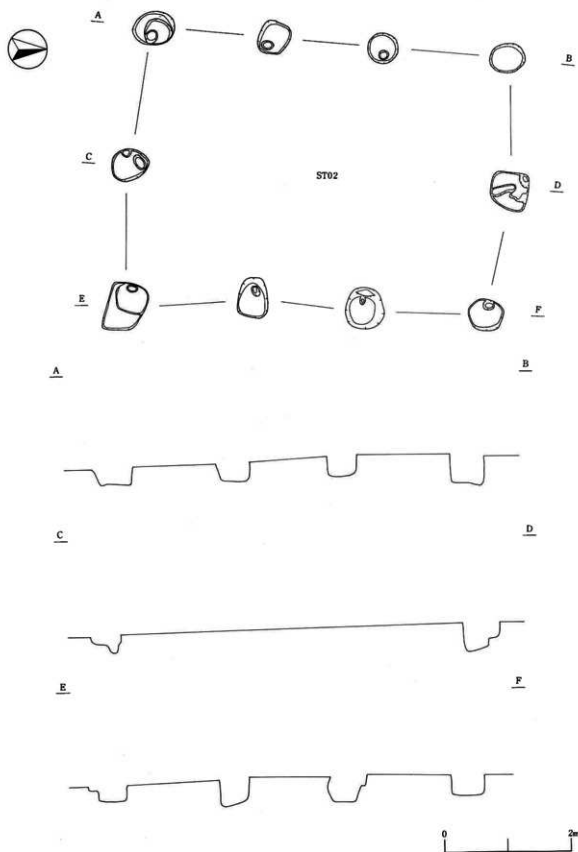
第104図 1号住居跡



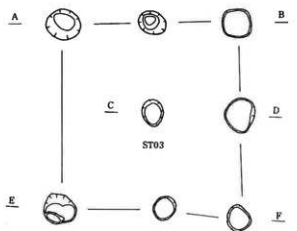
第105図 2号住居跡



第106图 1号掘立柱建物跡



第107图 2号掘立柱建物跡



A

B



C

D

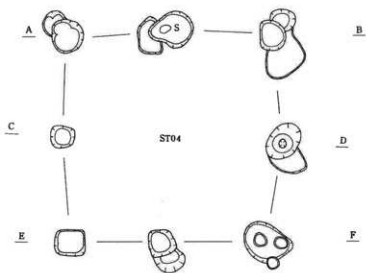


E

F



第108图 3号掘立柱建物跡



A

B

C

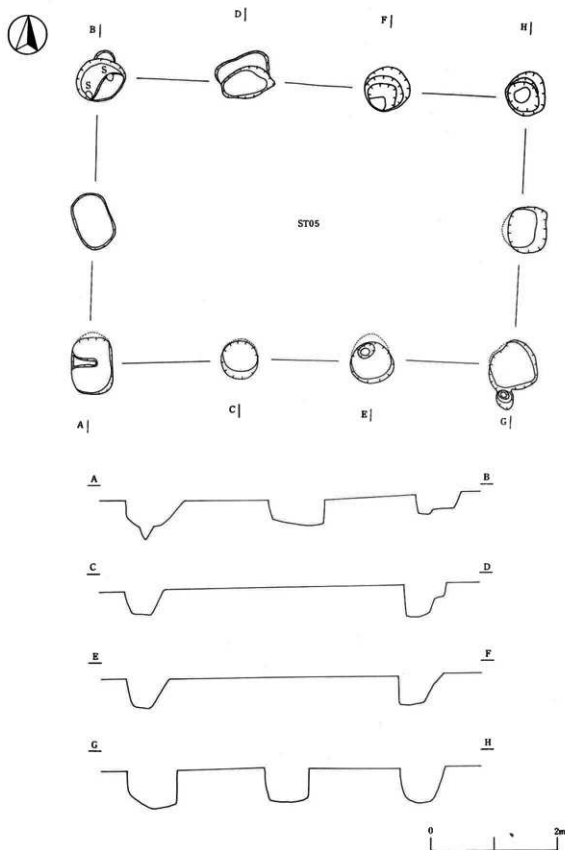
D

E

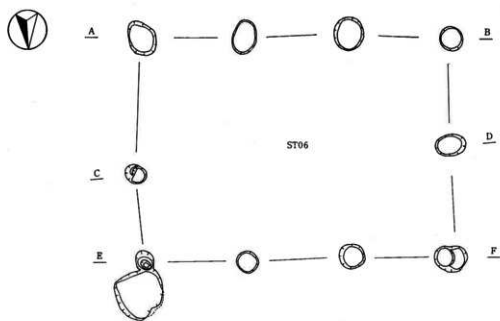
F



第109图 4号掘立柱建物跡



第110图 5号掘立柱建物跡



A

B

C

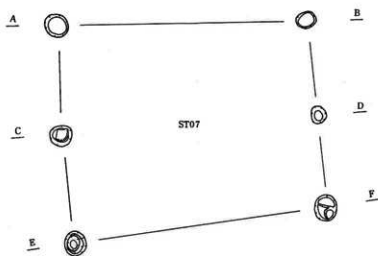
D

E

F



第111图 6号掘立柱建物跡



A B



C D

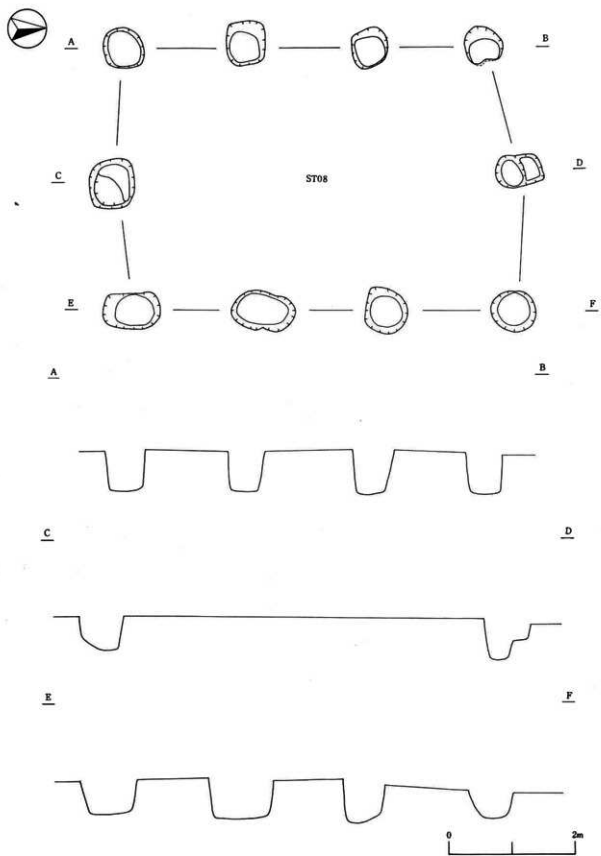


E F

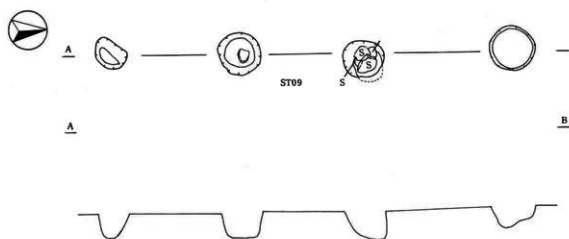


0 2m

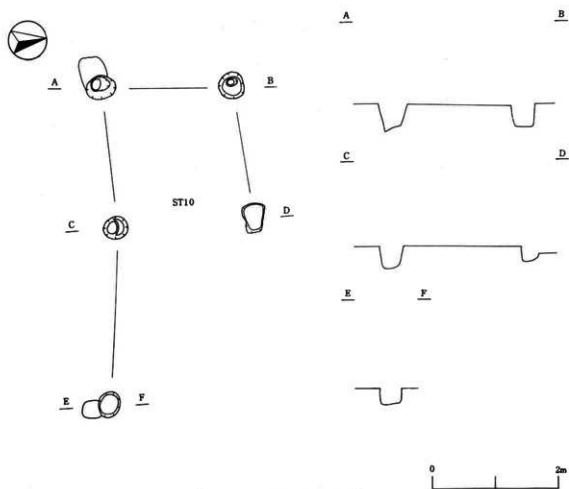
第112图 7号掘立柱建物跡



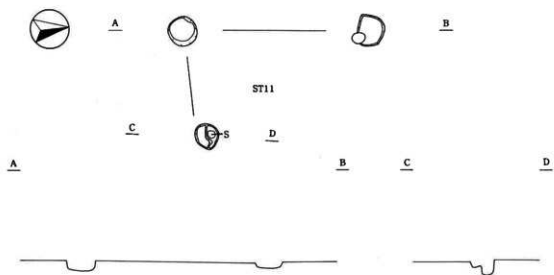
第113圖 8号掘立柱建物跡



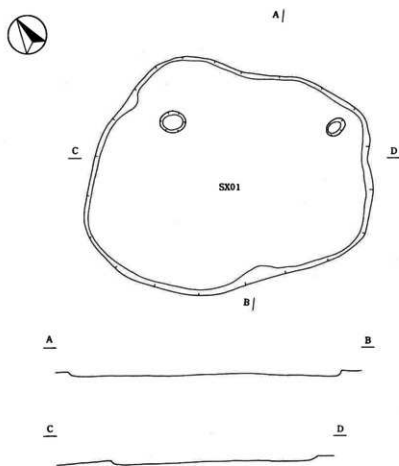
第114図 10号掘立柱建物跡



第115図 9号掘立柱建物跡

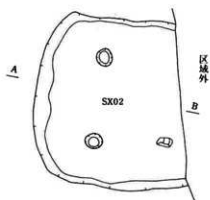


第116圖 11号掘立柱建物跡

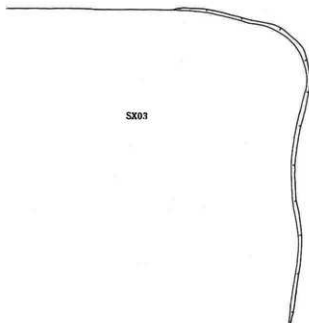


第117圖 1号竪穴状遺構





第118图 2号竖穴状遺構



第119图 3号竖穴状遺構

遺構観察表
竪穴住居

No	時期	平面形	主軸方向	炉又はカマド	柱 穴	その他の 屋内施設	出土 遺 物	備 考
SB01	弥生時代終末	隅丸長方形	N-12°-E	不 明	4	不明	1～24・97	
SB02	古墳時代初頭	隅丸長方形	N-39°-E	不 明	4	各主柱穴の外側に支柱 と思われる小穴を持つ。	25～67・91・99	

掘立柱建物

No	時 期	規 模	主軸方向	柱の数	備 考
ST01	奈良～平安	2間×2間	N-2°-W	8	南側に3本の廂柱をもつ。
ST02	奈良～平安	2間×3間	N-7°-E	10	
ST03	奈良～平安	2間×2間	N-5°-E	8	
ST04	奈良～平安	2間×2間	N-5°-E	8	建て替えが行われていると思われる。
ST05	奈良～平安	2間×3間	N-90°-E	10	
ST06	奈良～平安	2間×3間	N-94°-E	10	
ST07	奈良～平安	2間×1間	N-2°-E	6	
ST08	奈良～平安	2間×3間	N-1°-W	6	南側に溝をもつ。
ST09	奈良～平安	3間×	N-1°-E	4	西側は調査区域外に続く。
ST10	奈良～平安	1間×1間	N-1°-E	4	
ST11	奈良～平安	2間×	N-1°-E	3	東側は調査区域外に続く。

その他

遺 構	時 期	平 面 形	特 徴
SX01	不 明	不整円形	
SX02	不 明	方形又は長方形	2本の柱穴状の穴があり、竪穴住居であった可能性がある。
SX03	不 明	方形又は長方形	遺構検出時点では、焼土が確認できた為、竪穴住居であった可能性がある。

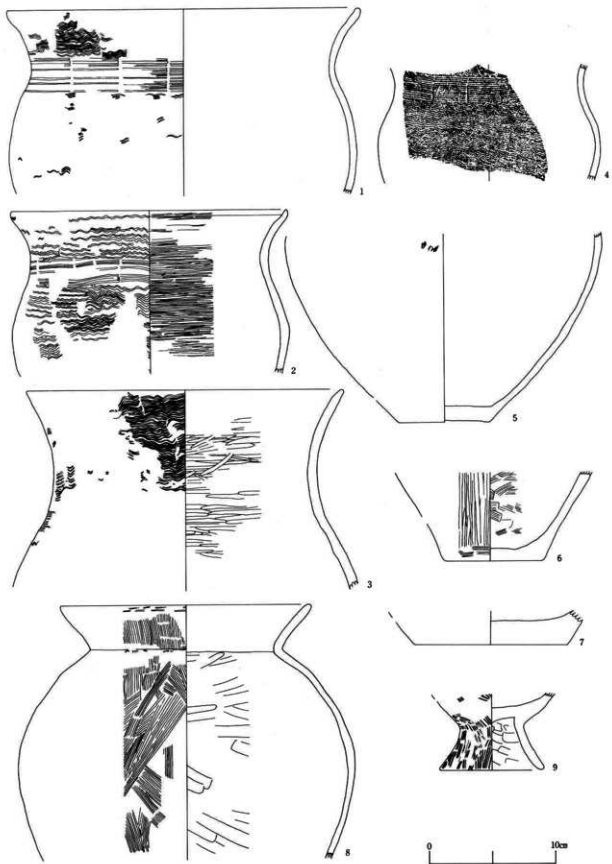
第三節 遺物

遺物は、その所属時期から①弥生時代終末から古墳時代初頭の時期と②奈良時代から平安時代初頭の2時期に分けることができる。

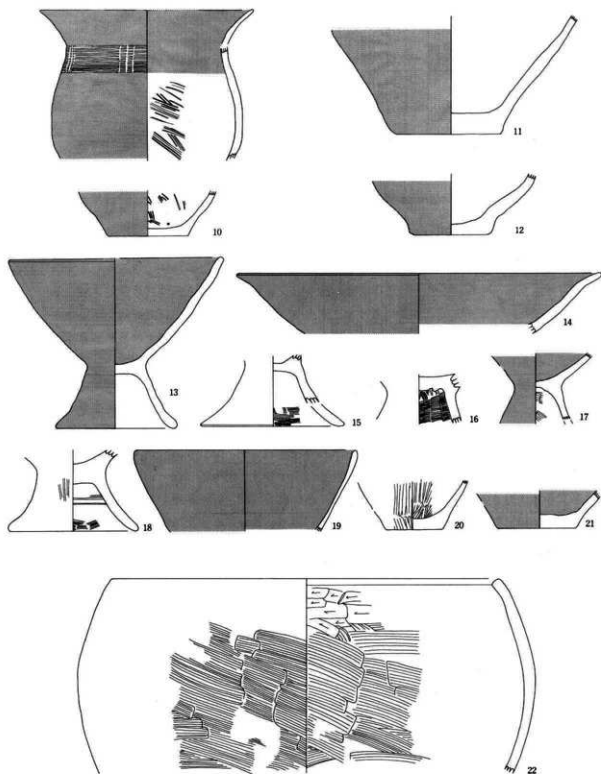
①弥生時代終末から古墳時代初頭の遺物は1号住居跡と2号住居跡を中心として出土している。1号住居跡では甕・壺・高坏・鉢などが出土している。甕(1～8)は器面に波状文を施した箱清水式系のものを中心としている。また、胴部が球形で器面にハケ調整を施した土器(8)も出土している。焼成は硬く緻密である。壺は、器面に赤彩を施しているもの(11・12)と赤彩の施されていないもの(24)がある。24は住居跡床面に横倒しの状態で出土している。形状は頸部と底部が小さいにも係わらず胴部が大きく張り出しており、不安定な器形を呈している。胴部下半は箱清水式の壺に見られるような後縁を伴ったくびれをもつ。口縁部は意識的に取り除かれており、その割れ口はきれいに調整されている。壺棺とも考えられるほどの大きさがあり、その用途が注目される。高坏は赤彩された箱清水式系のもの(13～17)を中心としている。鉢も積載された箱清水式系のもの(19～21)が中心となっている。その他に赤彩され頸部に麻状文をもつ甕型土器(10)、赤彩された壺(23)が出土している。いずれも箱清水式系のものである。また、このような在地系の土器群の中に箱清水式土器の系譜からは辿ることができないと思われる土器(8・22・24)が混じっている。22は外面がハケ調整された深鉢状の土器である。その他の遺物としては磨石(97)が出土している。2号住居跡では甕・壺・高坏・器台・鉢などが出土している。甕は胴部が球形で口縁部に面取りを施したものの(34・35・36・37)が中心となる。また、台付甕(25・26・42)も存在する。壺は箱清水式系(44・45)のものと外来系(43・46・47)のものが出土している。47は胴部下部に円形の穴をもつ特異なものである。高坏(50～56)は赤彩された在来系のもの(50・54・55・56)と新しい情報を取り入れたもの(51・52・53)とが出土している。器台(57～63)は古墳時代初頭に新たに加わった器種であるが、当該遺跡では北陸系(57・58)と東海系(59)の2系統のものとあると思われる。その他の遺物としては打製石鏃と鉄滓が出土している。打製石鏃は黒曜石製のものと恐らく縄文時代のものであろう。鉄滓は碗型滓である。これは、2号住居跡では①住居跡の一部に攪乱が入っていること。②鍛冶関連の施設は確認できなかったこと。③古墳時代初頭の遺物に混じり土師器と須恵器が出土していることにより他の時期や遺構等の異物が混入したと思われる。

②奈良時代から平安時代初頭の遺物は覆土を中心として出土している。宮脇遺跡では当該期の遺構が堀立柱建物を中心としたものである為に遺物が覆土に混入せざるを得なかったと思われる。土器は須恵器と土師器に分けられる。土師器は、破片のみで器形を知り得るものは無かった。須恵器には坏(68～77)、甕(78～80)、壺(81・82)、高坏(83)がある。器形及び製作技法から奈良時代後期から平安時代初頭にかけたの時期の土器であると思われる。土師器には坏(87)がある。これは、地元の方が調査地付近の畑より掘り出したものらしい。内面に黒色処理を施し、外面には刻書が施されている。器形及び製作技法から9世紀前半頃のものと思われる。

その他、磨製石鏃や砥石などが表土より出土している。磨製石鏃はその形態から弥生時代後期のものとされる。また、七社宮を中心とした館跡に係わる遺物は確認することができなかった。

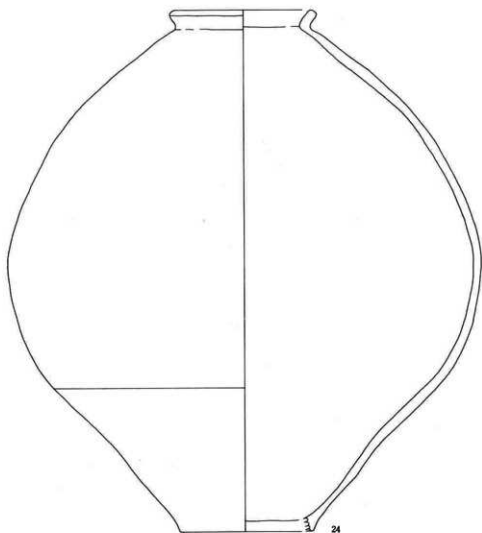


第120图 1号住居跡出土土器

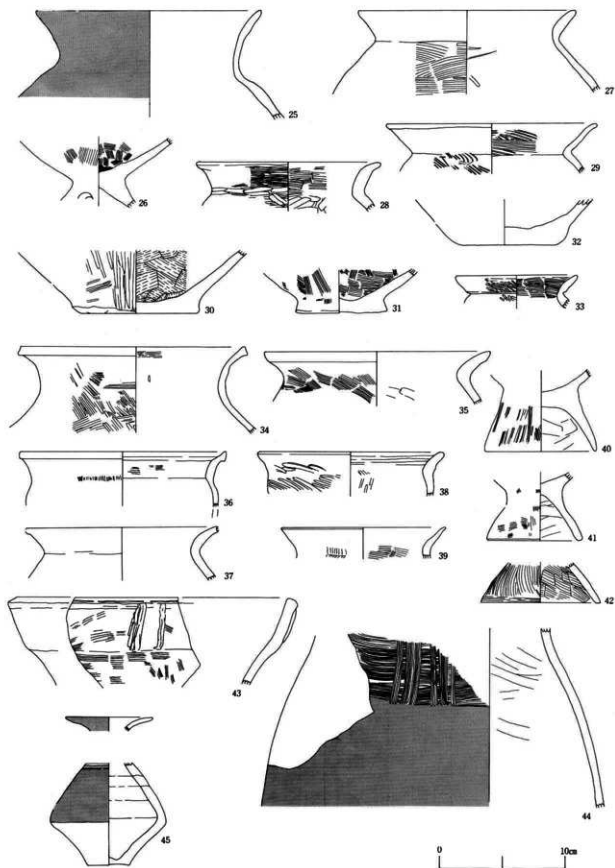


0 10cm

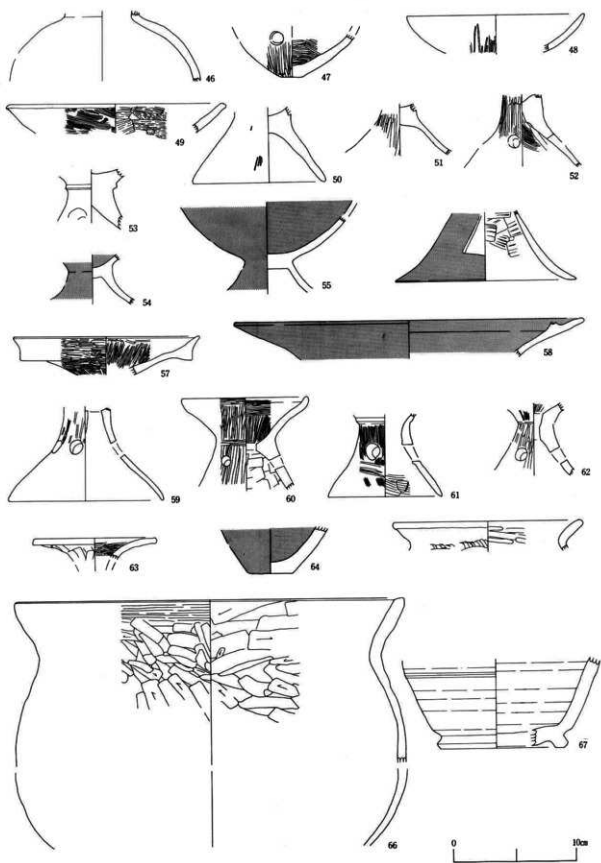
第121图 1号住居跡出土土器



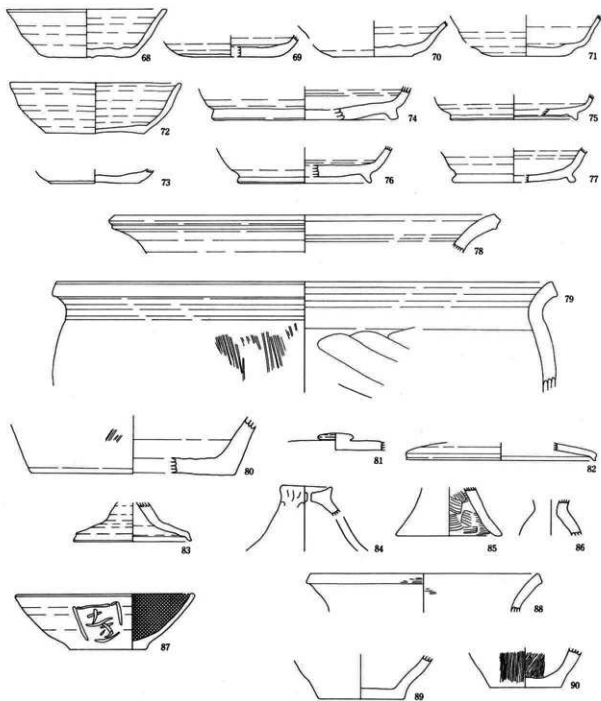
第122图 1号住居跡出土土器



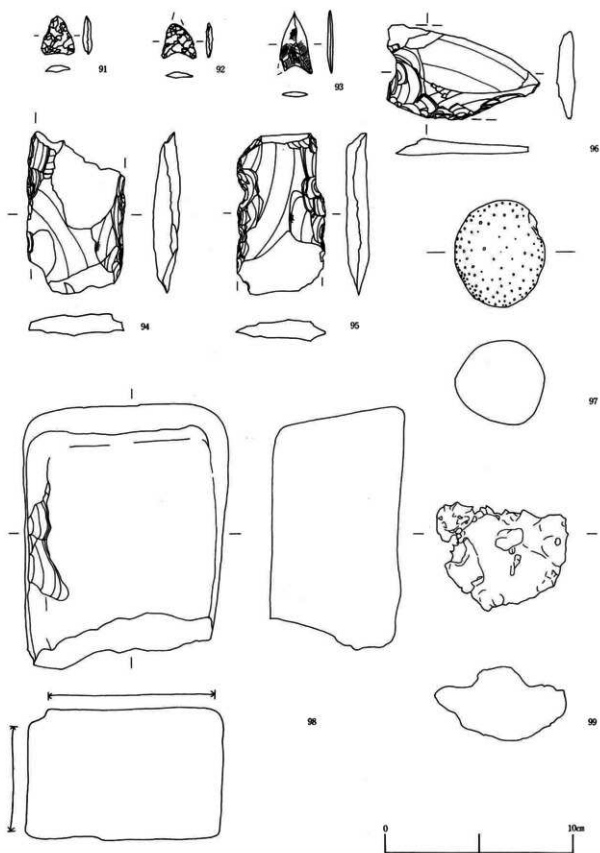
第123图 2号住居跡出土土器



第124图 2号住居跡出土土器



第125図 遺構外出土土器



第126図 石器・その他

出土土器観察表

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
1	SB01	A 甕 C 波状文・簾状文 D 器面荒れている	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
2	SB01	A 甕 C 波状文・簾状文	a 明褐 b 砂粒を含む c 良好	1/2(口縁)
3	SB01	A 甕 C 波状文 D 器面荒れている	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
4	SB01	A 甕 C 波状文・簾状文	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(胴部)
5	SB01	A 甕 C 波状文 D 器面荒れており調整等不明	a 赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/3(胴部～底部)
6	SB01	A 甕	a 明褐 b 砂粒を含む c 良好	底部
7	SB01	A 甕	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/3
8	SB01	A 甕 D ハケ調整	a 褐灰 b 砂粒を含む c 良好	1/3
9	SB01	A 台付甕 D ハケ調整	a 暗赤褐 b 砂粒を含む c 良好	台部
10	SB01	A 甕形土器 C 簾状文 D 外面に赤彩	a 黄橙 b 砂粒を含む c 良好	2/3
11	SB01	A 甕 D 外面に赤彩	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	底部
12	SB01	A 甕 D 外面に赤彩	a 灰白 b 砂粒・小石を含む c 良好	底部
13	SB01	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩	a 赤褐 b 砂粒を含む c 良好	ほぼ完形
14	SB01	A 高坏 D 内外面に赤彩	a 明褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(坏部)
15	SB01	A 高坏 D 外面に赤彩	a 暗赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(脚部)
16	SB01	A 高坏 D 表面荒れており調整等不明	a 赤褐 b 砂粒を含む c 良好	接合部
17	SB01	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	接合部
18	SB01	A 台付甕	a にぶい赤褐 b 砂粒を含む c 良好	台部
19	SB01	A 鉢 D 内外面に赤彩	a 赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
20	SB01	A 甕	a 暗赤褐 b 砂粒を含む c 良好	底部
21	SB01	A 鉢 D 内外面に赤彩	a 赤褐 b 砂粒を含む c 良好	底部
22	SB01	A 鉢	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/3(口縁)
23	SB01	A ふた D 内外面に赤彩	a 赤褐 b 砂粒を含む c 良好	天井部
24	SB01	A 甕 B 胴が張り底部が非常に小さい	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2
25	SB02	A 台付甕 D 外面にわずかに赤彩の痕跡を残す26と同一の個体と思われる	a 褐 b 砂粒を含む c 不良	2/3(口縁)
26	SB02	A 台付甕 D 25と同一個体と思われる。脚部に円形透窓を3ヶ所にもつ。	a にぶい赤褐 b 砂粒を含む c 不良	
27	SB02	A 甕	a 赤褐 b 砂粒を含む c やや不良	1/4(口縁)

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
28	SB02	A 甕	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2(口縁)
29	SB02	A 甕	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
30	SB02	A 甕	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	底部
31	SB02	A 甕	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	2/3(底部)
32	SB02	A 甕 D 底部に葉圧痕をもつ。	a 黒褐 b 砂粒を含む c 良好	底部
33	SB02	A 甕	a 暗赤褐 b 砂粒を含む c やや不良	1/4(口縁)
34	SB02	A 甕 D 口唇部に面取りを施す。	a 明赤褐 b 砂粒を含む c 良好	口縁
35	SB02	A 甕 D 口縁部に稜線をもつ。	a 黒褐 b 砂粒を含む c 良好	1/5(口縁)
36	SB02	A 甕 D 口縁部に面取りを施す。器面が荒れている。	a 赤褐 b 砂粒を含む c やや不良	1/4(口縁)
37	SB02	A 甕	a 明赤褐 b 砂粒を含む c やや不良	1/4(口縁)
38	SB02	A 鉢? C 口縁部がわずかに外反する。	a 暗赤褐 b 砂粒を含む c やや良好	1/4(口縁)
39	SB02	A 甕	a にぶい褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
40	SB02	A 台付甕	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(台部)
41	SB02	A 台付甕	a 赤褐 b 砂粒を含む c 良好	台部
42	SB02	A 台付甕	a 褐灰 b 砂粒を含む c 良好	1/3(台部)
43	SB02	A 壺 D 口縁部に2本の隆帯をもつ。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/8(口縁)
44	SB02	A 壺 C 頸部にT字文を施し外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(胴部)
45	SB02	A 壺 C 頸部に横沈線をもつ。 D 外面に赤彩を施す。器面荒れている。	a 橙 c やや不良	2/3
46	SB02	A 壺 D 器面荒れている。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2(胴部)
47	SB02	A 壺? B 胴部に比べて小さい底部をもつ。 D 円形の穴が胴部に認めらる。	a 暗赤褐 c 良好	胴部～底部
48	SB02	A 高坏	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/8(口縁)
49	SB02	A 甕	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
50	SB02	A 高坏 D 器面荒れており、調整等不明。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c やや不良	脚部
51	SB02	A 高坏	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(脚部)
52	SB02	A 高坏 D 脚部に円形透穴を3ヶ所にもつ。	a 褐灰 b 砂粒を含む c 良好	1/2(脚部)
53	SB02	A 高坏 D 脚部に円形透穴を3ヶ所にもつ。接合部にわずかな隆帯をもつ。	a 橙 c 良好	1/3(脚部)

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
54	SB 0 2	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。	a 暗赤褐 b 砂粒を含む c 良好	
55	SB 0 2	A 高坏 D 坏部内面・外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c やや不良	2/3
56	SB 0 2	A 高坏 D 外面に赤彩を施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(脚部)
57	SB 0 2	A 器台	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(受部)
58	SB 0 2	A 器台 D 内・外面に赤彩を施す。	a にぶい橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(受部)
59	SB 0 2	A 器台 D 脚部に円形透穴を4ヶ所にもつ。円形透穴は2つで一組となり、2対ある。器面荒れており、調整等不明。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	脚部
60	SB 0 2	A 器台 D 脚部に円形透穴を3ヶ所にもつ。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4
61	SB 0 2	A 器台 D 脚部に円形透穴を3ヶ所にもつ。	a 暗赤褐 b 砂粒を含む c 良好	2/3(脚部)
62	SB 0 2	A 器台 D 脚部に円形透穴を6ヶ所にもつ。48と同一個体である可能性がある。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/2(脚部)
63	SB 0 2	A 器台? D 受部の端部を面取りしている。	a 赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/4(受部)
64	SB 0 2	A 鉢 D 内・外面に赤彩を施す。	a 暗赤褐 b 砂粒を含む c 良好	底部
65	SB 0 2	A 甕	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4(口縁)
66	SB 0 2	A 甕	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/4
67	SB 0 2	A 壺(須恵器) B 底部に高台が付く。 C 胴部に2本の沈線が確認できる。	a 褐灰 b 砂粒を含む c 良好	1/4(底部)
68	表土・覆土	A 坏(須恵器) D 底部回転ヘラケズリ	a 褐灰 c 良好	2/5
69	表土・覆土	A 坏(須恵器) D 底部回転ヘラケズリ	a 褐灰 c 良好	1/2(底部)
70	表土・覆土	A 坏(須恵器) D 底部ヘラ調整	a 灰白 c 不良	底部
71	表土・覆土	A 坏(須恵器) D 底部回転ヘラケズリの後ヘラ調整	a 褐灰 c 良好	底部
72	表土・覆土	A 坏(須恵器) D 底部回転糸切り	a 褐灰 c 良好	1/4
73	表土・覆土	A 坏(須恵器) D 底部回転ヘラケズリ	a 褐灰 c 良好	1/4(底部)
74	表土・覆土	A 坏(須恵器) B 底部に付け高台をもつ。D 底部回転ヘラケズリ	a 褐灰 c 良好	1/4(底部)
75	表土・覆土	A 坏(須恵器) B 底部に付け高台をもつ。D 底部回転ヘラケズリ	a 褐灰 c 良好	1/5(底部)
76	表土・覆土	A 坏(須恵器) B 底部に付け高台をもつ。D 底部回転ヘラケズリ	a 褐灰 c 良好	1/4(底部)
77	表土・覆土	A 坏(須恵器) B 底部に付け高台をもつ。D 底部回転ヘラケズリ	a 褐灰 c 良好	1/4(底部)

No	出土遺構名	A 器種 B 器形 C 文様 D その他	a 色調 b 胎土 c 焼成	残 率
78	表土・覆土	A 甕 (須恵器)	a 褐灰 c 良好	1/7(口縁)
79	表土・覆土	A 甕 (須恵器) D 外面にタタキ目をもつ。	a 褐灰 c 良好	1/10(口縁)
80	表土・覆土	A 甕 (須恵器) D 外面にタタキ目をもつ。	a 褐灰 c 良好	1/6(底部)
81	表土・覆土	A ふた (須恵器) B ボタン状つまみをもつ。	a 褐灰 c 良好	つまみ部
82	表土・覆土	A ふた (須恵器)	a 褐灰 c 良好	1/8(口縁)
83	表土・覆土	A 高坏 (須恵器)	a 褐灰 c 良好	1/5(脚部)
84	表土・覆土	A ふた D つまみ部に穴を一つもつ。器面荒れており調整等不明。	a にぶい黄褐 b 砂粒を含む c 良好	1/3
85	表土・覆土	A 高坏	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	脚部
86	表土・覆土	A 器台 D 脚部に円形透穴を3ヶ所にもつ。器面荒れており調整等不明。	a 黒 b 砂粒を含む c 良好	1/2(脚部)
87	表土・覆土	A 坏 B 体部外面に「口の中に寺」を入れたような刻書をもつ。 D 底部回転糸切り。調査地付近の畑より出土した土器であるらしい。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	完形
88	表土・覆土	A 甕 D 口縁部に面取りを施す。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	1/8(口縁)
89	表土・覆土	A 甕 D 器面荒れており調整等不明。	a 橙 b 砂粒を含む c 良好	2/3(底部)
90	表土・覆土	A 甕	a にぶい赤褐 b 砂粒を含む c 良好	1/2(底部)

出土石器観察表

No	出土遺構	名 称	石 材	特 徴
9 1	SB 0 2	打製石鏃	黒曜石	
9 2	表 土	打製石鏃	黒曜石	
9 3	表 土	磨製石鏃	緑泥片岩	基部に穴を1つもつ。
9 4	不 明	打製石斧	頁岩	
9 5	表 土	打製石斧	頁岩	
9 6	不 明	横刃型石器	頁岩	
9 7	SB 0 1	磨石	安山岩	
9 8	不 明	砥石	硬質砂岩	

その他遺物観察表

No	出土遺構	名 称	材 質	特 徴
9 9	SB 0 2	鉄滓		碗形滓

第四節 まとめ

<弥生時代終末～古墳時代初頭>

確実に当該期の遺構と判断できるものとしては竪穴住居跡がある。1号住居跡は長軸約8.8m×短軸約5.8mであり、大型住居である。当該住居からは箱清水式の甕・壺・高坏などが出土している。その器形等から弥生時代終末の土器と思われる。また、相伴する土器として器面ハケ調整を施したもの(8・22)や大型で器高が80cmを越えるもの(24)がある。2号住居跡は長軸約6.4m×短軸約4.6mである。当該住居からは無文の土師器の甕を中心に壺・高坏・器台などが出土している。これらは器形等から古墳時代初頭の土器と思われる。また、それぞれの器種には外来系の土器が認められる。甕は北陸系の土器(29・34・35・36・37)などの影響が多く見られる。壺には東海系(43)の土器の影響がみられる。器台にも北陸系(57・58)や東海系(59)の影響をもつものがある。また、箱清水式の土器(45)もわずかに残るようである。当該期は、在地系である箱清水式系の土器群が無文の土師器という新しい個性の土器群に取って代わる時期である。つまり、器種・器形・形態などが東海地方・北陸地方をはじめ、他の地方からの影響により変化している。それは、単純に他の地方の土器を受け入れるだけでなく①在地系の土器に新しい情報を取り入れた折衷様式の土器を作り出したり、②不正確な情報から他の地方の土器を模倣する行為が生じていると思われる。その為、在地系の土器ではないが外来系のものとも言えない土器を生じさせていると思われる。このことから、弥生時代から古墳時代へ移り変わる端境期とよばれる時期に1号住居跡から2号住居跡へと継続して営まれていたと思われる。

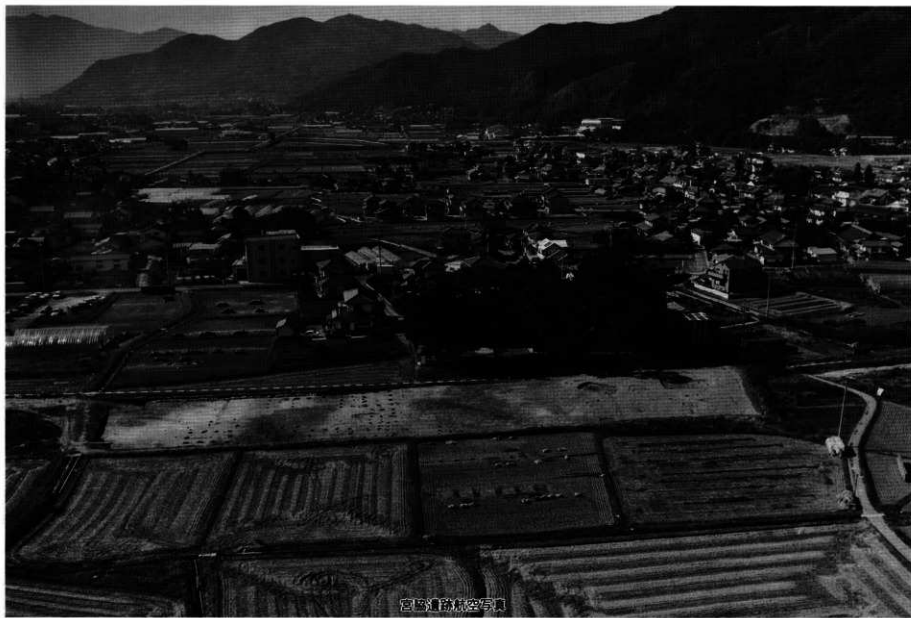
<奈良時代～平安時代>

調査地の南側から検出された堀立柱建物群は、その配置が「コ」の字形に計画性をもって配置されている。この地区から出土した須恵器はその所属時期を製作技法や器形から8世紀第三四半期以降と考えることができる。このことから、堀立柱建物群も奈良時代後期から平安時代初頭にかけての遺構とみることができる。この遺構を律令体制下の遺跡として捉えたと、いかなる性格のものになるのだろうか。一般の集落から官衙関係の施設に至るまでの遺跡の性格を踏まえて、若干の考察を試みたい。まず、宮脇遺跡の堀立柱建物群の遺物・遺構の特徴を要約してみる。①遺構に伴うと思われる須恵器などの遺物からは、施釉陶器や墨書土器・硯などの文字関係の遺物は認められなかった。また、土器類には坏などの食器類は比較的多く確認された。②遺構は堀立柱建物のみであり、竪穴住居を伴っていることは確認できない。③堀立柱の掘り方は、小型で円形や不整形円形のものが多い。④堀立柱建物の桁行きは大きなもので3間で、梁行は2間である。桁行きは全長5m以下である。⑤所属時期は堀立柱建物の方位と配置により2時期に分けることができる。このような特徴をもつ堀立柱建物群は①一般的な集落は竪穴住居と堀立柱建物により形成されていると考えられる。②建物配置の規制が弱く、文字関係の遺物も少なく官衙関係の施設とは言い切れない。③しかし、堀立柱建物群は役所的建物配置である計画性のある「コ」に字形の配置をしている。このことから一般的な集落とは言い難く、有力者のムラ或いは館と思われる。

<中世>

七社宮の土塁の一部と堀跡の調査によって発掘調査地を含めた付近一帯が中世の方形館の跡である可能性が出てきた。館の範囲は七社宮を中心として堀之内地蔵までが館とその付属する館域と考えることができよう。堀之内館跡は大字築地字堀之内にあり、七社宮は大字吉田字宮脇にある。当該館はひる沢川を利用水路として管理・利用し、開発の異なる地区(大字)の字境に館を構えたものと考えたい。





宮崎道跡航空写真



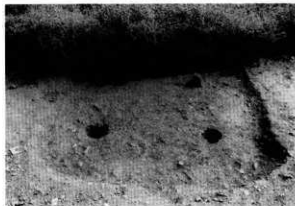
SB 01



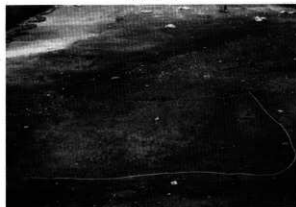
SB 02



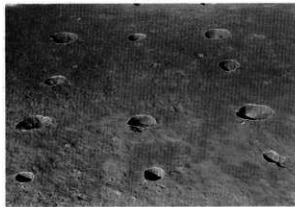
SX 01



SX 02



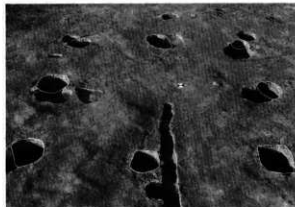
SX 03



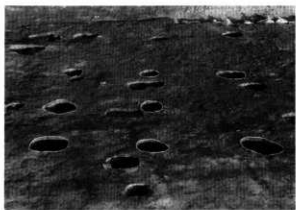
ST 01



ST 02



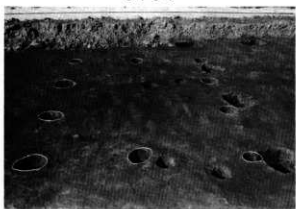
ST 03



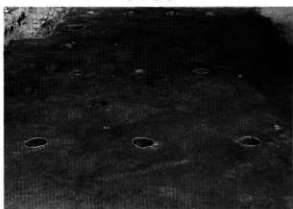
ST04



ST05



ST06



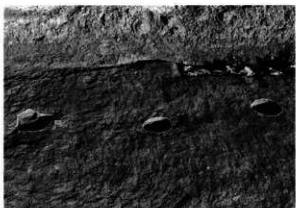
ST07



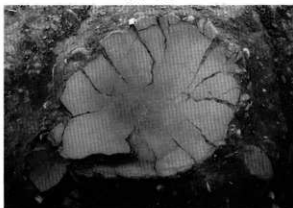
ST08



ST09



ST11



土器(24)出土状況



七社宮土壘



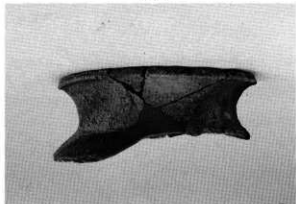
調査団



No.13



No.23



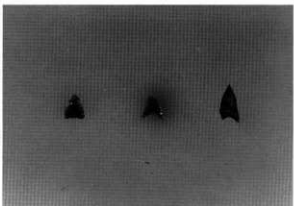
No.34



No.45



No.87



No.91・92・93

報 告 書 抄 録

ふ り が な	うらたえい・みやわきいせき
書 名	浦田A・宮脇遺跡
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	上田市文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第66集
編 著 者 名	尾見智志
編 集 機 関	上田市教育委員会
所 在 地	☎386-0025 長野県上田市天神二丁目4番74号 TEL0268(23)5102
発 行 年 月 日	1998年 3月20日

所収遺跡名	所在地	コ ー ド		北緯 東経 ° ' "	調 査 期 間	調 査 面 積 ㎡	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号				
うらたえいせき 浦田A遺跡	うらたえ 上田市 おおあざついで 大字築地 あざうらた 字浦田	20203	108	36° 43' 884" 138° 25' 956"	1996年 9月20日～ 1月20日	2,911㎡	道路建設
みやわきいせき 宮脇遺跡	うらたえ 上田市 おおあざよしだ 大字吉田 あざみやわき 字宮脇	20203	112	36° 43' 272" 138° 25' 776"	1996年 6月14日～ 10月25日	2,451㎡	道路建設

所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
うらたえいせき 浦田A遺跡	集落跡	弥生時代後期 ～平安時代	竪穴住居36軒 掘立柱建物16棟 溝11本 土坑他	弥生土器・土師器・ 須恵器・石器	弥生時代終末から 古墳時代初頭の外 来系土器の良好な 資料が出土した。
みやわきいせき 宮脇遺跡	集落跡	弥生時代後期 ～平安時代	竪穴住居4軒 掘立柱建物11棟 溝3本 土坑他	弥生土器・土師器・ 須恵器・石器	

お わ り に

本書が刊行されるまでには、約2年間の発掘調査と整理作業を費やすこととなった。調査は期待以上の成果を上げることができた。本書は、その成果を表現する重要な手段である。しかし、担当者の経験不足の為、言いたいことを十分に述べることが出来ず、分かり易く表現できたかはなほ疑問である。また、知識の不足のために多くの誤りがあると思われる。ご容赦願いたい。

さて、本書が上梓されるまでには多くの方々の御協力・ご理解・ご支援をいただくことが出来た。とりわけ、夏の暑い日や冬の寒い日にも元気に発掘作業に従事してくださった作業員の皆様にはご苦勞をおかけした。特に、発掘調査が行われた年は例年になく夕立の多い年であり、調査現場は何度も水没をした。また、冬には雪のために何度も現場が埋まってしまった。このような条件の下でも黙々と現場復旧作業をしてくださった作業員の皆様には、頭の下がる思いである。次回のチャンスというものがあるならば、この経験を生かした発掘調査を行い報告書を作成したい。

最後に、浦田・宮脇遺跡発掘調査に係わったすべての関係者に深い謝意を表して終わりとしたい。

上田市文化財報告書 第66集
浦田A・宮脇遺跡発掘調査報告書

発行 平成10年3月20日
発行者 上田市教育委員会
上田建設事務所
印刷 (有)アオヤギ印刷

上田市 庁舎 558-11
0268-23-5588